

## 4-3 心理学

### 研究・教育活動の概要と特色

心理学専攻分野の教員は、現在、教授3名、准教授2名、助教1名の6名構成である。それぞれの専門は応用認知心理学、社会・犯罪心理学、認知心理学、社会・生理心理学、文化心理学と、他領域にわたっている。基礎研究から社会の多様な方面と連携した応用的な研究まで、研究の幅が広いことは、本専攻分野の大きな特色である。他の学問領域・機関と連携した共同研究、海外の研究者との共同研究も多い。学部、大学院とも、卒業生は、学・官・民の多様な社会的分野で、バランスのよい活躍をしている。教員の研究は国際的水準の成果をあげている。また教育の結果である大学院生の研究発表の生産性は高く、とくに国際的学会や国際的ジャーナルでの発表を行う院生が多いことは、文学研究科内でも突出している。その結果、日本学術振興会特別研究員としての採用も着実である。21世紀COE、グローバルCOEの中核的なメンバーとして活動している教員の指導のもとに、COE研究員に採用される大学院生もいる。研究成果を、公開講座や公開シンポジウム等で社会的に還元する努力も十二分になされている。

### I 組織

#### 1 教員数（2009年9月末現在）

教授：3

准教授：2

講師：0

助教：1

教授：仁平義明、大淵憲一、行場次朗

准教授：阿部恒之、辻本昌弘

助教：荒木剛

#### 2 在学生数（2009年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
49	1	9	16	0

### 3 修了生・卒業生数（2005～2009年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	16	5	5
06	15	8	4
07	17	6	4
08	16	6	3
09	0	0	1
計	64	25	17

\*2009年度は、9月末までの数字

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	5	0	5
06	3	0	3
07	4	0	4
08	1	0	1
09	0	0	0
計	13	0	13

\*2009年度は、9月末までの数字

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

八田武俊、2005年度、『電子メディア交渉に関する社会心理学的研究』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・畑山俊輝、教授・仁平義明、教授・行場次朗、教授・正村俊之

戴伸峰、2005年度、『日本と台湾における非行の原因認知と厳罰化態度に関する社会心理学的研究』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・仁平義明、教授・行場次朗、助教授・阿部恒之、助教授・木村邦博

伊師華江、2005年度、『顔の高次視覚印象の実験計量心理学的研究』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・仁平義明、教授・大淵憲一、教

授・鈴木淳子、助教授・阿部恒之

鈴木美穂、2005 年度、『感性印象と感覚モダリティの関連性に関する心理・脳科学的検討』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・仁平義明、教授・大淵憲一、助教授・阿部恒之、助教授・木村邦博

本多明生、2005 年度、『地理的空間情報と経路探索行動の心理学的研究』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・大淵憲一、教授・行場次朗、教授・吉原直樹、助教授・阿部恒之

熊谷智博、2006 年度、『非当事者攻撃の社会心理学的研究 ―二重不確実性低減モデルの検証―』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・仁平義明、教授・行場次朗、助教授・木村邦博

作田由衣子、2006 年度、『感性印象が再認記憶におよぼす影響』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・仁平義明、教授・大淵憲一、教授・海野道郎、助教授・阿部恒之

トンニ・プルネル・ジェイミ、2006 年度、『The Thematic Apperception Test as a Stimulus for Experimental Research on Lie-Detection in a Cross-Cultural Setting』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・大淵憲一、教授・仁平義明、教授・海野道郎、助教授・阿部恒之

大類純子、2007 年度、『摂食障害の心理的特性に関する研究』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・行場次朗、教授・大淵憲一、教授・海野道郎、准教授・阿部恒之

今在景子、2007 年度、『裁判外紛争処理の社会心理学的研究 ―手続き的公正の視点から―』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・仁平義明、教授・行場次朗、教授・長谷川公一、准教授・阿部恒之、

荒木剛、2007 年度、『いじめ被害体験者の青年期後期におけるレジリエンス (resilience) 』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・大淵憲一、教授・行場次朗、教授・海野道郎、准教授・阿部恒之

柴田寛、2007 年度、『受け渡し動作の表出と適切さの認識に関する心理学的・脳科学的研究』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・仁平義明、教授・大淵憲一、准

教授・阿部恒之、准教授・小泉政利  
 河地庸介、2008年度、『物体同一性の知覚を支える感覚内・感覚間情報統合』  
 審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・仁平義明、教授・大淵憲一、准  
 教授・阿部恒之、准教授・小泉政利、准教授・辻本昌弘

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	12	1	1	3	17
06	9	0	1	1	11
07	6	1	10	1	18
08	15	4	4	0	23
09	12	2	4	0	18
計	54	8	20	5	87

\*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	10	49	2	5	66
06	12	31	4	0	47
07	14	39	4	0	57
08	13	53	4	1	71
09	13	34	9	0	56
計	62	206	23	6	297

\*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

### 2-3 上記の大学院生による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

荒木 剛. 「いじめ被害体験者の青年期後期におけるレジリエンス(resilience)に寄与する要因について」 『パーソナリティ研究』, 14, 54-68, 2005.

荒木 剛. 「性格：“その人らしさ”を理解する」 今在慶一郎（編著）『30分で学ぶ心理学の基礎』 北樹出版 pp.64-72, 2007.

荒木 剛. 「青年：“子ども”から“大人”へ」 今在慶一郎（編著）『30分で学ぶ心理学の基礎』 北樹出版 pp.80-89, 2007.

- 荒木 剛. 「この人にきく 大竹恵子氏」 日本心理学会 (編) 『心理学ワールド』, 38, pp.29, 2007.
- 渥美恵美・大淵憲一・稲垣成昭・勅使河原麻衣 「作業療法臨床実習のための社会的交流技能事前教育プログラムに関する研究 (第1報) : 学生の持つ交流技能の分析」 『リハビリテーション科学: 東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』, 3, 3-11, 2007.
- 渥美恵美・稲垣成昭・勅使河原麻衣・高橋千賀子 「作業療法学生の社会的交流技能養成教育プログラムの開発に向けて: 試行的実施」 『リハビリテーション教育研究』, 13, 160-165, 2008.
- 渥美恵美・大淵憲一・稲垣成昭・勅使河原麻衣 「社会的交流技能実習事前教育プログラムに関する研究: 社会的交流技能自己評価 (SA) 尺度 Ver2 作成と因子分析」 『リハビリテーション科学: 東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』, 4, 11-19, 2008.
- 原野明子・朴香花・佐藤拓・鶴巻正子. 「福島県内の幼稚園における個別の指導計画作成の現状」 『福島大学総合教育研究センター紀要』, 7, (印刷中).
- 八田武俊・大淵憲一. 「電子メディア交渉における離脱可能性と事前相互作用に関する実験的研究」 『経営行動科学』, 18, 45-51, 2005.
- Hatta, T., & Ohbuchi, K. 「The effects of exitability by the alternative negotiation on the electronic negotiation: Content analysis of negotiation behavior」 『Tohoku Psychologica Folia』, 63, 25-33, 2005.
- 日高聡太・行場次朗 「仮現運動事態で内的に形成される運動物体表象」 『心理学評論』, 51, 220-234, 2008.
- Hidaka, S., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Analyses of Internal Depth Information of 3-D Objects in Apparent Motion Path」 『Tohoku Psychologica Folia』, 65, 1-9, 2006
- Hidaka, S., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Depth Representation of Moving 3D Objects in Apparent Motion Path」 『Perception』, 2007
- Hidaka, S., Shigeta, R., Kawachi, Y., Sakuta, Y., & Gyoba, J. 「Speed and consistency of sound-color association in a colored-hearing test」 『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 68-74, 2007.
- 日高聡太・行場次朗. 「東北大学心理学研究室における古典的実験機器の歴史と特色—京都大学との比較から—」 『心理学史・心理学論』, 10/11, 49-55, 2009.
- Hidaka, S., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「The representation of moving 3-D objects in apparent motion perception」 『Attention, Perception & Psychophysics』, 71,

1294-1304, 2009.

引地博之・青木俊明・大淵憲一. 「地域に対する愛着の形成機構—物理的環境と社会的環境の影響—」 『土木学会論文集』, 65, 2, 101-110, 2009.

本多明生・柴田寛・行場次朗・西塔宏二・岩谷幸雄・鈴木陽一. 「3次元聴覚ディスプレイを用いた聴覚ゲームの転移効果：実音源定位課題と衝突物体回避課題に及ぼす影響」 『信学技報 IEICE Technical Report HIP2005-32(2005-7)』, 71-76, 2005.

本多明生・柴田寛・行場次朗・西塔宏二・岩谷幸雄・鈴木陽一. 「3次元聴覚ディスプレイを用いた聴覚ゲームの転移効果：実音源定位課題と会話時の Face contact に及ぼす影響」 『ヒューマンインターフェイス学会研究報告集』, 7, 65-70, 2005.

Honda, A., Shibata, H., Hidaka, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Transfer effects on auditory skills from playing virtual three-dimensional auditory display games」 In B. N. Weiss (Ed), 『New Research on Acoustics, Hauppauge』, NY: Nova Science Publishers, in press

Ikeda, K., & Shibayama, M. 「Gender Differences in the Effects of Autobiographical Advertisements on Autobiographical Memory」 『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 89-96, 2007

池田和浩・仁平義明. 「ネガティブな体験の肯定的な語り直しによる自伝的記憶の変容」 『心理学研究』, 79, 481-489, 2008.

稲垣成昭・渥美恵美・勅使河原麻衣・大淵憲一 「社会的交流技能事前教育プログラムに関する研究：学生の自己評価と性格要因の検討」 『リハビリテーション科学：東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』, 4, 21-28, 2008.

Ishi H., Gyoba J., & Kamachi M. 「Effects of the Dynamic Presentation of Smile on the Evaluation of Various Impressions of Face」 『Tohoku Psychologica Folia』, 64, 21-30, 2005.

加賀美常美代. 「全学ピアサポートの特色と連携体制」 『お茶の水女子大学ピアサポート・プログラム報告書』, 1, 3-5, 2005.

加賀美常美代. 「全学留学生のピアサポートの経緯と理念」 『お茶の水女子大学ピアサポート・プログラム報告書』, 1, 47-49, 2005.

Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「A new response-time measure of object persistence in the tunnel effect」 『Acta Psychologica』, 123, 1-2, 73-90, 2006.

- Kawachi, Y. & Gyoba, J. 「Presentation of a visual nearby moving object alters stream/bounce event perception」 『Perception』, 35, 9, 1289-1294, 2006.
- Kawachi, Y., Kawabe, T., & Gyoba, J. 「Spatiotemporal integration of object features in the stream/bounce event perception」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 25, 2, 273-274, 2007.
- Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Physical offset of an invisible object can recover visual awareness suppressed by motion-induced blindness」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 27(1), 109-110, 2008.
- 河地庸介・行場次朗. 「視覚的事象の知覚に関する最近の研究動向 —物体同一性, 因果性、通過・反発事象の知覚—」 『心理学評論』, 51(2), 206-219, 2008.
- Kikuchi, F., Sato, T., & Nihei, Y. 「What speech contents do people use to detect deceit?」 『Tohoku Psychologica Folia』, 65, 37-44, 2006
- Kikuchi, F., Sato, T., & Abe, T. 「Effects of a personal relationship between deceiver and lie-receiver on ratings of veracity and forgiveness」 『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 40-45, 2007
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之・仁平義明 「過失に対する赦しの評価に怒り感情・信憑性・重大性の評価が及ぼす影響」 『感情心理学研究』, 15, 97-105, 2008.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之. 「弁明としてのウソが利益とコストの評価に及ぼす影響」 『感情心理学研究』, 16, 220-228, 2009.
- 北村康宏・畑山俊輝. 「自動車運転時の聴覚情報への対応課題がドライバーに与える影響—生理的・行動的变化から—」 『IATSS Review』, 30, 327-332, 2005.
- 小宮山みなみ・阿部恒之・上原俊介・菊地史倫. 「学生の QOL に影響する要因の検討—社会的行動制御スタイル・感情を中心に—」 『早稲田大学臨床心理学研究』, 8, 53-65, 2009.
- 今野晃嗣・仁平義明 「ヒト乳幼児の気質モデルに基づいたイヌとネコの気質尺度」 『ヒトと動物の関係学会誌』, 20, 56-65, 2008.
- 今野晃嗣・丸山俊・日高聡太・田中章浩・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「英語活動経験が英語音素対聴取時における幼児の脳活動に及ぼす影響—NIRSによる検討—」 『信学技報 IEICE Technical Report TL2008-20(2008-8)』, 108(184), 45-48, 2008
- 熊谷智博・大淵憲一. 「非当事者攻撃に対する不公正と集団顕現性の効果」 『文化』, 68, 370-384, 2005.

- Kumagai, T. & Ohbuchi, K. 「Third party aggression: Effects of cooperation and group membership」 『Psychologia』, 49, 152-161, 2006.
- Kumagai, T. 「Intra-group fairness, group identification, and inter-group aggression」 In K. Ohbuchi (Ed.). 『Social Justice in Japan: Concept, theories, and paradigms』 Melbourne: Trans Pacific Press, 2007
- 熊谷智博 「集団成員性と攻撃行動」 潮村公弘・福島治（編） 『社会心理学概説』 第5章第3節 北大路書房, 2007.
- 熊谷智博 「集団間葛藤」 大淵憲一（編） 『シリーズ 21世紀の社会心理学：葛藤と紛争の社会心理学』, 北大路書房, 2008
- 熊谷智博・大淵憲一 「非当事者攻撃に対する集団同一化と被害の不公正さの効果」 『社会心理学研究』, 24. 印刷中
- 森 丈弓・花田百造 「少年鑑別所に入所した非行少年の再犯リスクに関する研究 —split population model による分析—」 『犯罪心理学研究』, 44 (2), 1-14, 2007.
- 森 丈弓・津富 宏 「年齢犯罪曲線に対する Moffitt 仮説と General Theory of Crime の検証」 『犯罪心理学研究』, 44 (2), 23-38, 2007.
- Nakagawa, T., Nakamoto, N., Yamanoha, T., & Ohbuchi, K. 「Effects of group rewards on group identification among delinquent and non-delinquent adolescents」 『Tohoku Psychologica Folia』, 64, 31-38, 2005.
- 大坂絃子. 「地域社会におけるボランティアによる援助活動の実際—被援助者の属性・援助内容・援助先への交通手段と移動時間—」 『東北文化研究室紀要』, 47, 1-14, 2005.
- 大坂絃子 「児童養護施設の職員のストレス対処と職員間連携に関する探索的研究」 『東北文化研究室紀要』, 49, 1-13, 2007
- 大坂絃子 「中高年女性のボランティア開始後のライフコースとネガティブ・イベントへの対処」 『社会心理学研究』, 24, 1-10, 2008.
- Saito, T, & Ohbuchi, K. 「Gender differences in the cognitive cause of Japanese conflict avoidance: An approach in pluralistic ignorance」 『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 62-67, 2007
- Sato, T., & Nihei, Y. 「Effects of lie-catchers' confidence on their beliefs about deception cues」 『Tohoku Psychologica Folia』, 65, 99-108, 2006
- 佐藤拓・仁平義明 「嘘の言語分析：嘘の話は一貫性が低いのか」 『嘘とだましの心理学：戦略的なだましからあたたかい嘘まで』, 97-99, 2006



- 佐藤拓・仁平義明 「言葉から嘘を見分ける：C B C AとRMによる判別」 『現代のエスプリ 481：嘘の臨床・嘘の現場』, 186-196, 2007
- Sato, T., Nihei, Y., & Kikuchi, F. 「Adolescent and young adult beliefs about deception」 『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 54-61, 2007.
- 佐藤 拓. 「消防士の高所恐怖」 仁平義明（編）『防災の心理学—ほんとうの安心とは何か—』, 東信堂, 2008
- Sato, T., & Nihei, Y. 「Sex differences in beliefs about cues to deception」 『Psychological Reports』, 104, 759-769, 2009.
- Sato, T., & Nihei, Y. 「Contrast tactics in deceptive impression management」 『Social Behavior and Personality: An International Journal』, 37, 267-272, 2009.
- Sato, T., & Nihei, Y. 「Gender differences in confidence about lying and lie detection」 『Tohoku Psychologica Folia』, 67, 71-73, 2009.
- 佐藤 拓・仁平義明. 「青年期のキャリア・レジリエンス—進路決定のリスク要因・促進要因—」 『東北大学学生相談所年報』, 3, 23-27, 2009.
- 柴田寛. 「ダイナミックタッチにおける学習過程の分析—紐の長さを知覚する課題を題材として—」 『生態心理学研究』, 2, 13-31, 2005.
- 柴田寛・杉山磨哉・鈴木美穂・金情浩・行場次朗・小泉政利 「日本語節内かき混ぜ文の痕跡位置周辺における処理過程の検討」 『認知科学』, 13, 301-315, 2006
- Shibata, H., Suzuki, M., & Gyoba, J. 「Cortical activity during the recognition of cooperative actions」 『NeuroReport』, 18, 697-701, 2007
- 柴田寛・行場次朗 「他者から手渡された物体を受け取る動作の選択」 『生態心理学研究』, 2008
- Shibata, H., Gyoba J., & Suzuki, Y. 「Event-related potentials during the evaluation of the appropriateness of cooperative actions」 『Neuroscience Letters』, 452, 189-193, 2009.
- 柴田理瑛・河地庸介・行場次朗 「Motion-induced blindness を用いた近接・閉合の手がかりが物体表象に及ぼす相互作用の定量的検討」 『信学技報 IEICE Technical Report HIP2007-130(2007-12)』, 7-12, 2007.
- 柴田理瑛・河地庸介・矢入 聡・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「運動誘発盲により消失した視覚意識を復活させる短バースト音」 『信学技報 IEICE Technical Report EA 2008-50 (2007-8)』, 29-34, 2008.
- 潮村公弘・田村達 「偏見・差別とその認知的メカニズム」 潮村公弘・福島治（編）

- 『社会心理学概説』 北大路書房, 39-41, 2007.
- Suzuki, M., Gyoba, J. & Sakuta, Y., 「Multichannel NIRS analysis of brain activity during semantic differential rating of drawing stimuli containing different affective polarities」 『Neuroscience Letters』 , 375, 53-58, 2005.
- Suzuki, M. Okamura, N., Kawachi, Y. Tashiro, M., Arao, H., Hoshishiba, T., Gyoba, J., Yanai, K. 「Discrete cortical regions associated with the musical beauty of major and minor chords」 『Cognitive, Affective, & Behavioral Neuroscience』 , 8(2), 126-131, 2008.
- Suzuki, Y., Suzuki, M., & Gyoba, J. 「Effects of auditory feedback on tactile roughness perception」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 65, 225-232, 2006
- 鈴木結花・鈴木美穂・行場次朗 「聴覚情報が触覚的粗さ知覚に及ぼす影響」 『信学技報 IEICE Technical Report HIP2006-70(2006-12)』 , 13-18, 2006
- Suzuki, Y., Gyoba, J., & Sakamoto, S. 「Selective effects of auditory stimuli on tactile roughness perception」 『Brain Research』 , in press
- 生島浩 『学校臨床の現場から』 SEEDS 出版 2009
- 生島浩 「保護観察官に期待されるもの」 『更生保護と犯罪予防』 , 151, 6-15, 2009
- 生島浩・岩崎陽子 「少年鑑別所における収容鑑別」 吉川悟編『システム論からみた援助組織の協働』 金剛出版 167-174 2009
- 田上義之・渥美恵美・高橋千賀子 「実習後のアンケート結果から把握できた臨床実習 I の実態」 『リハビリテーション科学：東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』 , 4, 45-54, 2008.
- Tai, S-F. Ohbuchi, K., & Huang, F. F-Y. 「Taiwan citizens` causal perception toward juvenile delinquency」 『Journal of Criminology』 , 8, 85-107, 2005.
- Takada, N. & Ohbuchi, K. 「Forgiveness and Justice: Victim Psychology in Conflict Resolution」 Ohbuchi, K (Ed) 『Social Justice in Japan: Concepts, Theories and Paradigm』 , 107-126, Trans Pacific Press, 2007.
- 高田奈緒美・大淵憲一. 「対人葛藤における寛容性の研究：寛容動機と人間関係」 『社会心理学研究』 , 24, 208-218, 2009.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗. 「視覚パターンの空間位置記憶における好みの影響の多様性」 『電子情報通信学会技術研究報告』 , 108(356), 41-46, 2008.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Location memory of visual patterns modulated by preference」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』 In press.

- 高久聖治・高田奈緒美 「葛藤と寛容性」大淵憲一（編）『葛藤と紛争の社会心理学』北大路書房, 2008
- 田村達・大淵憲一 「非人間的ラベリングが攻撃行動に及ぼす効果：格闘 TV ゲームを用いた実験的検討」『社会心理学研究』, 22, 165-171, 2006.
- Tamura, T. 「Justified Discrimination」 in Ohbuchi, K (ed.), 『Social Justice in Japan: Concepts, theories and paradigms』. Melbourne: Trans Pacific Press, 127-148. 2007.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：指導者との葛藤場面の分類」『リハビリテーション教育研究』, 13, 83-87, 2008.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美. 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：指導者への葛藤解決方略」『リハビリテーション教育研究』, 14, 126-128, 2009.
- Thoney, J., Kanachi, M., Sasaki H., & Hatayama, T. 「Eye Blinking as a Lie-Detection Index in an Emotionally Arousing Context」『Tohoku Psychologica Folia』, 64, 2005
- 鶴巻正子・右高真由美 「TEC (The Education Cooperative)における特殊教育プログラム」『福島大学総合教育研究センター紀要』, 3, 51-58, 2007.
- Tsurumaki, M. 「Self-esteem enhancement in children with attention-deficit/hyperactivity disorder」『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 105-111, 2007
- 鶴巻正子・齋藤はるか 「ADHD のある子どもへの漢字の書字指導—コンピュータを用いた支援法の開発と個別式 e—ラーニングの可能性—」『福島大学生涯学習教育研究センター年報』, 13, 57—62, 2008
- 鶴巻正子, 「注意欠陥多動性障害者の心理」, 田中農夫男・木村進（編著）『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』, 2009.
- 鶴巻正子・朴香花・原野明子・佐藤拓. 「福島県内の幼稚園における保育者が考える特別支援教育の課題」『福島大学総合教育研究センター紀要』, 7, (印刷中) .
- 鶴巻正子・岩谷美奈・佐藤拓・原野明子. 「小学校入学前の発達障害幼児に指導が必要なソーシャルスキル—小学校・中学校・特別支援学校の教員を対象としたアンケート調査から—」『福島大学総合教育研究センター紀要』, 7, (印刷中) .
- Tsurumaki, M., Sato, T., & Nihei, Y. 「Negative Effects of Self-Esteem Measurement in Children」『Social Behavior and Personality: An International Journal』, in press.
- Woo, E.W., & Kanachi, M. 「The Effects of Music Type and Volume on Short-Term Memory」『Tohoku Psychologica Folia』, 64, 2005.

山本佳子・仁平義明. 「統合失調症の大学生に対する卒業をゴールとしない支援」  
『学生相談研究』,30(1), 12 -22 ,2009

Yamamoto.Y., Nihei.Y. 「Difficulties in adjusting to college life experienced by students  
with pervasive developmental disorders: comparison with schizophrenic students」  
『Tohoku Psychological Folia』 , 67, 1-5,2009

## (2) 口頭発表 (ポスター発表を含む)

### (国際学会)

Aoki T., & Hikichi, H. 「Determinants of cooperative behavior in the process of  
infrastructure planning in Japan: Self-benefits and fairness of administrative  
authority」Proceedings of 10th international conference on Application of Advanced  
Transportation Technologies, No.358, pp.14, Athens, Greece, 2008.

Aoki, T. & Hikichi, H. 「Determinants of Co-operative Behavior in relation to Community  
Policy: Self-Profit and Fairness」 Conference Program of 2nd International  
Conference on Community Psychology, pp.143, Lisbon, Portugal, 2008.

Araki, T. 「Resilience in the long-term outcomes of peer victimization: A comparison of  
victims and non-victims」 Society for Personality and Social Psychology 6<sup>th</sup> Annual  
Meeting, 2005.

Fukumitsu, Y., Suzuki, Y., Shibata, H., Koizumi, M., Gyoba, J., & Hagiwara, H.  
「Children's awareness of morpho-syntactic information: an auditory ERP study」  
13th Annual Conference on Architectures and Mechanisms for Language Processing  
(Turku, Finland; August 26), 2007.

Hidaka, S., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Analyses of Depth information Contained in  
Moving 3-D Objects in Apparent Motion Path」 The 4th Asian Conference of Vision,  
(Matue, Japan ; July 29), 2006

Hidaka, S., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Depth information contained in the representation  
of moving 3-D objects in apparent motion perception」 ECVP 2007, (Arezzo,  
Italy ; August 28),2007

Hidaka, S., Satoh, S., and Gyoba, J. 「Psychophysical analyses of the size effects of  
spatial attention on figure-ground assignment」 Fechner Day 2007, (Tokyo, Japan ;  
Octorber 22),2007

Hidaka, S., Nagai, M., & Gyoba, J. 「Non-reversed motion perception induced by the  
spatiotemporal reversal of apparent motion sequences」 8th Annual Metting of

- Vision Sciences Society (Naples, Florida; May 11), 2008
- Hidaka, S., Nagai, M., Bennett, P. J., Sekuler, A. B., and Gyoba, J. 「Impaired luminance detection in apparent motion trajectory」 9th Annual Meeting of Vision Sciences Society, 2009.
- Hidaka, S., Teramoto, W., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Effects of tone-sequence frequency changes on visible persistence of apparently moving visual stimuli」 International Multisensory Forum, 2009.
- Hikichi, H., Ohbuchi, K. & Aoki, T. 「Promotion of Cooperation among Community Residents: Effects of Familiarity with Local Historical Heritages and Commitment to the Community」 The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2010.
- Honda, A., & Nihei, Y. 「Anxiety and behavior during wayfinding」 6<sup>th</sup> Tsukuba International Conference on Memory: Memory and Emotion, 2005.
- Ikeda, K., & Nihei, Y. 「Repeated retelling of autobiographical memory」 4th International Conference On Memory, (Sydney, Australia; July 18), 2006
- Kawachi, Y. & Gyoba, J. 「An event-irrelevant visual moving object alters audiovisual event perception」 The 4th Asian Conference of Vision, (Matue, Japan; July 29), 2006.
- Kawachi, Y., Kawabe, T., & Gyoba, J. 「Temporal window of colour-motion binding in the stream/bounce event perception」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Auditory modulation of an ambiguous motion sequence affects the resolution of subsequent motion displays」 Second International Workshop on Kansei, (Fukuoka, Japan; March 6), 2008.
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Two streams make a bounce: Induced motion reversal by crossing the trajectories of two motion sequences」 Vision Sciences Society 8th Annual Meeting, (Naples, Florida; May 10), 2008.
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Temporal window of crossmodal interaction between multiple visual events and a single auditory tone」 Asia Pacific Conference on Vision, (Brisbane, Australia; July 19), 2008.
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Crossmodal effects of a single auditory tone on multiple visual events」 31th European Conference on Visual

- Perception, (Utrecht, The Netherlands; August 25), 2008.
- Kawashima, M., Nomura, M., Hikima, R., Nagasaki, F. & Abe, T. 「The modern meaning of 'TOKIMEKI', the Japanese traditional word on the emotional state」 International Society for Research on Emotion, 2009.
- Kawashima, N. 「How do People Justify Social Inequalities? : An Examination of System Justification Theory with Japanese People」 The 3rd International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, 2009.
- Kikuchi, F., Sato, T., Abe, T., & Nihei, Y. 「The effects of the deception as a result of varying contents concerning the possibility of occurrence on ratings of truthfulness and forgiveness」 29th International Congress of Psychology, (Berlin, Germany ; July 21), 2008.
- Kikuchi, F., Sato, T., & Abe, T. 「Is humor a better excuse than lies?」 Society for Applied Research on Memory and Cognition, 2009.
- Kikuchi, F., Sato, T., & Abe, T. 「The double-edged sword of humor: Humor perception as a key of tolerance for mistakes」 International Society for Research on Emotion, 2009.
- Konno, A., & Nihei, Y. 「Development of a temperament scale for dogs and cats: (2) A factor analysis and a cross-species comparison」 11th International Conference on Human-Animal Interactions, (Tokyo, Japan ; October 6-8), 2007.
- Kumagai, T., Oikawa, H. & Ohbuchi, K. 「The Effects of Perceived Fairness and Trait Self-esteem on Third Party Aggression」 Conference on Group Processes in Computer-Supported Interaction: Technological and Social Determinism, 2005.
- Kumagai, T. & Ohbuchi, K. 「The Effects of Group Identification and Fairness of harm on Third Party Aggression」 The 14th General Meeting of the European Association of Experimental Social Psychology, 2005.
- Kumagai, T. & Ohbuchi, K. 「The effects of distributive fairness and group identification on third party aggression」 British Psychological Society The 52nd Social Psychology Section Annual Conference, 2005.
- Kumagai, T. 「Procedural fairness, group identification, opinion of victim, and third party aggression」 Meeting of Social, Economic and Organizational Research Group, (University of Exeter, Exeter, England, UK; April 3), 2006.
- Kumagai, T. 「Uncertainty, social justice, and third party aggression」 International symposium of Tohoku University COE program, Justice, responsibility, and

- uncertainty in social conflict, (Sendai, Japan; November 25), 2006.
- Kumagai, T. & Ohbuchi, K. 「The effects of procedural fairness, group identification, and group member's opinion on third party aggression」 European Association of Experimental Social Psychology medium size meeting on Current Research on Group Perception and Intergroup Behavior - the Role of Motivational Processes 9th Jena Workshop on Intergroup Processes, (Schloss Oppurg, Germany: June 30), 2006.
- Kumagai, T. 「The effects of implicit self-esteem on moral dilemma」 15<sup>th</sup> General Meeting of the European Association for Experimental Social Psychology (Opatija, Croatia; June 13), 2008.
- Mori, T., Takahashi, M., Kanto, K. & Ohbuchi, K. 「Risk Assessment of Delinquents in Japanese Juvenile Classification Home」 Annual meetings of the American Society of Criminology, 2008.
- Sakuta, Y., & Gyoba, J. 「Comparing the recognition performance of component colors and forms with that of the paired or combined stimuli of those components: Focusing on the congruency of impressions」 Tsukuba International Conference on Memory (TIC2005), 2005.
- Sakuta, Y., & Gyoba, J. 「Affective impressions and recognition performances for upright and inverted faces」 European Conference of Visual Perception (ECVP2005), 2005.
- Sato, T., Kikuchi, F., & Nihei, Y. 「Linguistic cues for detecting deception: Morphological and content-based analysis」 The 8th Biennial Meeting of the Society for Applied Research in Memory & Cognition, 2009.
- Shibata, H. & Gyoba, J. 「Effects of loading a weight on the perceived limb length」 14th International Conference on Perception and Action, (Japan, Kanagawa; July 2-3), 2007.
- Shibata, H. & Gyoba, J. 「Event-related potentials elicited by processing the appropriateness of visually presented cooperative actions」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 30), 2007.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Combined effects of perceptual-grouping cues on object representations revealed by motion-induced blindness」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Effective spatial ranges for perceptual grouping cues in motion-induced blindness」 Asia Pacific Conference on Vision,

- (Brisbane, Australia; July 20), 2008.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Suppressed visual awareness can be recovered by sounds presented in the relevant locations」 31th European Conference on Visual Perception, (Utrecht, The Netherlands; August 27), 2008.
- Shibata, M, Kubodera, T, & Sakurai, K. 「Binocular rivalry between motion parallax stimuli in depth and motion stimuli yoked to lateral head movements」 Mini RIEC workshop on multimodal perception, 2009.
- Sakurai, K, Shibata, M, Kubodera, T, & Ono, H. 「Enhanced predominance of motion-parallax stimuli under binocular rivalry.」 32th European Conference on Visual Perception, 2009.
- Suzuki, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Spatial memory bias effects in viewing preferred stimuli」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Suzuki, M., & Gyoba, J. 「Cross-modal mere exposure effects between visual and tactile modalities」 6th Annual Meeting of the International Multisensory Research Forum, 2005.
- Suzuki, M., & Gyoba, J. 「Cross-modal mere exposure effects between visual and tactile modalities」 European Conference on Visual Perception, 2005.
- Suzuki, Y., & Gyoba, G. 「Selective modification of tactile roughness perception in terms of auditory stimuli」 8th International Multisensory Research Forum, (Sydney, Australia; July 5), 2007.
- Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Koizumi, M., Gyoba, J., & Hagiwara, H. 「An event-related potential study on semantic congruity during listening to Japanese sentences in children and adults」 13th Annual Conference on Architectures and Mechanisms for Language Processing, (Turku, Finland; August 24), 2007.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Effects of task-irrelevant sounds on the tactile perception of roughness」 The 23rd Meeting of the International Society of Psychophysics, (Tokyo, Japan; October 20), 2007.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Effects of Sounds on Tactile Roughness Depend on the Congruency between Modalities」 Third Joint Eurohaptics Conference and Symposium on Haptic Interface for Virtual Environment and Teleoperator Systems (World Haptics 2009) , 2009.
- Takada, N. 「Third party effect on Forgiveness: An empirical study with Japanese



- Students」 Oral presentation at the Fostering a New Generation of Psychologists for the 21st Century, (America, Soka University of America, March 10), 2006.
- Takada, N. & Ohbuchi, K. 「Forgiveness in Conflict Resolution: Familiarity, Attribution, and Motives for Forgiveness」 3rd Biennial Conference of the International Association for Relationship Research, (Crete, Greece ; July 9).
- Takada, N. 「Forgiveness in Conflict Resolution: Recovery of justice by an audience」 International Symposium Forgiveness and Justice in Social Relations, (Sendai, Japan; March 24), 2007.
- Takada, N., Fukuno, M., & Soma, Y. 「Forgiveness in intragroup conflict: Discrepancy between Internal forgiveness and forgiving behavior」 Annual Conference of International Association for Conflict Management, (Budapest, Hungary; July 1), 2007.
- Takada, N. and Ohbuchi, K. 「Forgiveness between China and Japan: The Effect of Categorical Level on Chinese Forgiveness toward Japanese」 The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, 2009.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., and Koizumi, M. 「Effects of development and non-native language activities on the semantic processing of native language in preschool children」 18th International Society for Brain Electromagnetic Topography, 2009.
- Tamura, T & Ohbuchi, K. 「An experimental study of the effects of dehumanizing labels on aggressive behavior in a fighting-type video game situation」 The Society for Personality and Social Psychology 6th Annual Meeting, 2005.
- Tamura, T., & Ohbuchi, K. 「Cognitive Mechanisms of Dehumanizing Labels」 The New Annual Conference of the British Psychological Society, (Cardiff, U.K., 3月31日), 2006.
- Tamura, T., & Ohbuchi, K. 「The moderating effect of rationality of aggression between dehumanizing labels and aggression」 The Society for Personality and Social Psychology 8th Annual Meeting, (Memphis, Tennessee, 1月27日), 2007.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Sound can enhance visual representational momentum」 IMRF 2008 (Hamburg, Germany; July 16), 2008
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Dynamic auditory cues modulate visual motion processing」 ECVP 2008 (Utrecht, the Netherlands; August, 26),

2008

Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Completion of a visual motion representation by auditory information」 International Multisensory Forum, 2009.

Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Intra- and inter-modal completion of a visual motion representation」 European Conference on Visual Perception, 2009.

Tsurumaki, M. 「Acquisition of Handwriting Behavior of Chinese Characters to a child with ADHD」 Association for Behavior Analysis International, 32nd Annual ABA Convention, (Atlanta, USA; May 29), 2006.

Tsurumaki, M. 「Teaching Handwriting of Chinese Characters to Children with ADHD」 Association for Behavior Analysis International, 33rd Annual ABA Convention, International Symposium, (San Diego, USA; May 26), 2007.

Uehara, S. & Ohbuchi, K. 「Effects of judged violation of interpersonal norms on angry feelings: Weights of intentionality or severity of harms? 」 Poster presented at the 3rd Biennial Conference of the International Association for Relationship Research, 2006.

Uehara, S. & Ohbuchi, K. 「Why is it that people do not suppress their anger? The effects of a perceived approach-avoidance motive for interpersonal apology on angry feelings」 Poster presented at the Annual Conference of the British Psychological Society, 2006.

#### (国内学会)

渥美恵美・稲垣成昭・勅使河原麻衣・大淵憲一 「社会的交流技能実習事前教育プログラムに関する研究—社会的交流技能自己評価 (SA) 尺度 Ver2 の因子分析—」 第41回日本作業療法学会 (鹿児島市民文化ホール, 6月23日) 2007.

渥美恵美・稲垣成昭・勅使河原麻衣・高橋千賀子 「作業療法学生の社会的交流技能養成教育プログラムの開発に向けて: 試行的実施」 全国私立リハビリテーション学校連絡協議会第20回教育研究大会 (ホテル東京ガーデンパレス, 8月24日), 2007.

渥美恵美・大淵憲一・稲垣成昭・勅使河原麻衣 「作業療法学生の社会的交流技能に対する臨床実習の効果」第42回日本作業療法学会 (長崎県立総合体育館, 6月21日), 2008.

渥美恵美・大淵憲一・勅使河原麻衣・稲垣成昭. 「作業療法学生の社会的交流技

- 能に対する臨床実習効果に関する研究—評価技術実習と総合実習での比較—」 第43回日本作業療法学会, 2009.
- 福光優一郎・鈴木結花・柴田寛・小泉政利・行場次朗・萩原裕子「意味および統語処理に関する幼児と成人の事象関連電位の比較」 第4回日本子ども学会議(慶応大学, 9月15, 16日), 2007
- 船木真悟 「自己愛と攻撃行動に関する研究—ソーシャルサポートの調整効果に注目して—」 東北心理学会第62回大会(東北大学, 7月20日), 2008
- 古畑麻紗子・上原俊介 「手続き的公正と提案の信憑性が裁判員の主観的量刑判断に及ぼす影響: 体制正当化信念に注目して」 日本法と心理学会第9回大会(南山大学, 10月18日), 2008.
- 濱口 佳和・三浦 秀徳・森 丈弓 「高校生の能動的・反応的攻撃性と関係性挑発場面における社会的情報処理ならびに応答的行動との関連(1)」 日本犯罪心理学会第46回大会, 2008.
- 八田武俊. 「交渉継続と大体交渉への移行を規定する心理的要因の検討」 日本社会心理学会第46回大会, 2005.
- 八田武俊・及川祐一. 「表情伝達が交渉に及ぼす影響(2)」 東北心理学会 59回大会, 2005.
- 日高聡太・河地庸介・行場次朗. 「仮現運動中の3次元物体の中間表象に関する心理物理学的分析」 日本基礎心理学会第24回大会, 2005
- 日高聡太・河地庸介・行場次朗. 「仮現運動中の3次元物体の中間表象に関する心理物理学的分析」 電子通信情報学会(HIP), 2005.
- 日高聡太・河地庸介・行場次朗. 「仮現運動中の3次元物体の中間表象に関する心理物理学的分析」 SCS 視覚研究会, 2005.
- 日高聡太・河地庸介・行場次朗. 「仮現運動中の3次元物体の中間表象に関する心理物理学的分析」 東北心理学会第59回大会, 2005.
- 日高聡太・長田佳久. 「仮現運動する主観的輪郭の表面の明るさ」 日本心理学会第69回大会, 2005.
- 日高聡太・河地庸介・行場次朗. 「仮現運動中の3次元物体の中間表象に関する心理物理学的分析」 基礎心理学会第24回大会, 2005.
- 日高聡太・河地庸介・行場次朗 「仮現運動経路上の物体表象に含まれる奥行情報の検討」 日本基礎心理学会第25回大会(広島大学, 6月9日), 2006
- 日高聡太・河地庸介・行場次朗 「仮現運動物体が保持する奥行情報 - 表象的慣性 (representational momentum) を指標として-」 東北心理学会第60回大会(東

- 北福祉大学, 10月1日), 2006
- 日高聡太・佐藤俊治・行場次朗 「視覚的注意が図地割り当てに及ぼす影響」 日本心理学会第70回大会(九州大学, 11月5日), 2006
- 日高聡太・河地庸介・行場次朗 「仮現運動中の3次元物体表象が保持する奥行情報の検討」 日本認知心理学会第5回大会(京都大学, 5月26日), 2007
- 日高聡太・行場次朗 「運動物体表象の更新(Object updating)は特徴ベースか表面ベースか?」 東北心理学会第61回大会(岩手大学, 9月7日), 2007
- 日高聡太・柴田寛・栗原通世・田中章浩・藤本茉莉・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「成人と幼児を対象とした母語\_非母語発話刺激聴取時におけるNIRSを用いた脳活動測定」 日本心理学会第71回大会(東洋大学, 9月18日), 2007
- 日高聡太・行場次朗 「ワークショップ:国内における実験心理学機器のアーカイブ化の現状と問題点」(話題提供者) 日本心理学会第72回大会(北海道大学, 9月19日), 2008
- 日高聡太・宮内良太・行場次朗・鈴木陽一・岩谷幸雄 「聴覚運動手がかりによって駆動される視覚運動知覚」 日本心理学会第72回大会(北海道大学, 9月20日), 2008
- 日高聡太・永井聖剛・行場次朗 「時空間的な逆行を含む事態における仮現運動知覚の検討」 日本視覚学会2008年冬季大会(工学院大学, 1月23日), 2008
- 日高聡太・永井聖剛・行場次朗 「運動系列が逆行する事態で生じる時空間一貫性のある仮現運動知覚」 日本認知心理学会第6回大会(千葉大学, 5月31日), 2008
- 日高聡太・永井聖剛・行場次朗 「静止刺激の一過的な消失によって駆動される運動知覚」 東北心理学会第62回大会(東北大学, 7月19日), 2008
- 日高聡太・寺本渉・行場次朗・鈴木陽一 「聴覚刺激によって変容する視覚運動刺激の視覚的痕跡(Visible persistence)」 日本基礎心理学会第27回大会(東北大学, 12月), 2008
- 日高聡太・寺本渉・行場次朗・鈴木陽一 「視覚運動物体の視覚的持続(Visible persistence)に聴覚情報変化が及ぼす影響」 電子通信情報学会ヒューマン情報処理研究会, 2008.
- 日高聡太・永井聖剛・行場次朗 「仮現運動刺激が一時的に消失する静止刺激に駆動する運動知覚」 日本視覚学会2009年冬季大会, 2009.
- 日高聡太・宮内良太・寺本渉・行場次朗・鈴木陽一・岩谷幸雄 「聴覚運動手が

- かりによって駆動される静止視覚刺激の運動」 日本バーチャルリアリティ学会VR心理学研究委員会第13回研究会, 2009.
- 日高聡太. 「仮現運動軌道上での運動物体表象の時空間補完」 日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル(P&P)」研究分科会第1回研究会, 2009.
- 引地博之・大淵憲一 「地域に対する愛着と協力：コミットメントと連帯感の効果」 東北心理学会第61回大会（岩手大学, 9月6日）, 2007.
- 引地博之・青木俊明・大淵憲一 「地域に対する協力的行動の要因：地域に対する評価と愛着の効果」 日本社会心理学会第48回大会（早稲田大学, 9月22日）, 2007.
- 引地博之, 大淵憲一：居住地に対する協力的行動の促進要因：居住地への愛着と集団志向性の効果, 東北心理学会第62回大会,(東北大学, 7月20日), 2008.
- 引地博之・大淵憲一. 「歴史資産の熟知度が地域コミットメント形成に与える効果」 東北心理学会第63回大会, 2009.
- 引地博之・大淵憲一・青木俊明. 「居住地における協力的行動の促進要因：歴史資産と愛着の効果」 日本心理学会第73回大会, 2009.
- 引地博之・大淵憲一・青木俊明. 「居住地における協力的行動の促進—歴史資産と地域コミットメントの効果—」 日本社会心理学会第50回大会, 2009.
- 引地博之・青木俊明・大淵憲一. 「居住地における協力的行動の促進—歴史資産の熟知度と地域コミットメントの効果—」 第40回土木計画学研究発表会, 2009.
- 本多明生・仁平義明. 「地理的情報処理方略と経路探索エラー・タイプ」 日本認知心理学会第3回大会, 2005.
- 本多明生・仁平義明. 「ルート説明文と実際の経路探索行動：探索時の不安・移動エラー」 東北心理学会第59回大会, 2005.
- 本多明生・柴田寛・日高聡太・行場次朗・岩谷幸雄・鈴木陽一 「頭部運動ならびにフィードバックが音源定位学習に及ぼす影響」 第348回音響工学研究会（東北大学, 7月26日）, 2007
- 本多明生・柴田寛・日高聡太・行場次朗・岩谷幸雄・鈴木陽一 「音源定位学習におけるフィードバック効果」 日本バーチャルリアリティ学会第12回大会（九州大学, 9月21日）, 2007
- 本多明生・柴田寛・日高聡太・行場次朗・岩谷幸雄・鈴木陽一 「音源定位学習における頭部運動とフィードバックの効果」 HIP2007（東北大学, 12月6日）, 2007
- 池田和浩・仁平義明. 「自伝的記憶の長期にわたる語り直しの効果」 第3回認

- 知心理学会, 2005.
- 池田和浩・仁平義明. 「長期的な語り直しによる自伝的記憶の変容—語り内容そのものの検討—」 第 69 回日本心理学会, 2005.
- 池田和浩・仁平義明. 「肯定的な語り直しが自伝的記憶を構成する中心的な要素に与える影響」 第 59 回東北心理学会, 2005.
- 池田和浩・仁平義明 「自伝的記憶の肯定的語り直しにみられる 2 種類の変化」 認知心理学会第 4 回大会 (中京大学, 8 月 1 日), 2006
- 池田和浩 「自伝的広告が自伝的記憶に与える影響」 北海道・東北心理学会第 10 回合同大会 (東北福祉大学, 9 月 30 日), 2006
- 池田和浩・仁平義明 「主観的視点による物語の想起が後の記憶課題に及ぼす影響」 認知心理学会第 5 回大会 (京都大学, 5 月 27 日), 2007
- 池田和浩・仁平義明 「物語の転換的語り直しがその後の記憶に与える影響」 東北心理学会第 61 回大会 (岩手大学, 9 月 7 日), 2007
- 池田和浩・仁平義明 「転換的語り直しがストーリーの記憶に与える影響」 認知心理学会第 6 回大会 (千葉大学, 5 月 31 日), 2008
- 池田和浩・仁平義明 「転換的語り直しがストーリーの記憶に与える影響—物語全体としての出来事感情価と語りの中に現れた感情表現の関連性—」 第 72 回日本心理学会 (北海道大学, 9 月 19 日), 2008
- 稲垣成昭・渥美恵美・勅使河原麻衣・大淵憲一 「社会的交流技能実習事前教育プログラムに関する研究—学生の自己評価と性格要因の検討—」 第 41 回日本作業療法学会 (鹿児島市民文化ホール, 6 月 23 日), 2007.
- 稲垣成昭・渥美恵美・勅使河原麻衣・大淵憲一 「社会的交流技能実習事前教育プログラムに関する研究—学生自己評価 (SA 尺度 Ver2) と実習指導者評定の関係—」 第 41 回日本作業療法学会 (鹿児島市民文化ホール, 6 月 23 日), 2007.
- 井上英治・松川亮太・今野晃嗣・Alexander Weiss・吉原正人・島原直樹・伊藤慎一・村山美穂. 「動物園におけるチンパンジーの性格評定および遺伝子型との関連解析—予報—」. SAGA10 in Tokyo (恩賜上野動物公園, 11 月 17 日), 2007
- 伊師華江・蒲池みゆき・瀧川えりな・細井聖. 「顔画像からの年齢判断」 第 3 回日本認知心理学会大会, 2005.
- 伊師華江・行場次朗. 「動画を用いた表情オフセット時の視覚的慣性効果」 第 10 回日本顔学会, 2005.
- 岩谷美奈・鶴巻正子. 「発達障害児に対する「相手から情報を得る」スキルの

- 指導」 日本行動分析学会第 27 回年次大会, 2009.
- 岩谷美奈・鶴巻正子. 「発達障害のある幼児に対するソーシャルスキル・トレーニング - 「順番を守る」スキルの獲得を目指して -」 日本自閉症スペクトラム学会第 8 回大会, 2009.
- 岩谷美奈・鶴巻正子. 「発達障害のある就学前幼児に指導が必要なソーシャルスキル - 教員を対象としたアンケート調査から -」 日本行動分析学会第 27 回年次大会, 2009.
- 加賀美常美代・大淵憲一. 「教育価値観の構造：理論的考察」 日本心理学会第 69 回大会, 2005.
- 加賀美常美代・大淵憲一. 「多文化間の教育場面における葛藤解決方略と教育価値観の関連」 日本社会心理学会第 46 回大会, 2005.
- 柏瀬啓起・河地庸介 「両安定性透明視図形を用いた自発的な注意状態の変化の検討」 日本視覚学会 2007 年夏季大会(豊橋技術科学大学, 7 月 23 日), 2007 .
- 加藤ちあき・阿部恒之. 「学生生活における気晴らしに関する心理学的研究」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 川畑秀明・河地庸介・鈴木美穂・柴田理瑛・行場次朗 「俳句印象の心理的構造と脳活動の対応」 電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会(東北大学, 10 月 23 日), 2008.
- 河地庸介・行場次朗. 「遮蔽帯を通過する運動物体の表象維持と漸増・漸減手がかかり」 第 38 回知覚コロキウム, 2005.
- 河地庸介・行場次朗. 「遮蔽された運動物体によって変容される事象知覚」 電子情報通信学会 (HIP), 2005.
- 河地庸介・行場次朗. 「遮蔽帯を通過する運動物体の表象の維持—表面特徴との関連性の検討—」 日本視覚学会 2005 年冬季大会, 2005.
- 河地庸介・行場次朗. 「事象非関連物体により変容される事象知覚」 日本視覚学会 2005 年夏季大会, 2005.
- 河地庸介・行場次朗. 「遮蔽された事象非関連運動物体により変容される事象知覚」 東北心理学会第 59 回大会, 2005.
- 河地庸介・行場次朗. 「遮蔽された非関連運動物体により変容される事象知覚」 日本基礎心理学会第 24 回大会, 2005.
- 河地庸介・河邊隆寛・行場次朗 「物体の特徴変化が事象知覚に及ぼす影響の時間空間特性」 日本基礎心理学会第 25 回大会(広島大学, 6 月 9 日), 2006.
- 河地庸介・河邊隆寛・行場次朗 「物体の特徴変化が事象知覚に及ぼす影響の時

- 空間特性」 東北心理学会第 60 回大会（東北福祉大学, 10 月 1 日）, 2006.
- 河地庸介・行場次朗 「主観的に消失した物体の offset による運動誘発盲からの解放」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学, 9 月 7 日）, 2007.
- 河地庸介・行場次朗 「主観的に消失した物体の物理的消去が解放する運動誘発盲」 日本基礎心理学会第 26 回大会（上智大学, 12 月 8 日）, 2007.
- 河地庸介・Philip M. Grove・櫻井研三・行場次朗 「2 つの通過事象の軌道直交に誘引される反発知覚」 日本視覚学会 2008 年冬季大会（工学院大学, 1 月 23 日）, 2008.
- 河地庸介・Philip M. Grove・櫻井研三・行場次朗 「多重通過・反発刺激による二重結合問題」 日本心理学会第 72 回大会（北海道大学, 9 月 19 日）, 2008.
- 河地庸介・鈴木美穂・柴田理瑛・川畑秀明・行場次朗 「絵画印象の心理的構造と脳活動の対応」 電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会（東北大学, 10 月 23 日）, 2008.
- 河地庸介・柴田理瑛・川畑秀明・北村美穂・行場次朗. 「通過・反発事象の知覚をもたらす視聴覚情報統合における事前的・事後的側面の心理脳科学的解明」 日本基礎心理学会第 27 回大会, 2008.
- 河地庸介・柴田理瑛・今泉修・行場次朗・松江克彦 「知覚的消失現象におけるセルフウェアネス」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 河島三幸・阿部恒之 「体型補整下着の着用決定に及ぼす心理学的特性の検討」 日本感情心理学会第 14 回大会（広島修道大学, 5 月 14 日）, 2006
- 川嶋伸佳 「血液型ステレオタイプに基づく偏見に関する語りの分析」 北海道・東北心理学会第 10 回合同大会（東北福祉大学, 10 月 1 日）, 2006.
- 川嶋伸佳・大淵憲一 「識別性欲求が社会的行動に与える効果」 日本社会心理学会第 48 回大会（早稲田大学, 9 月 22 日）, 2007.
- 川嶋伸佳・大淵憲一 「識別性脅威および充足が感情に及ぼす影響」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学, 9 月 6 日）, 2007.
- 川嶋伸佳・Tin Aung Moe・大淵憲一 「現代日本人の価値観：2 つの国不変信念が抗議行動に及ぼす効果」 東北心理学会第 62 回大会（東北大学, 7 月 20 日）, 2008.
- 川嶋伸佳. 「社会的不公正の正当化方略：日本における体制正当化理論の検証」 東北大学 GCOE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」公正部門ワークショップ, 2008.
- Kawashima, N. 「How do people justify social inequalities?: An examination of system



- justification hypothesis with Japanese people」 The 13th Workshop in the Center for the Study of Social Stratification and Inequality, 2008.
- 川嶋伸佳・佐藤若菜. 「血液型性格判断に対する肯定的態度と偏見」 日本社会心理学会第 49 回大会, 2008.
- 川嶋伸佳・佐藤若菜 「血液型性格判断に対する肯定的態度と偏見」 日本社会心理学会第 49 回大会（かごしま県民交流センター, 11 月）, 2008.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・佐藤嘉倫. 「日本における社会的不平等の正当化方略：体制正当化理論の検証」 日本心理学会 73 回大会, 2009.
- Kawashima, N. 「Perceptions of unfairness and social protests among Japanese: Effects of social-economic and social psychological variables」 Tohoku-Stanford Summer School, 2009.
- Kawashima, N. 「Determinants of social protests: Perceptions of social and personal fairness, the immutability belief of and self efficacy for the society, and costs of protest」 The 8<sup>th</sup> Workshop in the Center for the Study of Social Stratification and Inequality, 2009.
- 川嶋伸佳. 「日本における不平等の正当化方略：体制正当化理論の検証」 「科学技術と日本人の価値意識」研究ワークショップ, 2009.
- Kawashima, N. 「Justification of social inequalities in Japan: An examination of system justification theory」 The Hewstone Seminar for Young Social Scientists, 2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・仁平義明. 「言語内容からのウソ認知：絶対的逸脱と状況的逸脱」 日本認知心学会第 3 回大会, 2005.
- 菊地史倫・佐藤拓・仁平義明. 「言語内容からのウソ判断」 東北心理学会第 59 回大会, 2005.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「ウソのジレンマ―“ばれないこと”と“赦されること”」 日本認知心理学会第 4 回大会（中京大学, 8 月 2 日）, 2006
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「ウソのジレンマ」東北心理学会第 60 回大会（東北福祉大学, 9 月 30 日）, 2006
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「生起確率操作によるウソの検討―“真実性”と“許容性”」 日本感情心理学会第 15 回大会（大阪学院大学, 5 月 20 日）, 2007
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「生起確率操作によるウソの検討―ウソをつかれるときの信じることと赦すこと」 日本認知心理学会第 5 回大会（京都大学, 5 月 26 日）, 2007

- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「日常生活における利己的・利他的動機に基づくウソ」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学，9 月 6 日），2007
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「生起確率操作によるウソの検討—信じさせることと赦してもらうこと」 日本心理学会第 71 回大会（東洋大学，9 月 18 日），2007
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「利他的なウソが自己と他者の感情評価に及ぼす影響」 日本感情心理学会第 16 回大会（吾妻女子大学，5 月 18 日），2008.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「強調語が利他的ウソの社会的機能に及ぼす影響」 日本認知心理学会第 6 回大会（千葉大学，6 月 1 日），2008.
- 菊地史倫・阿部恒之・庄司 耀・樋口貴弘 「基本精油がもたらすストレス緩和効果の生理心理学的検討」 日本生理心理学会第 26 回大会（琉球大学，7 月 6 日），2008.
- 菊地史倫・庄司 耀・阿部恒之 「モラルと感情に関する探索的研究—新聞記事「モラルを問う」への投書内容の検討—」 日本心理学会第 72 回大会（北海道大学，9 月 21 日），2008.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之. 「ユーモア知覚が過失に対する寛容さに及ぼす影響」 日本感情心理学会第 17 回大会，2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之. 「他者との関係維持方略としてのウソ」 東北心理学会第 63 回大会，2009.
- 菊地史倫・庄司耀・阿部恒之. 「嗅覚の単純接触効果 - 睡眠中の嗅覚刺激呈示が嗜好に及ぼす影響」 日本認知心理学会第 7 回大会，2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之. 「ユーモアによる過失の言い訳—笑い反応の表示効果」 日本心理学会第 73 回大会，2009.
- 菊地史倫・庄司耀・阿部恒之. 「嗅覚の単純接触効果—ジャスミン・ローズの睡眠中呈示が嗜好に及ぼす影響—」 日本心理学会第 73 回大会，2009.
- 北村康宏・樋口貴広・庄司健・田口澄恵・畑山俊輝. 「香水使用による長期的印象変化」 日本感情心理学会第 13 回大会，2005.
- 北村康宏. 「運転時の聴覚刺激反応課題がドライバーに与える生理的・行動的変化」 日本認知心理学会第 3 回大会，2005.
- 北村康宏・菊地史倫・阿部恒之 「アミラーゼ活性と覚醒水準のサーカディアンリズム」 東北心理学会第 60 回大会（東北福祉大学，9 月 30 日），2006
- 今野晃嗣・仁平義明 「飼い主の評定によるイヌとネコの気質尺度の開発」 日本認知心理学会第 5 回大会（京都大学，5 月 26 日），2007.

- 今野晃嗣・仁平義明 「飼育下ニホンザル *Macaca fuscata* の気質測定」 東北心理学会第 61 回大会 (岩手ホテルアンドリゾート盛岡グランドホテル, 9 月 7 日), 2007.
- 今野晃嗣・日高聡太・丸山俊・柴田寛・栗原通世・田中章浩・藤本茉莉・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「母語と非母語の物語聴取時における脳活動の NIRS による測定 —成人と幼児の比較—」 第 4 回子ども学会議 (日本子ども学会学術集会) (慶應義塾大学, 9 月 15-16 日), 2007.
- 今野晃嗣・仁平義明 「イヌ(*Canis familiaris*)とネコ(*Felis catus*)の気質評定尺度の開発 (1) : 13 次元尺度の信頼性と気質タイプ」 日本心理学会第 71 回大会 (東洋大学, 9 月 19 日), 2007.
- 今野晃嗣・村山美穂・友永雅己・仁平義明 「動物園で暮らすニホンザル *Macaca fuscata* のパーソナリティ測定」 SAGA10 in Tokyo (恩賜上野動物公園, 11 月 17 日), 2007
- 今野晃嗣・丸山俊・日高聡太・田中章浩・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「英語活動経験が英語音素対聴取時における幼児の脳活動に及ぼす影響: NIRS による検討」 電子情報通信学会・思考と言語研究会 (鬼首, 8 月 8 日), 2008
- 今野晃嗣・仁平義明 「動物恐怖の獲得とその修正過程に関する調査」 東北心理学会第 62 回大会 (東北大学, 7 月 20 日), 2008
- 今野晃嗣・仁平義明 「イヌ恐怖とネコ恐怖の比較」 日本心理学会第 72 回大会 (北海道大学, 9 月 19 日), 2008
- 今野晃嗣・早坂正美・村山美穂・友永雅己・仁平義明. 「ニホンザルの『性格』展示 —動物園来園者の行動変化—」 SAGA11 (Support for African/Asian Great Apes) in Tokyo, 2008.
- 小山香織・大淵憲一 「E メール相互作用の時間特性: 印象形成における反応潜時の役割」 東北心理学会第 61 回大会 (岩手大学, 9 月 7 日), 2007
- 熊谷智博. 「非当事者攻撃に対する不公正の影響」 東北大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム社会階層と不平等研究教育拠点公正部門ワークショップ, 2005.
- 熊谷智博・大淵憲一. 「集団同一化と被害の公正知覚の非当事者攻撃に対する効果」 東北心理学会第 59 回大会, 2005.
- 熊谷智博・大淵憲一. 「非当事者攻撃における公正と集団成員性の効果」 日本社会心理学会第 46 回大会, 2005.
- 熊谷智博・大淵憲一 「非当事者攻撃に対する手続き的公正の効果」 日本社会心

- 理学会第 47 回大会（東北大学, 9 月 17 日）, 2006
- Kumagai, T. 「The effects of procedural fairness, group identification, and group member's opinion on third party aggression」 東北大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム 社会階層と不平等研究教育拠点ワークショップ（東北大学, 10 月 22 日）, 2006
- 熊谷智博 「公正判断に対する道徳ジレンマと潜在的自尊心の効果」 日本社会心理学会第 48 回大会ワークショップ 公正研究の理論的展開と展望（早稲田大学, 9 月 22 日）, 2007
- 丸山俊・河地庸介・行場次朗 「単眼奥行き手がかりの時間的特性についての検討」 東北心理学会第 61 回大会（岩手ホテルアンドリゾート盛岡グランドホテル, 9 月 7 日）, 2007
- 丸山俊・河地庸介・行場次朗 「絵画的奥行き手がかりの時間的特性に関する検討 —マスクパターンの効果—」 東北心理学会第 62 回大会（東北大学, 7 月 19 日）, 2008
- 丸山俊・今野晃嗣・日高聡太・柴田寛・栗原通世・田中章浩・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「英語活動経験が物語聴取時における幼児の脳活動に及ぼす影響—NIRS による検討—」 電子情報通信学会・思考と言語研究会（鬼首, 8 月 8 日）, 2008
- 丸山俊・今野晃嗣・日高聡太・柴田寛・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「母語と非母語の物語聴取時における脳活動の NIRS による測定—幼児の英語活動経験の観点から—」 日本心理学会第 72 回大会（北海道大学, 9 月 19 日）, 2008.
- 丸山俊・河地庸介・行場次朗 「絵画的奥行き手がかりの時間的実行範囲」 日本基礎心理学会第 27 回大会, 2008.
- 真覚健・伊師華江・足立智昭・幸地省子. 「口唇裂口蓋裂者の表出した笑顔に対する認知」 電子情報通信学会, 2005.
- 松崎博文・昼田源四郎・鶴巻正子 「発達障害幼児の保護者支援の在り方と課題—福島大学「つばさ教室」でのペアレント・トレーニングの取り組みから—」 第 26 回日本教育大学協会全国特殊教育部門合同研修会熊本大会年（熊本大学, 11 月 22 日）, 2007.
- 三浦 秀徳・濱口 佳和・森 丈弓 「青年の能動的・反応的攻撃性に関する研究（2）」 日本犯罪心理学会第 46 回大会, 2008.
- 森丈弓 「コンジョイント分析による性犯罪の悪質性の判断基準に関する研究」

- 北海道東北心理学会合同大会第10回大会（東北福祉大学，10月），2006.
- 森丈弓・大淵憲一 「非行少年用リスクツールの作成」 日本心理学会第71回大会（東洋大学，9月），2007.
- 森丈弓・三浦秀徳 「日本語版低自己統制尺度の信頼性と妥当性の検証」 東北心理学会第61回大会（岩手大学，9月），2007.
- 森丈弓・大淵憲一 「3G リスクツールによる非行少年のリスクアセスメント」 日本犯罪心理学会第45回大会（福島大学，9月），2007.
- 森 丈弓・小坂 清文・中村 隆・市川 守・島田 貴仁. 「シンポジウム 犯罪・非行の計量分析」 日本犯罪心理学会第46回大会,2008.
- 森 丈弓・菅藤 健一・高橋 哲・丸山 もゆる・相澤 優・石黒 裕子・内山 八重・小野 広明・吉澤 淳・大淵 憲一. 「3G リスクツールによる非行少年のリスクアセスメント（2）」 日本犯罪心理学会第46回大会,2008.
- 村田朱音・鶴巻正子・仁平義明 「自閉傾向のある児童への包括的な学級支援—授業を阻害する発言に対する担任の働きかけ—」 日本自閉症スペクトラム学会第7回研究大会（東北大学，9月13日），2008
- 長崎英美・上原俊介・大淵憲一 「親密な人間関係と嫉妬：拒絶の敏感さが嫉妬反応に及ぼす影響」 東北心理学会第62回大会（東北大学，7月20日），2008
- 長崎英美・上原俊介・大淵憲一 「親密な人間関係と嫉妬—拒絶の敏感さが嫉妬反応に及ぼす影響—」 日本社会心理学会第49回大会（鹿児島大学，11月2日），2008
- 長崎英美・河島三幸・野村美佳・阿部恒之. 「『ときめき』という心理現象の実態把握—対象と生理反応の自覚を中心に—」 日本社会心理学会第73回大会，2009.
- 中川知宏・仲本尚文・山入端津由・大淵憲一. 「集団報酬が集団同一化に及ぼす効果：一般群と非行群との比較」 犯罪心理学会第43回大会，2005.
- 中川知宏・仲本尚史・國吉真弥・森丈弓・山入端津由・大淵憲一 「個人および集団差別と集団境界透過性が非行集団への同一化に及ぼす効果」 日本犯罪心理学会第46回大会,2008.
- 中川知宏・仲本尚史・國吉真弥・森丈弓・山入端津由・大淵憲一. 「非行集団の組織性が集団同一化に及ぼす効果 - 集団境界透過性の調整効果 - 」 日本心理学会第73回大会,2009.
- 朴香花・鶴巻正子. 「機能的アセスメントに基づき幼稚園の担任と一緒に作る行動支援計画」 日本行動分析学会第27回年次大会，2009.

- 朴香花・鶴巻正子. 「自閉症幼児に対する機能的アセスメントを用いた個別の指導計画の作成」 日本自閉症スペクトラム学会第8回大会, 2009.
- 朴香花・鶴巻正子. 「幼稚園における個別の指導計画の作成状況—福島県内の幼稚園を対象とした質問紙調査の結果分析—」 日本特殊教育学会第47回大会, 2009.
- 大類純子・丹羽真一・仁平義明. 「リズィリエンシーから見た摂食障害・統合失調症・うつ病・人格障害患者の比較」 東北心理学会 59回大会, 2005.
- 大坂紘子. 「児童養護施設入所児童の不登校問題の施設内での対処(2)」 東北心理学会第59回大会, 2005.
- 大坂紘子・高橋知久・小谷佐知・澤村岳人 「うつ病入院患者の職場復帰事例—心理士による関わり」 第53回防衛衛生学会（陸上自衛隊三宿駐屯地衛生学校, 2月6日） 2008.
- 大坂紘子・阿部真理子・高橋知久・小谷佐知・宇都宮勝之 「職場、家族、病院を含めた調整を行った心因性嘔吐の一例—心理士の関わり—」 第47回防衛衛生学会（小牧グランドホテル, 2月14日） 2008.
- 及川裕・大淵憲一. 「社会的排斥と Self-defeating behavior : 暗黙の契約モデルによる検討」 東北心理学会第59回大会, 2005.
- 奥田永・仁平義明. 「感情表出の制御ストラテジー—強調・抑制・マスキング—」 東北心理学会, 2005.
- 佐伯涼香・仁平義明 「留学に伴う異文化適応による感情の長期的変動」 日本心理学会第70回大会（福岡国際会議場, 11月4日）, 2006.
- 齋藤高史・大淵憲一. 「葛藤回避と集合的勘違い：日本人の集団主義傾向における個人差」 東北心理学会第59回大会, 2005.
- 齋藤高史・大淵憲一. 「葛藤回避と集合的勘違い：自他の私的信念と行動反応における性差」 日本社会心理学会第46回大会, 2005.
- 齋藤高史・大淵憲一. 「葛藤回避と集合的勘違い：社会的調和に基づく価値との関連」 科学技術と日本人の価値意識研究ワークショップ, 2009.
- 作田由衣子・行場次朗. 「正立顔と倒立顔における印象と再認記憶の比較—顔の性差に注目して—」 認知心理学会第3回大会, 2005.
- 佐々木智佳子. 「集団間の類似度の違いがステレオタイプに与える影響：社会的アイデンティティ理論の視点から」 東北心理学会第59回大会, 2005.
- 佐々木智佳子・松崎友世・本間道子. 「集団間の類似度の違いがステレオタイプに与える影響：集団変動性の知覚を手がかりとして」 日本社会心理学会第46

- 回大会, 2005.
- 佐藤智穂・阿部恒之 「メーキャップが顔の知覚に及ぼす影響」 東北心理学会  
第 62 回大会（東北大学, 7 月 20 日） 2008.
- 佐藤智穂・阿部恒之 「アイシャドーが目の大きさ知覚に及ぼす影響」 第 13 回  
日本顔学会大会（東京大学, 10 月 11 日） 2008.
- 佐藤拓・菊地史倫・仁平義明. 「ウソはどのような言語内容から判断されるのか？」  
第 3 回認知心理学会, 2005.
- 佐藤拓・仁平義明. 「ウソの手がかりの信念と自信」 第 59 回東北心理学会, 2005.
- 佐藤拓・仁平義明. 「高度なウソのストラテジー—“ウソ”だと思って欲しい真実・  
“ウソ”だとわかって欲しいウソ—」 第 69 回日本心理学会, 2005.
- 佐藤拓・仁平義明 「“ウソ”だと思って欲しい真実・“ウソ”だとわかって欲しいウ  
ソ」 日本認知心理学会第 4 回大会（中京大学, 8 月 2 日）, 2006
- 佐藤拓・仁平義明 「高度なウソのストラテジー：“ウソ”だと思って欲しい真実・  
“ウソ”だとわかって欲しいウソ」 日本心理学会第 70 回大会（九州大学, 11  
月 3 日）, 2006
- 佐藤拓・仁平義明 「ウソの手がかりに関する信念の性差」 東北心理学会・北  
海道心理学会第 10 回合同大会（東北福祉大学, 9 月 30 日）, 2006
- 佐藤拓・仁平義明・菊地史倫 「ウソの手がかりの信念に対する性格特徴の影響」  
東北心理学会第 61 回大会（岩手大学, 9 月 7 日）, 2007
- 佐藤拓・仁平義明 「ウソの手がかりに関する信念の男女差」 日本心理学会第  
71 回大会（中京大学, 9 月 18 日）, 2007.
- 佐藤 拓・仁平義明 言語からの虚偽検出：形態素解析と CBCA の判別力の比較」  
日本認知心理学会第 6 回大会（千葉大学, 6 月 1 日） 2008.
- 佐藤拓・仁平義明 「嘘のリバイズ：真実らしく見せるためのストラテジー」 東  
北心理学会第 62 回大会（東北大学, 7 月 19 日） 2008.
- 佐藤拓・仁平義明 「自閉症スペクトラム傾向と被害妄想的観念の関連性」 日本  
自閉症スペクトラム学会第 7 回大会（東北大学 9 月 13 日） 2008.
- 佐藤拓・仁平義明 「嘘のリバイズ：練られた嘘は見抜くことは可能か？」 日  
本心理学会第 72 回大会（北海道大学, 9 月 21 日） 2008.
- 佐藤 拓・仁平義明. 「消防士の高所恐怖」 日本感情心理学会第 17 回大会, 2009.
- 佐藤 拓・山本佳子・富田 香. 「回復力共有体験によるメンタルヘルスへの影響」  
日本学生相談学会第 27 回大会, 2009.
- 柴田寛・杉山磨哉・鈴木美穂・金情浩・行場次朗・小泉政利. 「日本語短距離か

- き混ぜ文における間接プライミング効果の減衰特性」 電子情報通信学会 (思考と言語研究会), 2005.
- 柴田寛・鈴木美穂・行場次朗. 「物体の受け取り動作の適切さ評定と NIRS による脳活動の測定」 第7回日本ヒト脳機能マッピング学会, 2005.
- 柴田寛・行場次朗. 「ダイナミックタッチによる手の到達可能範囲の予測」 東北心理学会第59回大会, 2005.
- 柴田寛・行場次朗 「錘をつけた腕を振る条件と静止条件における腕の長さ知覚の差異」 日本認知心理学会第4回大会 (中京大学, 8月2日), 2006
- 柴田寛・行場次朗 「腕の長さ知覚に錘をつける位置が与える影響」 日本認知科学会第23回大会 (中京大学, 8月3日), 2006
- 柴田寛・行場次朗 「腕の身体イメージの変化—錘の位置・錘の有無・腕の動き・肘の位置が及ぼす影響—」 東北心理学会第60回大会 (東北福祉大学, 10月1日), 2006
- 柴田寛・行場次朗 「動的・静的条件における腕の長さ知覚の検討—錘の付与と肘の位置の効果—」 電子情報通信学会 HIP 研究会 (東北大学, 12月8日), 2006
- 柴田寛・行場次朗 「二者間の協同動作の適切さを評定しているときの事象関連電位」 日本認知心理学会第5回大会 (京都大学, 5月27日), 2007
- 柴田寛・行場次朗 「他者から手渡された物体を受け取る動作の適切さの検討」 電子情報通信学会 HIP 研究会 (金沢工業大学, 11月19日), 2007
- 柴田寛・日高聡太・行場次朗・今泉修・松江克彦 「二者間の協同動作を観察する視点と適切さ評価に関与する脳内基盤」 日本認知心理学会第6回大会 (千葉大学, 5月31日), 2008
- 柴田寛・日高聡太・行場次朗・今泉修・松江克彦 「手渡された物体を受け取る動作の適切さと観察視点がの活動に及ぼす影響—NIRS を用いた検討—」 東北心理学会第62回大会 (東北大学, 7月20日), 2008
- 柴田寛・日高聡太・行場次朗・今泉修・松江克彦. 「自己もしくは他者が動作を協調させるときの脳活動—fMRI と NIRS による検討—」 日本感性福祉学会第8回大会, 2008.
- 柴田理瑛・河地庸介・行場次朗 「運動誘発盲 (motion-induced blindness) を指標とした物体単一性の検討—空間範囲の限界測定—」 東北心理学会第60回大会 (東北福祉大学, 9月), 2006.
- 柴田理瑛・河地庸介・行場次朗 「物体の単一性に及ぼす知覚的群化の影響」 ~



- motion-induced blindness を指標として ～」 ヒューマン情報処理研究会（東北大学, 12月7日）, 2006.
- 柴田理瑛・河地庸介・行場次朗 「近接・閉合の要因が物体単一性に及ぼす影響—motion-induced blindness を指標として—」 日本視覚学会（東京工業大学, 1月31日）, 2007.
- 柴田理瑛・河地庸介・行場次朗 「物体の知覚的消失に及ぼす知覚的群化要因の相互作用に関する定量的検討」 東北心理学会第61回大会（岩手大学, 9月7日）, 2007.
- 柴田理瑛・河地庸介・行場次朗 「Motion-induced blindness を用いた近接・閉合手がかりが物体表象に及ぼす相互作用の定量的検討」 ヒューマン情報処理研究会（東北大学, 12月6日）, 2007.
- 柴田理瑛・河地庸介・行場次朗 「物体の知覚的消失に及ぼす近接・閉合の手がかりの実効範囲の検討」 日本基礎心理学会第26回大会（上智大学, 12月8日）, 2007.
- 柴田理瑛・河地庸介・矢入 聡・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「運動誘発盲により消失した視覚意識を復活させる短バースト音」 応用音響研究会（東北大学, 8月4日）, 2008.
- 柴田理瑛・河地庸介・矢入 聡・行場次朗 「消失した視覚意識を回復させる聴覚情報の効果と視聴覚相互作用の水準」 日本基礎心理学会第27回大会, 2008.
- 柴田理瑛・久保寺俊朗・櫻井研三 「側方頭部運動に連動した運動刺激と運動視差奥行刺激との視野闘争」 第13回VR心理学研究会, 2009.
- 柴田理瑛・行場次朗 「ターゲットの運動方向が運動誘発盲における知覚的消失に及ぼす影響」 東北心理学会第63回大会, 2009.
- 設楽茉莉絵・阿部恒之 「性別判断における顔の色彩情報の影響」 東北心理学会第63回大会, 2009.
- 庄司耀・阿部恒之 「感情の適応的機能に関する研究」 東北心理学会第61回大会（岩手大学, 9月6日）, 2007
- 庄司耀・菊地史倫・阿部恒之 「社会生活マナー形成における感情の役割—エスカレータ乗車に関する調査—」 日本感情心理学会第16回大会（大妻女子大学, 5月17, 18日）2008.
- 庄司耀・阿部恒之 「睡眠中の香り接触による生理心理学的変化」 東北心理学会第62回大会（東北大学, 7月19, 20日）2008.
- 庄司耀・阿部恒之・菊地史倫・樋口貴広 「ストレス課題に対する香りの認知的効

- 果の検討—印象・嗜好の関連について—」 日本心理学会第 72 回大会（北海道大学，9 月 19，20，21 日）2008.
- 鈴木美穂・行場次朗 「視覚 - 触覚モダリティ間における単純接触効果の検討」  
日本認知心理学会第 3 回大会，2005.
- 鈴木結花・鈴木美穂・行場次朗 「テクスチャの触覚的粗さ判断に及ぼす聴覚情報の影響について」 日本基礎心理学会第 25 回大会（広島大学，6 月 9 日），2006
- 鈴木結花・行場次朗 「クロスモーダル干渉の検討 —聴覚刺激と触覚刺激を用いて—」 北海道・東北心理学会第 10 回合同大会（東北福祉大学，9 月 30 日），2006
- 鈴木美穂・河地庸介・行場次朗 「絵画鑑賞時の知覚変容—location memory を指標として—」 日本心理学会第 71 回大会（東洋大学，9 月 18 日），2007.
- 鈴木結花・鈴木美穂・行場次朗 「聴覚情報が触覚的粗さ知覚に及ぼす影響」 ヒューマン情報処理研究会（東北大学，12 月 5 日），2006
- 鈴木結花・柴田寛・福光優一郎・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「幼児と成人における意味逸脱文聴取時の事象関連電位」 日本認知心理学会第 5 回大会（京都大学，5 月 26 日），2007
- 鈴木結花・行場次朗 「微細テクスチャの触覚的粗さ知覚におよぼす聴覚刺激の影響」 東北心理学会第 61 回合同大会（岩手ホテルアンドリゾート盛岡グラウンドホテル，9 月 6 日），2007
- 鈴木結花・柴田寛・福光優一郎・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「幼児と成人における事象関連電位を用いた意味処理の比較」 第 4 回日本子ども学会議（慶応大学，9 月 15 日），2007
- 鈴木結花・行場次朗 「触りに無関連な聴覚刺激が触覚的粗さ知覚におよぼす影響について」 ヒューマン情報処理研究会（金沢工業大学，11 月 19 日），2007
- 鈴木結花・柴田寛・福光優一郎・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「日本語意味処理に関わる ERP の幼児期における発達的变化と英語活動の影響」 日本認知心理学会第 6 回大会（千葉大学，6 月 1 日），2008
- 鈴木結花・柴田寛・福光優一郎・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「幼児期における母語意味処理の発達的变化と非母語活動の影響—ERP を用いた縦断的検討—」 TL2008-21, 49-54, (ホテルオニコウベ，8 月 8 日)，2008
- 鈴木結花 「テクスチャ知覚における触覚・聴覚の相互作用（ワークショップ「『触』経験と多感覚統合）」 日本心理学会第 72 回大会（北海道大学，9 月 19 日），2008

- 鈴木結花・行場次朗. 「テクスチャの粗さ知覚におよぼす聴触覚情報の一致性の影響」. 日本基礎心理学会第 27 回大会, 2008
- 戴伸峰・大淵憲一・黄富源. 「台湾一般市民における非行原因認知、非行予測が厳罰化態度に及ぼす影響」 日本犯罪心理学会第 43 回大会, 2005.
- Takada, N. 「Forgiveness and justice in conflict resolution: Research outline and agenda」 CSSI Workshop, 2005.
- Takada, N. 「Forgiveness and justice in conflict resolution: Can third party reduce the victim's sense of injustice」 CSSI division of fairness Workshop, 2005.
- Takada, N. 「Forgiveness in conflict resolution: Can the third party reduce the victim's sense of injustice? 」 東北大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム社会階層と不平等研究教育拠点ワークショップ (東北大, 1 月 16 日), 2006.
- 高田奈緒美・大淵憲一 「紛争解決における寛容性の研究: 第三者の責任帰属が寛容性に与える影響」 日本社会心理学会第 47 回大会 (東北大学, 9 月 17 日), 2006.
- Takada, N. & Ohbuchi, K. 「Forgiveness and the role of audience in conflict resolution」 Oral presentation at the International Symposium Management of Social Problems and Justice in Group Contexts, (Sendai Japan; March 4), 2006.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「空間位置情報処理における好み (preference) の影響」 東北心理学会第 62 回大会 (東北大学, 7 月 19 日), 2008
- 高橋純一・畠山孝男 「視覚的探索と視空間ワーキングメモリの個人差」 日本心理学会第 72 回大会 (北海道大学, 9 月 21 日), 2008
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚パターンの空間位置情報処理における好みの影響」 日本感性福祉学会第 8 回大会, 2008.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚パターンの空間位置記憶における好みの影響の特異性」 日本基礎心理学会第 27 回大会, 2008.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚パターンの空間位置記憶における好みの影響の多様性」 電子情報通信学会 (HIP), 2008.
- 高橋純一・鈴木結花・柴田寛・福光優一郎・加藤幸子・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「幼稚園年長期における母語意味処理に関わる ERP におよぼす非母語活動の影響」 第 11 回日本ヒト脳機能マッピング学会, 2009.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚パターンの空間位置記憶における感性情報処理と物理特性の関連」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「パターン認知における冗長度からは予測でき

- ない感性特性の検討」 日本認知心理学会第 7 回大会, 2009.
- 高橋純一・行場次朗 「視覚パターンの冗長度と認知的情報負荷量の関連」 日本心理学会第 73 回大会, 2009.
- 田村達. 「非人間的ラベリングの認知機構」 東北大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム社会階層と不平等研究教育拠点公正部門ワークショップ, 2005.
- Tamura, T. 「Cognitive Mechanisms of Dehumanizing Labels」 東北大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム社会階層と不平等研究教育拠点第 16 回ワークショップ, 2005.
- 田村達・大淵憲一. 「非人間的ラベリングの認知機構」 東北心理学会第 59 回大会, 2005.
- 田村達・大淵憲一 「攻撃の合理性と非人間的ラベリング」 日本社会心理学会第 47 回大会（東北大学, 9 月 18 日）, 2006.
- Tamura, T. 「Injustice Mechanisms of Dehumanizing Labels」 International Symposium of Tohoku University COE program, “The Center for the Study of Social Stratification and Inequality”（東北大学, 11 月 25 日）, 2006.
- Tamura, T. 「Mechanisms of Resistance to Dehumanizing Labels」 東北大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム社会階層と不平等研究教育拠点ワークショップ（東北大学, 3 月 12 日）, 2007.
- Tamura, T. 「Legitimacy of Aggression and Dehumanizing Labels」 東北大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム社会階層と不平等研究教育拠点ワークショップ（東北大学, 7 月 23 日）, 2007.
- 田村達・大淵憲一 「非人間的ラベルの対象判断とラベリングへの抵抗」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学, 9 月 6 日）, 2007.
- 田村達・大淵憲一 「攻撃の正当性と非人間的ラベリング： ラベリングによる攻撃の合理化」 日本社会心理学会第 48 回大会（早稲田大学, 9 月 22 日）, 2007.
- 丹治敬之・野呂文行・鶴巻正子 「比較刺激に対する反応分化手続き導入による構成見本合わせ課題獲得の促進効果」 日本行動分析学会第 26 回年次大会（横浜国立大学, 8 月 9 日）, 2008
- 丹治敬之・鶴巻正子 「ADHD のある中学生に対する英単語の読み綴り指導ー見本合わせ手続きと構成見本合わせ手続きを導入した指導プログラムー」 日本特殊教育学会第 46 回大会「2008 山陰大会」（鳥取大学・島根大学, 9 月 20

- 日), 2008
- 寺本渉・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一 「聴覚情報が視覚的 representational momentum に及ぼす影響」 聴覚研究会 (神戸, 10 月), 2008
- 寺本渉・吉田和博・浅井暢子・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一. 「一般的理解としての「臨場感」 日本バーチャルリアリティ学会 VR 心理学研究委員会第 12 回研究会, 2008.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美・稲垣成昭 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤: 指導者との葛藤場面の分類」 全国私立リハビリテーション学校連絡協議会第 20 回教育研究大会 (ホテル東京ガーデンパレス, 8 月 24 日), 2007.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美・稲垣成昭 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤: 対象者との対人葛藤の分類」 第 10 回宮城県作業療法学会 (東北文化学園大学, 10 月 14 日), 2007
- 勅使河原麻衣・渥美恵美・稲垣成昭・村井則子 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤: 対象者への葛藤解決方略」 第 42 回日本作業療法学会 (長崎県立総合体育館, 6 月 21 日), 2008.
- 勅使河原麻衣、渥美恵美 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤: 指導者への葛藤解決方略」 全国私立リハビリテーション学校連絡協議会第 21 回教育研究大会 (松山全日空ホテル, 8 月 22 日), 2008.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美. 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤: 評価技術実習と総合実習での葛藤解決方略」 第 43 回日本作業療法学会, 2009.
- Tin Aung Moe 「An empirical study of cultural values in Myanmar」 日本社会心理学会第 47 回大会 (東北大学, 9 月 18 日), 2006
- Tin Aung Moe 「The development of family values scale」 北海道・東北心理学会第 10 回合同大会 (東北福祉大学, 10 月 1 日), 2006
- Tin Aung Moe 「Value variations in Japan and Myanmar」 東北心理学会第 61 回大会 (岩手大学, 9 月 6 日), 2007
- Tin Aung Moe 「Value orientations of Myanmar University students」 日本社会心理学会第 48 回大会 (早稲田大学, 9 月 24 日), 2007
- Tin Aung Moe 「A cross-cultural study of values systems in Japan and Myanmar」 東北心理学会第 62 回大会 (東北大学, 7 月 20 日), 2008
- 鶴巻正子・仁平義明 「否定的記述を含む測定が児童に及ぼす影響」 日本特殊教育学会第 46 回大会「2008 山陰大会」 (鳥取大学・島根大学, 9 月 20 日), 2008

- 上原俊介・大淵憲一. 「対人規範の違反と怒り感情：意図か？被害か？」 日本社会心理学会第 46 回大会, 2005.
- 上原俊介・大淵憲一. 「対人規範の違反と怒り感情：共有的志向性が規範の違反知覚に及ぼす影響」 東北心理学会第 59 回大会, 2005.
- 上原俊介・大淵憲一 「欲求伝達可能性の判断が怒り表出に及ぼす影響：人間関係の調整効果を中心に」 北海道・東北心理学会第 10 回合同大会（東北福祉大学, 10 月 1 日）, 2006.
- 上原俊介・大淵憲一・中川知宏 「対人規範の違反と怒り感情：怒りに対する規範の構造分析」 日本心理学会第 70 回大会（九州大学, 11 月 5 日）, 2006.
- 上原俊介 「ひとが偽善に動機づけられるとき：男女差の検討 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学, 9 月 6 日）, 2007.
- 上原俊介・岡田卓也 「欲求に対する責任は利他的動機を生み出すか？共有的志向性が偽善動機づけに及ぼす影響」 日本心理学会第 71 回大会, 2007.
- 上原俊介・岡田卓也. 「人はなぜ道徳的に振る舞えないのか？偽善動機づけが道徳的振る舞いに及ぼす影響」 日本社会心理学会第 48 回大会（東洋大学, 9 月 20 日）, 2007.
- 上原俊介・長崎芙美・船木真悟 「対人規範の違反と怒り感情：拒絶の敏感さが怒りに及ぼす効果」 東北心理学会第 62 回大会（東北大学, 7 月 20 日）, 2008
- 上原俊介・大淵憲一・船木真悟 「対人規範の違反と怒り感情：欲求に対する責任が怒りに及ぼす効果」 日本心理学会第 72 回大会（北海道大学, 9 月 19 日）, 2008
- 上原俊介・中川知宏・古畑麻紗子・船木真悟・長崎芙美 「偽善動機づけが反社会的行動に及ぼす影響：コスト脅威の知覚に注目して」 日本社会心理学会第 49 回大会（鹿児島大学, 11 月 2 日）, 2008.
- 上原俊介. 「自己利益か？公正か？関係規範が怒りの動機に及ぼす影響」 日本心理学会第 73 回大会, 2009.
- 上原俊介・森丈弓・国佐勇輔. 「共有的志向性が怒りの動機に及ぼす影響」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 上原俊介・中川知宏. 「関係規範の違反と怒り感情：公正な状況に対する怒り反応」 日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第 56 回大会合同大会, 2009.
- 山本雄大・小松さくら・大淵憲一 「社会システムと社会権力に対する認知が性差別行動正当化に及ぼす影響」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学, 9 月

6日), 2007

山本雄大・大淵憲一 「潜在的ステレオタイプが評価極性効果に与える影響」 社会心理学会第48回大会(早稲田大学, 9月24日), 2007

山本雄大・大淵憲一 「女性への優遇措置が課題遂行に与える影響」 東北心理学会第62回大会(東北大学, 7月20日) 2008.

山本雄大・小松さくら・大淵憲一 「慈悲的性差別への接触が課題遂行量に与える影響」 社会心理学会第49回大会(鹿児島大学, 11月3日~4日), 2008.

吉田和博・寺本渉・浅井暢子・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一. 「「臨場感」に関するイメージ調査」 電子通信情報学会ヒューマン情報処理研究会, 2008.

### 3 大学院生・学部生の受賞状況

2005年度

鈴木美穂(DC) 第3回日本認知心理学会優秀発表賞(新規性部門)、  
東北大学総長賞

佐伯涼香(学部学生) 東北大学総長賞

2006年度

河地庸介(DC) 日本基礎心理学会第25回大会優秀発表賞

2007年度

日高聡太(DC)他 第5回日本認知心理学会優秀発表賞(発表力評価部門)

菊地史倫(DC)他 第15回日本感情心理学会優秀発表賞

荒木剛(DC) 東北大学総長賞

河地庸介(DC) 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション賞

山本雄大(DC) 日本社会心理学会若手研究者奨励賞

2008年度

高橋純一(MC)他 日本基礎心理学会第27回大会優秀発表賞

2009年度

引地博之(DC) 日本社会心理学会若手研究者奨励賞

鈴木結花(DC) 日本基礎心理学会第27回大会優秀発表賞

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

2005年度 2名 (DC1 0名、DC2 2名、PD 0名)

2006年度 1名 (DC1 0名、DC2 1名、PD 0名)

2007年度 2名 (DC1 1名、DC2 1名、PD 0名)

2008年度 2名 (DC1 2名、DC2 0名、PD 0名)

2009年度 3名 (DC1 0名、DC2 3名、PD 0名)

## 5 留学・留学生受け入れ

### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2004年度 学部 計1名 ニューサウスウェルズ大学 (オーストラリア)

2005年度 学部 計1名 カリフォルニア大学 (アメリカ合衆国)

2008年度 学部 計1名 カリフォルニア大学 (アメリカ合衆国)

2009年度 学部 計1名 マルク・ブロック大学 (フランス)

### 5-2 留学生の受け入れ状況 (学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
05	1	2	3
06	2	0	2
07	1	2	3
08	2	2	4
09	2	1	3
計	8	7	15

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	1	0	1
06	0	2	2
07	0	2	2
08	0	1	1
09	0	1	1
計	1	6	7

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

金地美知彦 (八戸大学) 2005年度

八田武俊 (岐阜医療科学大学) 2005年度

本多明生 (いわき明星大学) 2005年度



伊師華江（宮城高専）2005 年度  
中川知宏（東北福祉大学）2005 年度  
鈴木美穂（日本学術振興会）2005 年度  
戴伸峰（台湾国立中正大学）2005 年度  
北村康宏（鉄道総合技術研究所）2006 年度  
作田由衣子（早稲田大学）2006 年度  
大類純子（愛知学院大学）2006 年度  
荒木剛（東北大学）2007 年度  
柴田寛（日本学術振興会）2007 年度  
高田奈緒美（東北福祉大学）2008 年度  
河地庸介（東北福祉大学）2008 年度  
池田和浩（山形大学）2009 年度

## 7- 2 専攻分野出身の高度職業人

2005 年度 1 名  
2006 年度 0 名  
2007 年度 1 名  
2008 年度 1 名  
2009 年度 0 名

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

## 10 刊行物

Tohoku Psychologica Folia（年刊）

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

東北心理学会事務局（2004～2009 年度：現在継続中）  
みやぎ発達支援の会事務局（2003 年度～2005 年度）  
東北グループダイナミックス研究会（1990 年度～現在）

日本認定心理士会北海道・東北支部第 10 回研修会兼みやぎ発達支援の会第 5 回研究会（2006 年 1 月 13 日：講師 大類純子「摂食障害に関する新しい研究の動向」）

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

### 2005 年度

電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会（2005 年 12 月 15 日、16 日：「感性情報処理および人間情報処理一般」）

視覚心理学研究会（2006 年 3 月 28 日：「両眼視研究の最前線」）

グループダイナミックス研究会（2005 年 7 月 11 日、2006 年 3 月 4 日）

### 2006 年度

日本社会心理学会第 47 回大会（2006 年 9 月 17、18 日）

グループダイナミックス研究会（2006 年 11 月 25 日、2007 年 3 月 24 日）

### 2008 年度

日本自閉症スペクトラム学会第 7 回研究大会（2008 年 9 月 13、14 日）

日本感性福祉学会第 8 回大会（2008 年 11 月 16 日）

日本基礎心理学会第 27 回大会（2008 年 12 月 6、7 日）

## 1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

心理学専攻分野としての研究活動、教育活動ともに、毎年、着実な努力と進展がみられる。本分野では、2005 年 3 月に一人の教員（畑山俊輝教授）が定年により退職し、後任教員（阿部恒之准教授）が 2005 年 8 月に着任した。2001 年度から 2005 年度まで、学部学生、大学院生は文学部・文学研究科内で最も所属院生・学生数が多い専攻分野の一つである。

1933 年以来、心理学研究室では、日本で最も古い欧文心理学学術誌として『Tohoku Psychologica Folia』誌を刊行している。2008 年で、巻数は 63 巻を数える。本誌は、古くから心理学の国際的抄録誌『Psychological Abstracts』の収録対象誌であり、同時にデータベース『PsycLIT』の収録対象誌になっている。海外からの投稿論文も掲載されている。継続的な国際発信の努力のあらわれであるといえる。

心理学専攻分野では、教員の研究は質量ともに優れた水準にあり、その結果は教育に効果的に反映されている。幸い教員の定員が 5 名であるために、学生の研究のニーズに応じられる教育領域の幅広さが確保されている。

課程博士の授与数は過去 5 年間で 13 人であり、毎年、後期課程の定員 3 にほぼ見合

った数の課程博士を輩出している。

大学院生が国際学会において発表を行った件数は合計 62 件に及び、文学研究科でも突出している。これは、国内の各大学が国際学会を開催する努力をしてきたことにも起因するが、自発的に国外で発表を行う大学院生の増加をも反映しているといえる。学内における本専攻分野の学生の評価も高く、2005 年度は、特に優れた学生に授与される東北大学総長賞に、大学院生・学部学生ともに同じ心理学専攻から選ばれている。2007 年度も大学院生が総長賞を受賞した。また、2005～8 年の間に、7 人の大学院生がそれぞれの学会で学会賞を受賞したことは、特筆に値する。社会人大学院生も、大学教員のほか、医師、看護師など近接領域からの入学もみられる。

国外からの留学生も学部学生、大学院生とも例年コンスタントに受け入れており、国際貢献を果たしている。

官公庁や産業界、自治体、教育界からの貢献の要請にも、共同研究や研修講師、講演および特別講義、各種委員などのさまざまなかたちで、十二分に応えている。

### Ⅲ 教員の研究活動（2005 年度～2009 年度）

#### 1 教員の論文発表等

##### 1- 1 論文

##### 仁平義明教授

米田英嗣・仁平義明・楠見 孝 「物語理解における読者の感情；予感， 共感，  
違和感の役割」、『心理学研究』、75 巻第 6 号、479-486、2005

仁平義明 「セクシュアル・ハラスメントの訴えを男性は女性よりも信用しない：  
O'donohue と O'Hara の研究」、『東北大学学生相談所紀要』、32 号、29-31、  
2006 年 3 月

池田忠義・吉武清實・高野明・佐藤静香・関谷佳代・仁平義明 「予防教育と  
しての講義「学生生活概論」が受講者に及ぼす影響—予防の効果及び学生相  
談所に対する認識に焦点を当てて」 『東北大学学生相談所紀要』、32 号、  
1-8、2006 年 3 月

高野明・吉武清實・池田忠義・佐藤静香・関谷佳代・仁平義明 「東北大学に  
おける修学支援を中心としてピア・サポート」、『東北大学学生相談所紀要』、  
32 号、9-16、2006 年 3 月

遠山智子・吉武清實・池田忠義・佐藤静香・関谷佳代・仁平義明・菊池武剋 「大  
学生の「大学適応」と「居場所」の関係に関する研究」、『東北大学学生相  
談所紀要』、32 号、17-24、2006 年 3 月

- 仁平義明 「大学生の思考の柔軟性は低下したか—「ルーチンスの水差し問題」の解：15年間の変化—」、『東北大学高等教育開発推進センター紀要』、第1号、99-108、2006年3月
- 池田忠義・吉武清實・高野明・佐藤静香・関谷佳代・仁平義明 「学生相談の支援活動における水準と視点—面接室における支援と面接室から踏み出しての支援—」、『東北大学高等教育開発推進センター紀要』、第1号、83-90、2006年3月
- 高野明・吉武清實・池田忠義・佐藤静香・関谷佳代・仁平義明 「学生相談活動における情報提供のあり方についての検討—学生が求める情報の質的分析から—」、『東北大学高等教育開発推進センター紀要』、第1号、91-97、2006年3月
- 大類純子・丹羽真一・仁平義明 「リズリエンシーからみた摂食障害・統合失調症・うつ病・人格障害患者の比較」 『精神医学』、48, 6, 681-684, 2006年6月
- Kikuchi, F., Sato, T., & Nihei, Y. 「What speech contents do people use to detect deceit? 」 『Tohoku Psychologica Folia』、65, 37-44, 2006
- Ohrui, J. & Nihei, Y. 「The change of resiliency with the recovery from eating disorders」 『Tohoku Psychologica Folia』、65, 95-98, 2006
- Sato, T. & Nihei, Y. 「Effects of lie-catchers' confidence on their beliefs about deception cues」 『Tohoku Psychologica Folia』、65, 99-108, 2006
- 仁平義明 「発達障害について説明するとき—説明を通して何を指すか」 『児童心理』（臨時増刊 No.849）、2006年10月
- 仁平義明 「リズリエンシーを育てる口腔成育」 『矯正臨床ジャーナル (*Journal of Orthodontic Practice*) 』、2007年1月
- 神尾陽子・仁平義明 「自閉症の認知研究の現在—特集号の企画にあたって」 『心理学評論』、Vol.50, No.1, (神尾陽子・仁平義明編集 特集「自閉症の認知研究の現在」)、2007年7月
- 仁平義明・神尾陽子 「自閉症者の「並外れた才能」再考」 『心理学評論』、50 (1), (神尾陽子・仁平義明編集 特集「自閉症の認知研究の現在」)、2007年7月
- 仁平義明・本多明生・北村康宏 「交通事故加害者の心理的苦悩からの回復過程：「ゆるし」への支援」 『三井三菱海上福祉財団成果報告集』（交通安全等・高齢者福祉）、11, 2007年8月

- 仁平義明 「自閉症者の「並外れた」能力の意味」 『教育と医学』（慶應義塾大学出版会）（No.652）, 2007年10月
- Honda, A. & Nihei, Y. 「Comparison of an intelligible route description: Creating graphic maps from written route directions」. 『*Tohoku Psychologica Folia*』, 66, 29-39, 2007.
- Sato, T., Kikuchi, F. & Nihei, Y. 「Adolescent and Young adult beliefs about deception」. 『*Tohoku Psychologica Folia*』, 66, 54-61, 2007.
- Saeki, S. & Nihei, Y. 「Children's multiple language use in the families temporary staying in Japan: Unbalanced proportion of language use between parents and children」  
『*Tohoku Psychologica Folia*』, 66, 75-88, 2007.
- 仁平義明・大平直子 「双生児の親密さとアイデンティティ—神話と事実—」.  
『東北大学文学研究科研究年報』, 第57号, 45-71, 2008年.
- 仁平義明 「日常的エラーと高安全度必要場面のエラー」 『日本情報ディレク  
クトリ学会誌』 Vol.6, 25-30, 2008年.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「過失に対する赦しの評価に怒り感情・  
信憑性・重大性の評価が及ぼす影響」, 『感情心理学研究』15巻, 97-105, 2008  
年.
- 今野晃嗣・仁平義明 「ヒト乳幼児の気質モデルに基づいたイヌとネコの気質  
尺度」. 『ヒトと動物関係学会誌』 20, 56-65, 2008年.
- 仁平義明・佐伯麻有 「賞賛的アサーティブネス尺度作成の試み」. 『東北大学  
学生相談所年報』 第2号、23-31, 2008年.
- 八田純子・仁平義明 「摂食障害傾向女子高校生の日常生活および身体に関する  
評価」 『健康心理学研究』, 21, 10-20, 2008年.
- 仁平義明・吉原直樹・平川新・増田聡・今村文彦・佐藤拓・今野晃嗣 「東北6  
県全市町村の防災研修ニーズ—「防災・被災対応のソフトウェア」の重要性  
—」. 『仙台都市研究』, vol.6, 1-9, 2008年.
- Yamamoto, Y. & Nihei, Y. 「Difficulties in adjusting to college life experienced by  
Students with Pervasive Developmental Disorders: Comparison with schizophrenic  
students.」. 『*Tohoku Psychologica Folia*』, 67, 1-5, 2008.
- Nihei, S. & Nihei, Y. 「Contrasting Rorschach test results in Asperger's syndrome and  
high-functioning Autism.」. 『*Tohoku Psychologica Folia*』, 67, 6-9, 2008.
- Sato, T. & Nihei, Y. 「Gender differences in confidence about lying and lie detection.」.  
『*Tohoku Psychologica Folia*』, 67, 71-73, 2008.
- Honda, A. & Nihei, Y. 「Sex differences in object location memory: The female advantage

- of immediate detection of changes.」. 『*Learning and Individual Differences*』, 19, 234-237, 2009.
- 仁平義明 「人間力育成のパラダイム・シフト—ハーディネス（心の頑強さ）からレジリエンシー（心の回復力）へ—」 岡堂哲雄編『心理臨床フロンティア—倫理の再構築に向けて』, 『現代のエスプリ』500号, 194-205, 2009年.
- 池田和浩・仁平義明 「ネガティブな体験の肯定的な語り直しによる自伝的記憶の変容」. 『心理学研究』, 79, 481-489, 2009年.
- 佐藤拓・仁平義明 「青年期のキャリア・レジリエンス—進路決定のリスク要因・促進要因」. 『東北大学学生相談所年報』, 第3号, 23-27, 2009年.
- Sato, T. & Nihei, Y. 「Contrasting tactics in deceptive impression management.」. 『*Social Behavior and Personality: An international Journal*』 1, 37, 267-281, 2009.
- Sato, T. & Nihei, Y. 「Sex differences in beliefs about cues to deception.」. 『*Psychological Reports*』, 104, 759-769, 2009.
- Murakawa, Y. & Nihei, Y. 「Understanding the concept of a ‘good death’ in Japan: Differences in the views of doctors, palliative care and non-palliative ward nurses.」. 『*International Journal of Palliative Nursing*』, 15, 226-233, 2009.
- 山本佳子・仁平義明 「統合失調症の大学生に対する卒業をゴールとしない支援—学生相談のもう一つの方向—」, 『学生相談研究』, 30, 12-22, 2009.

## 大淵憲一教授

- 八田武俊・大淵憲一 「電子メディア交渉における離脱可能性と事前相互作用に関する実験的研究」 『経営行動科学』, 第18巻, 45-51, 2005.
- Tai, S-F., Ohbuchi, K., & Huang, F. F-Y. 「Taiwan citizen’s causal perception toward juvenile delinquency」 『*Journal of Criminology*』, 第8巻, 45-51, 2005.
- Ohbuchi, K., Sugawara, I., Teshigahara, K., & Imazai, K. 「Procedural Justice and the Assessment of Civil Justice in Japan」 『*Law and Society Review*』, 第39巻, 875-891, 2005.
- 大淵憲一 「公共事業政策に対する公共評価の心理学的構造：政府に対する一般の信頼と社会的公正感」 『実験社会心理学研究』, 第45巻, 65-76, 2005.
- 大淵憲一 「政策の公共受容と社会的合意形成：社会心理学的アプローチの可能性」 『実験社会心理学研究』, 45(1), 25-26, 2005.
- 加賀美常美代・大淵憲一 「教育価値観に関する異文化間比較：短縮版尺度開発と包括次元の探索」 『文化』, 第69巻, 96-111, 2005.

- 大淵憲一 「反芻の心理：暴力犯罪者の思考パターン」 『更生保護』, 第 56 卷, 6-12, 2005.
- 渥美恵美・大淵憲一・阿部哲敬・岩谷あつ子 「社会適応機能評定における評定者バイアスの探索的検討」 『リハビリテーション科学』, 第 2 卷, 39-49, 2005.
- Takaku, S., Lee, Y-T., Weiner, B., & Ohbuchi, K. 「A cross-cultural examination of perceptions of apology, responsibility, and justice: The U.S.S. Greenville Accident and the E-P3 Accident」 『Tohoku Psychologica Folia』, 第 64 卷, 39-57, 2005.
- Oikawa, H., Kumagai, T., & Ohbuchi, K. 「Social exclusion and the self-defeating behavior among Japanese」 『Tohoku Psychologica Folia』, 第 64 卷, 14-20, 2005.
- Hatta, T., Oikawa, Y., & Ohbuchi, K. 「The effects of visual cues on negotiation」 『Tohoku Psychologica Folia』, 第 64 卷, 7-13, 2005.
- Ohbuchi, K. & Takada, N. 「Effects and motives of forgiveness in interpersonal conflicts: True and hollow forgiveness」 『Annual Report 2004 of the Center for the Study of Social Stratification and Inequality (the 21th Century Center for Excellence Program, Tohoku University)』, pp.98-112, 2005.
- Nakagawa, T., Nakamoto, N., Yamanoha, T., & Ohbuchi, K. 「Effects of group rewards on group identification among delinquent and non-delinquent adolescents」 『Tohoku Psychologica Folia』, 第 64 卷, 31-38, 2005.
- 大淵憲一 「対人葛藤における消極的解決方略：新しい対人葛藤スタイル尺度の開発に向けて」 『東北大学文学研究科年報』, 第 55 卷, 78-92, 2005.
- 大淵憲一 「日本における性犯罪対策の新しい試み」 『東北大学文学研究科年報』, 第 56 卷, 133-154, 2006.
- Ohbuchi, K., Takaku, S., & Shirakane, S. 「Account selection in inter-group conflict: A cross-cultural consideration」 『Tohoku Psychologica Folia』, 第 65 卷, 86-94, 2006.
- 田村達・大淵憲一 「非人間的ラベリングが攻撃行動に及ぼす効果：格闘 TV ゲームを用いた実験的検討」 『社会心理学研究』, 第 22 卷, 165-171, 2006.
- 福島治・大淵憲一・小嶋かおり 「対人葛藤における多目標：個人資源への関心、評価的観衆、及び丁寧さが解決方略の言語反応に及ぼす効果」 『社会心理学研究』, 第 22 卷, 103-115, 2006.
- Kumagai, T. & Ohbuchi, K. 「Third party aggression: Effects of cooperation and group membership」 『Psychologia』, 第 49 卷, 152-161, 2006.
- 大淵憲一 「いじめにおける「からかい」：その功罪」 『児童心理』, 843 号, 23-28, 2006.

- Ohbuchi, K. 「Public evaluation and acceptance of public enterprise policies in Japan: Evaluative clusters, political parties, and residential areas」 『CSSI Annual Report 2005』, 84-100, 2006.
- 大淵憲一 「公共事業政策の評価と合意形成の社会心理学的研究：手続き的公正理論の応用」 『平成 15-18 年度科学研究費補助金研究成果報告書』, 2007.
- 中川知弘・仲本尚史・山之端津由・大淵憲一 「集団同一化と集団志向性が集団非行に及ぼす影響：一般群と非行群の比較」 『応用心理学研究』, 8, 61-72, 2007.
- Hatta, T., Ohbuchi, K., & Fukuno, M. 「An experimental study on the effects of excitability and correctability on electronic negotiation」 『Negotiation Journal』, 第 23 卷, 283-305, 2007.
- Hatta, T. & Ohbuchi, K. 「Effects of visual cue and spatial distance on excitability in electronic negotiation」 『Computers in Human Behavior』, 第 24 卷, 1542-1551, 2007.
- Ohbuchi, K. & Saito, T. 「Cognitive causes of conflict avoidance among Japanese: An approach from pluralistic ignorance」 『Progress in Asian Social Psychology』, 第 6 卷, 83-97, 2007.
- 大淵憲一 「メディア社会の中の暴力」 『児童心理』, 第 867 号, 57-62, 2007.
- 大淵憲一・渥美恵美 「弁明選択の心理的および状況的規定因と文化的価値：何が謝罪を困難にするか？」 『文化』, 第 70 卷, 364-372, 2007.
- 大淵憲一 「社会的排斥と暴力：理論的・実証的検討」 『東北大学文学研究科年報』, 第 57 卷, 109-120, 2007.
- 渥美恵美・大淵憲一・稲垣成昭・勅使河原麻衣 「社会的交流技能実習事前教育プログラムに関する研究：社会的交流技能自己評価 (SA) 尺度 Ver2 作成と因子分析」 『東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』, 第 4 卷, 11-19, 2007.
- 稲垣成昭・渥美恵美・勅使河原麻衣・大淵憲一 「社会的交流技能事前教育プログラムに関する研究：学生の自己評価と性格要因の検討」 『東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』, 第 4 卷, 21-28, 2007.
- 大淵憲一 「公共事業政策の評価と合意形成の社会心理学的研究：手続き的公正理論の応用」 『平成 15-18 年度科学研究費補助金研究成果報告書』, 2007.
- 中川知弘・仲本尚史・山之端津由・大淵憲一 「集団同一化と集団志向性が集団非行に及ぼす影響：一般群と非行群の比較」 『応用心理学研究』, 第 8 卷, 61-72, 2007.



- Ohbuchi, K., Atsumi, E., & Takaku, S. 「Do people reject apology for group harms? A cross-cultural consideration」 『Tohoku Psychologica Folia』, 第 66 卷, 46-53, 2007.
- Saito, T. & Ohbuchi, K. 「Gender differences in the cognitive cause of Japanese conflict avoidance: An approach in pluralistic ignorance」 『Tohoku Psychologica Folia』, 第 66 卷, 62-67, 2007.
- Tamura, T. & Ohbuchi, K. 「The moderation effect of justifiability for aggression between dehumanizing labels and aggression」 『Tohoku Psychologica Folia』, 第 66 卷, 97-104, 2007.
- 中川知宏・仲本尚史・國吉真弥・森丈弓・山入端津由・大淵憲一 「集団同一化と 集団志向性が集団非行に及ぼす効果：集団構造による差異の検討」 『平成 18 年度社会安全研究財団報告書（一般研究助成）』, 2007.
- 大淵憲一 「メディア社会の中の暴力」 『児童心理 2007 年 10 月号臨時増刊』, 57-62, 2007.
- 大淵憲一 「社会的排斥と暴力：実験社会心理学的検討」 『2007 年暴力與毒品犯罪心理與矯治国際學術検討會大會手冊（2007 International Conference on Violence and Drugs Abuse Proceedings）』, 25-40, 2007.
- Ohbuchi, K. 「Do people reject apology for group harm? A cross-cultural consideration」 『CSSI Annual Report 2006』, 142-151, 2007.
- 大淵憲一・渥美恵美 「弁明選択の心理的および状況的規定因と文化的価値：何が謝罪を困難にするか？」 『文化』, 第 70 卷, 364-372, 2007.
- Ohbuchi, K. 「Japanese' conflict on justice: Fairness principles and social ideals」 『CSSI Annual Report 2007』, 124-131, 2008.
- 八田武俊・小林正和・大淵憲一・福野光輝 「不快情動と社会的関心への注意が交渉に及ぼす影響」 『対人社会心理学研究』, 第 8 卷, 17-21, 2008.
- 田村達・大淵憲一 「持つものと持たざるもの：「人間的感情」と差別意識」 『現代のエスプリ』, 第 494 号, 167-175, 2008.
- 大淵憲一 「社会的排斥と不適応：実験社会心理学的検討」. 群馬大学社会情報学部（編）『平成 20 年度群馬大学社会心理学セミナー報告』, 1-21, 2008.
- 小松さくら・大淵憲一 「金銭と時間に関する余裕の見積もりと楽観性との関連」 『社会心理学研究』, 第 24 卷, 45-49, 2008.
- 大淵憲一・白井利明・松本由起子 「感情教育のニュアンス：その光と影」 『現代のエスプリ』, 第 494 号, 5-35, 2008.
- 大淵憲一・川嶋伸佳・青木俊明 「社会資本整備における公共受容の要因：政策

- 評価次元とデモグラフィック変数による分析」『土木学会論文集D』, 第 64 卷, 325-339, 2008.
- 大淵憲一・渥美恵美 「OT 臨床実習のための社会的交流技能の検討：概念構成と尺度開発」『文化』, 第 71 卷, 253-270, 2008.
- 大淵憲一・佐藤弘夫・三浦秀一 「現代日本人の価値観と伝統的思想：仏教、儒教、神道・国学の思想内容と調査項目の作成」『東北大学文学研究科研究年報』, 第 58 卷, 154-180, 2008.
- 大淵憲一・川嶋伸佳 「現代日本人における仏教、儒教、神道・国学思想の受容：社会調査による分析」『文化』, 第 72 卷, 101-122, 2008.
- Moe, T. A. & Ohbuchi, K. 「An empirical study of cultural values in Myanmar」, 『Tohoku Psychological Folia』, 第 67 卷, 10-20, 2008.
- Ohbuchi, K., Atsumi, E., & Takaku, S. 「Cross-cultural study on victim's responses to apology in interpersonal and intergroup conflicts」, 『Tohoku Psychologica Folia』, 第 76 卷, 53-60, 2008.
- 大淵憲一 「怒りを活用する心理教育」『現代のエスプリ』, 第 503 号, 185-195, 2009.
- 大淵憲一 「健全な自己愛を育てる」『児童心理』, 第 899 号, 32-38, 2009.
- 熊谷智博・大淵憲一 「非当事者攻撃に対する集団同一化と被害の不公正さの効果」『社会心理学研究』, 第 24 卷, 200-207, 2009.
- 高田奈緒美・大淵憲一 「対人葛藤における寛容性の研究：寛容動機と人間関係」『社会心理学研究』, 第 24 卷, 208-218, 2009.
- 引地博之, 青木俊明, 大淵憲一 「地域に対する愛着の形成機構：物理的環境と社会的環境の影響」『土木学会論文集』, 第 65 卷, 101-110, 2009.
- Tracet, A., Rasclé, O., Souchon, N., Coulomb-Cabagno, G., Petrucci, C., & Ohbuchi, K. 「Aggression in soccer: An exploratory study of accounts preference」『Research Quarterly for Exercise and Support』, 第 80 卷, 印刷中, 2009.
- Takaku, S., Green, J. D. & Ohbuchi, K. 「A cross-national examination of the perpetrator-victim account estimation bias as a function of different types of accounts」『Asian Journal of Social Psychology』, 印刷中, 2009.
- Ohbuchi, K. & Atsumi, E. 「Avoidance brings Japanese employees what they care about in conflict management: Its functionality and “Good Member” image」『Negotiation and Conflict Management』, 印刷中, 2009.

## 行場次朗教授

- Ishi, H., Gyoba, J., and Kamachi, M. 「Effects of the Dynamic Presentation of Smile on the Evaluation of Various Impressions of Face」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 64, 21-30, 2005.
- Suzuki, M., Gyoba, J. and Sakuta, Y. 「NIRS analysis of brain activity during semantic differential rating of drawing stimuli containing different affective polarities」 『Neuroscience Letters』 , 375, 53-58, 2005. (ISI 被引用 1)
- Sakuta, Y. & Gyoba, J. 「Affective Impressions and Memorability of Color-Form Combinations.」 『Journal of General Psychology』 , Vol 133(2) Apr 2006, 191-207.
- 渡邊貫治・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一・高根昭一 「身体特徴量に基づく両耳間時間差の予測に関する検討」 『日本バーチャルリアリティ学会誌』 , 10, 609-618, 2005.
- 渡邊貫治・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一・高根昭一 「仮想音環境のための頭部伝達関数コーパス」 『FIT2005 情報技術レターズ』 , 237-240, 2005.
- Hidaka, S., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Analyses of Internal Depth Information of 3-D Objects in Apparent Motion Path」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 65, 1-9, 2006.
- Iwaizumi A. Futami R. Kanoh S. Gyoba J. 「Characteristics of human luminance discrimination and modeling a neural network based on the response properties of the visual cortex. 」 『Biological Cybernetics』 , 94(5), 381-392, 2006. May.
- Kawachi, Y. & Gyoba, J. 「Presentation of a visual nearby moving object alters stream/bounce event perception」 『 Perception』 , 35(9), 1289-1294, 2006.
- Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「A new response-time measure of object persistence in the tunnel effect」 『 Acta Psychologica』 , 123(1-2), 73-90, 2006.
- Kitaoka, A., Gyoba, J., and Sakurai, K. 「The visual phantom illusion: a perceptual product of surface completion depending on brightness and contrast. Chapter 13」 『Progress in Brain Research』 , 154 (Visual Perception Part 1), 247-262, 2006.
- Sakuta & Gyoba, 2006 Effects of affective impressions on recognizing upright and inverted faces. 『Tohoku Psychologica Folia』 , 65, 57-72, 2006 .
- Sakuta, Y. & Gyoba, J. 「Affective Impressions and Memorability of Color-Form Combinations.」 『Journal of General Psychology』 , Vol 133(2) Apr 2006, 191-207.
- Suzuki, Y., Suzuki, M., & Gyoba, J. 「Effects of auditory feedback on tactile roughness perception」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 65, 225-232, 2006

- 柴田寛・杉山磨哉・鈴木美穂・金情浩・行場次朗・小泉政利 「日本語節内かき混ぜ文の痕跡位置周辺における処理過程の検討」 『認知科学』, 13, 301-315, 2006.
- 鈴木美穂・行場次朗・山口浩・川畑秀明・小松紘 「モダリティ・ディファレンシャル法による形容詞対の感覚関連性の分析」 『心理学研究』, 77, 464-470, 2006.
- Hidaka, S., Shigeta, R., Kawachi, Y., Sakuta, Y., & Gyoba, J. 「Speed and consistency of sound-color association in a colored-hearing test」 『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 68-74, 2007.
- Honda, A., Shibata, H., Gyoba, J., Saitou, K., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Transfer effects on sound localization performances from playing a virtual three-dimensional auditory game」 『Applied Acoustics』, 68, 885-896, 2007.
- Kawachi, Y., Kawabe, T., & Gyoba, J. 「Spatiotemporal integration of object features in the stream/bounce event perception」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 25(2), 273-274, 2007.
- Mochizuki, M., Tashiro, M., Gyoba, J., Suzuki, M., Okamura, N., Itoh, M., and Yanai, K. 「Brain activity associated with dual-task management differs depending on the combinations of response modalities.」 『Brain Research』, 1172, 82-89, 2007.
- Shibata, H., Suzuki, M., & Gyoba, J. 「Cortical activity during the recognition of cooperative actions」 『NeuroReport』, 18, 697-701, 2007.
- Wade, N. J., Sakurai, K., and Gyoba, J. 「Guest editorial essay: Whither Wundt?」 『Perception』. Vol 36(2) 2007, 163-166.
- 作田由衣子・伊師華江・中原幸枝・赤松茂・行場次朗 「顔の印象が持つ加算的・非加算的特性の印象変換ベクトル法による検証」 『日本顔学会誌』, 7, 65-76, 2007.
- 本多明生・柴田寛・行場次朗・岩谷幸雄・鈴木陽一・大内誠 「三次元聴覚ディスプレイ研究の新展開－聴覚 VR ゲームによる転移効果－」 『日本バーチャルリアリティ学会論文誌』, 12(4), pp487-496, 2007.
- Hidaka, S., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Depth Representation of Moving 3D Objects in Apparent Motion Path」 『Perception』, 37, 688-703, 2008
- Suzuki, M. & Gyoba, J. 「Visual and tactile cross-modal mere exposure effects.」 『Cognition & Emotion』, 22, 147-154, 2008.
- Suzuki, M. Okamura, N., Kawachi, Y. Tashiro, M., Arao, H., Hoshishiba, T., Gyoba, J.,

- Yanai, K. 「Discrete cortical regions associated with the musical beauty of major and minor chords」 『Cognitive, Affective, & Behavioral Neuroscience』 , 8(2), 126-131, 2008.
- Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Physical offset of an invisible object can recover visual awareness suppressed by motion-induced blindness」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』 , 27(1), 109–110, 2008.
- Suzuki, Y., Gyoba, J., & Sakamoto, S. 「Selective effects of auditory stimuli on tactile roughness perception」 『Brain Research (Special issue: Multisensory Integration)』 1242, 87-94, 2008.
- 河地庸介・行場次朗 「視覚的事象の知覚に関する最近の研究動向：物体同一性、因果性、通過・反発事象の知覚」 『心理学評論』 ,51(2), 206-219, 2008.
- 日高聡太・行場次朗 「仮現運動事態で内的に形成される運動物体表象」 『心理学評論』 , 心理学評論, 51, 220-234. 2008.
- 柴田寛・行場次朗 「他者から手渡された物体を受け取る動作の選択」 『生態心理学研究』 , 3, pp35-43, 2008.
- 柴田寛・日高聡太・行場次朗・今泉修・松江克彦 「協同動作を観察する視点と適切さ評価が脳活動に及ぼす影響-NIRS を用いた検討」 『感性福祉研究所年報』 , 9, pp63-72, 2008.
- Honda, A., Shibata, H., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Transfer effects on communication and collision avoidance behavior from playing a three-dimensional auditory game based on a virtual auditory display」 『Applied Acoustics』 , 70, pp868-874, 2009.
- Shibata, H., Gyoba J., & Suzuki, Y. 「Event-related potentials during the evaluation of the appropriateness of cooperative actions」 『Neuroscience Letters』 , 452, pp189-193, 2009.
- Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S. & Gyoba, J. 「Psychological evaluation of higher-order facial impressions synthesized by the impression transfer vector method」 『Kansei Engineering International』 , 9, (in press)
- Hidaka, S., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「The representation of moving 3-D objects in apparent motion perception」 『Attention, Perception & Psychophysics』 , 71, 1294-1304, 2009.
- Suzuki, Y., Gyoba, J., & Sakamoto, S. 「Correspondence of tactile and auditory information modifies the effects of sound on the tactile perception of roughness」

『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, in press.

日高聡太・行場次朗 「東北大学心理学研究室における古典的実験機器の歴史と特色—京都大学との比較から—」 『心理学史・心理学論』, 10/11, 49-55, 2009.

行場次朗 「感性次元の感覚関連性と脳活動」 『感性工学』, 8, 225-227, 2009.

#### 阿部恒之准教授（2005年7月までの期間は前務地での業績）

Abe, T. 「Odor, information and new cosmetics: The ripple effect on life by aromachology research」, 『Chemical Senses』, 30, (suppl) 1, i246-i247, 2005.

阿部恒之 「サクセスフルエイジング—加点法的美意識の提案」, 『人間生活工学』, 6(1), 14-17, 2005.

阿部恒之 「メーキャップの心理学」, 『ファインケミカル』, 35(11), 15-21, 2006.

Oda, Y., Abe, T., Takano, R., Tatsuta, A., & Nakamura, M. 「A model of the relationship between psychosocial variables and diurnal cortisol rhythm under chronic stress by using structural equations」, 『Behaviormetrika』, 34(1), 45-57, 2007

阿部恒之・高野ルリ子 「色彩と容貌印象の心理学的関連」, 『日本化粧品学会誌』, 31(3), 157-162, 2007.

Kikuchi, F. ・ Sato, T 「Effects of a personal relationship between deceiver and lie-receiver on ratings of veracity and forgiveness」, 『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 40-45, 2007.

菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「過失に対する赦しの評価に怒り感情・信憑性・重大性の評価が及ぼす影響」, 『感情心理学研究』, 15(2), 115-123, 2008..

阿部恒之 「心理学にとっての化粧品」, 『ファルマシア』, 44(5), 443-447, 2008.

阿部恒之 「化粧品心理学の芽生えから今日まで」, 『フレグランスジャーナル』, 36(5), 108-110, 2008.

阿部恒之・佐藤智穂 「心理学で読み解くメーキャップ—色彩・錯視・顔の認知・魅力」, 『バイオインダストリー』, 25(10), 39-45, 2008.

阿部恒之・大川恵・高野ルリ子 「容貌の印象形成に及ぼす過般化の影響—顔だちマップの理論的基盤に関する実験的検討」, 『日本顔学会誌』, 8, 87-96, 2008.

阿部恒之・庄司耀・菊地史倫・樋口貴広 「基本精油のストレス緩和効果—印象

- と反応の関連」, 『アロマセラピー学雑誌』, 9巻, 60-78, 2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「弁明としてのウソが利益とコストの評価に及ぼす影響」, 『感情心理学研究』, 16, 220-228, 2009.
- 小宮山みなみ・阿部恒之・上原俊介・菊地史倫 「学生のQOLに影響する要因の検討—社会的行動制御スタイル・感情を中心に」, 『早稲田大学臨床心理研究』, 8, 53-66, 2009.
- 阿部恒之・佐藤智穂・遠藤光男 「目の大きさ知覚に及ぼすアイシャドーの効果—まぶたの影の位置・範囲・濃さを操作した実験的検討」, 『日本顔学会誌』, 10, 2009 (印刷中).
- 嗅覚の単純接触効果—ジャスミン・ローズの睡眠中呈示 (庄司耀・菊地史倫と共著, 『感情心理学研究—特集・化学感覚の感情心理学』, 17, 2, 2009 (印刷中)).

#### 辻本昌弘准教授

- 辻本昌弘 「資源交換と共同体：講集団の社会心理学的研究」 『東北大学文学研究科研究年報』, 55, 64-76, 2005.
- 辻本昌弘 「アルゼンチンにおける日系人の頼母子講：一般交換による経済的適応戦略」 『質的心理学研究』, 5, 165-179, 2006.
- 辻本昌弘・國吉美也子・與久田巖 「沖縄の講集団にみる交換の生成」 『社会心理学研究』, 23, 2007.
- Tsujimoto, M. 「Economic adaptation and ethnic cooperation: The rotating savings and credit association of the Japanese in Buenos Aires」 『Latin American Studies』, 16, 241-267, 2008.
- 辻本昌弘 「地域社会の事例による交換の検討」 『難民キャンプ設置による社会変動への地元の対応に関する学際的研究—北西ケニア・トゥルカナ地方カクマ周辺地域、社会心理学と人類学の共同調査—』 (科学研究費補助金研究成果報告書) (研究代表者 作道信介), 270-290, 2008.
- 辻本昌弘 「社会的交換の生成と維持：沖縄の講集団の追跡調査」 『東北大学文学研究科研究年報』, 58, 113-129, 2008.

#### 荒木剛助教 (2008年度以降の業績)

なし

## 1-2 著書・編著

### 仁平義明教授

#### <単著>

仁平義明『百人のモナリザー俳句から読む心理学』 ブレーン出版, 2006年9月

#### <編著>

仁平義明(編著) 『防災の心理学—ほんとうの安心とは何か』 東信堂, 2009年3月

#### <共同編著>

畑山俊輝・仁平義明・大淵憲一・行場次朗・畑山みさ子 『感情心理学パースペクティブズ—感情の豊かな世界』 北大路書房, 2005年2月

相川恵子・仁平義明 『子どもに障害をどう説明するか』 ブレーン出版, 2005年5月

仁平説子・仁平義明 『アクロニムで覚える自閉症とアスペルガー障害の対応のちがい』 ブレーン出版, 2006年4月

箱田裕司・仁平義明(編著) 『嘘とだましの心理学—戦略的だましからあたたかい嘘まで』 有斐閣, 2006年7月

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 20』 国際文献印刷社, 2007年4月

#### <分担執筆>

仁平義明 「「注意・熟練・知識」の三拍子はエラーを防げるか?—書字のスリッパ—」 大山正・丸山康則(編) 『ヒューマン・エラーの科学—なぜ起こるか、どう防ぐか、医療・交通・産業事故—』 麗澤大学出版会, 2004年4月

仁平義明 「エラーはどのようにして見逃されるか—エラーの検知と修正のモデル」、仲真紀子編『認知心理学の新しいかたち』、誠信書房、47-72、2005年12月

仁平説子・仁平義明 「障害理解と自己理解：自己理解」 柘植雅義・秋田喜代美・納富恵子・佐藤紘昭(編) 『自立をめざす生徒の学習・メンタル・進路指導—中学・高校におけるLD・ADHD・高機能自閉症等の指導—』 東洋館出版社, 2007年1月

仁平義明・仁平説子 「障害理解と自己理解：クラスメイトへの障害理解促進」 柘植雅義・秋田喜代美・納富恵子・佐藤紘昭(編) 『自立をめざす生徒の学



- 習・メンタル・進路指導—中学・高校におけるLD・ADHD・高機能自閉症等の指導—』東洋館出版社, 2007年1月
- 仁平義明 「嘘は真実からの逸脱か?—二分法を超えて」 仁平義明編『嘘の臨床・嘘の現場』(現代のエスプリ 481) 至文堂, 2007年8月
- 仁平義明 「抑圧という自己欺瞞はあるか」 仁平義明(編)『嘘の臨床・嘘の現場』(現代のエスプリ 481) 至文堂, 2007年8月
- 仁平義明 「記憶植えつけ実験はゆるされるか—ジム・コウアンが巻き込まれた嵐のような出来事」 仁平義明(編)『嘘の臨床・嘘の現場』(現代のエスプリ 481) 至文堂, 2007年8月
- 宮崎謙一・仁平義明 「モーツァルトは頭を良くするか—「モーツァルト効果」をめぐる科学とニセ科学」 仁平義明(編)『嘘の臨床・嘘の現場』(現代のエスプリ 481)、至文堂, 2007年8月
- 佐藤拓・仁平義明 「言葉から嘘を見分ける—CBCAとRMによる判別」 仁平義明(編)『嘘の臨床・嘘の現場』(現代のエスプリ 481) 至文堂, 2007年8月
- 仁平義明・佐藤拓 「嘘は女性の方が上手か」 仁平義明(編)『嘘の臨床・嘘の現場』(現代のエスプリ 481) 至文堂, 2007年8月
- 仁平義明・仁平説子 「障害理解と自己理解: クラスメイトへの障害理解促進」 柘植雅義・秋田喜代美・納富恵子・佐藤紘昭(編)『自立をめざす生徒の学習・メンタル・進路指導—中学・高校におけるLD・ADHD・高機能自閉症等の指導—』東洋館出版社, 2007年1月
- 仁平説子・仁平義明 2007「障害理解と自己理解: 自己理解」柘植雅義・秋田喜代美・納富恵子・佐藤紘昭(編)『自立をめざす生徒の学習・メンタル・進路指導—中学・高校におけるLD・ADHD・高機能自閉症等の指導—』東洋館出版社、136-139.

## 大淵憲一教授

### <単著>

- 大淵憲一 『思春期の心』ちくまプリマー新書, 2006.
- 大淵憲一 『犯罪心理学: 犯罪の原因をどこに求めるのか』培風館, 2006.
- 大淵憲一 『親を殺すふつうの子どもたち: ありふれた家庭のありふれた期待がもたらす危険』PHP 研究所, 2009

### <共同編著>

畑山俊輝・仁平義明・大淵憲一・行場次朗・畑山みさ子（編著）『感情心理学  
パースペクティブズ：感情の豊かな世界』北大路書房, 2005

海保博之・楠見孝（監修）、佐藤達哉・岡市廣成・遠藤利彦・大淵憲一・小川俊  
樹（編）『心理学総合事典』朝倉書店, 2006.

Ohbuchi, K.（編著）『Social justice in Japan: Concepts, theories and paradigms』  
Melbourne: Trans Pacific Press, 2007.

阿部恒之・大淵憲一・仁平義明・行場次朗・辻本昌弘『心理学の視点 20』国際  
文献印刷社, 2007.

原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社会階層と不平等』放送大学教育振興会,  
2008.

大淵憲一（編著）『紛争と葛藤の社会心理学：対立する人の心と行動』北大路書  
房, 2008.

大淵憲一（編著）『感情教育：臨床・発達・教育・文芸の世界にみる感情と醇化』  
（現代のエスプリ 494号）, 至文堂, 2008.

日本社会心理学会（編）、大坊郁夫（編集委員長）、池上知子、池田謙一、大淵  
憲一、唐沢かおり、川浦康至、山口裕幸（編集幹事）『社会心理学事典』丸  
善, 2009.

日本心理学会倫理委員会（編）『社団法人日本心理学会倫理規程』社団法人日本  
心理学会, 2009.

#### <分担執筆>

大淵憲一 「社会的問題解決と心理学：紛争解決に貢献するために」 下山晴彦  
（編著）『心理学論の新しいかたち』誠信書房, pp. 197-217, 2005

大淵憲一 「攻撃性と社会的勢力」 潮村公弘・福島治（編）『社会心理学概説』  
北大路書房, 53-62, 2007.

大淵憲一・越智啓太・藤野淳子「犯罪・非行」日本心理学会諸学会連合心理学検  
定局（編）『心理学検定公式問題集』, 実務教育出版, pp. 346-372, 2009.

大淵憲一・越智啓太・藤野淳子「犯罪・非行」日本心理学会諸学会連合心理学検  
定局（編）『心理学検定基本キーワード』, 実務教育出版, pp. 265-290, 2009  
年.

Ohbuchi, K. & Takada, N. 「Forgiveness for conflict resolution in Asia: Its compatibility  
with justice and social control」 C. J. Motiel & N. M. Noor（編）『Peace psychology  
in Asia』, Springer, 2009, 印刷中.

## 行場次朗教授

### <共同編著>

畑山俊輝・仁平義明・大淵憲一・行場次朗・畑山みさ子（編）『感情心理学パースペクティブズ：感情の豊かな世界』北大路書房, 2005.

Gyoba, J. 「Investigation of Klee's paintings based on the 'mind-design model」 F. Maeda (Ed.) 『Paul Klee als Seelenforshcher』 Center for Integrated Research on the Mind KEIO University. 2007.

行場次朗・鈴木美穂・作田由衣子 「Gregory の「心のデザイン」モデルによる視覚芸術作品の分類の試み」 野口薫（編）『美・感性・ゲシュタルト知覚』日本大学文理学部 叢書. 2007.

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 20』国際文献印刷社 2007.

Honda, A., Shibata, H., Hidaka, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Transfer effects on auditory skills from playing virtual three-dimensional auditory display games」 In B. N. Weiss (Ed), 『New Research on Acoustics, Hauppauge』, NY: Nova Science Publishers, in press

### <分担執筆>

行場次朗 「感性印象の測定」 中村捷（編）『人文科学ハンドブック』 東北大学出版会, 2005.

## 阿部恒之准教授

### <共同編著>

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 20』 国際文献印刷社, 2007.

### <分担執筆>

阿部恒之 「化粧と感情・健康」 『感情心理学パースペクティブズ』, 畑山俊輝（編集代表）, 北大路書房, pp.116-122, 2005.

阿部恒之 「暗黙のドレスコード」 『日本の化粧文化—化粧と美意識』, 資生堂企業資料館(編), 資生堂企業文化部, pp.43-80, 2007.

阿部恒之 「化粧」, 『ストレスの科学と健康』, 二木鋭雄（編）, 共立出版, pp.189-193, 2008.

阿部恒之 「災害と化粧」, 『災害の心理学—ほんとうの安心とは何か』 仁平義

明（編），東信堂，pp.213-220，2009.

阿部恒之 「化粧の力」，『化粧セラピー／化粧の新しいちから』，資生堂ビューティーソリューション開発センター（編），日経 BP 社，2009 年（印刷中：12 月発行予定）。

#### 辻本昌弘准教授

##### <共同編著>

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 20』 国際文献印刷社, 2007.

##### <分担執筆>

辻本昌弘 「感情と文化」 畑山俊輝（編）『感情心理学パースペクティブズ』，pp. 32-36, 北大路書房, 2005.

辻本昌弘 「社会化」 潮村公弘・福島治（編）『社会心理学概説』 北大路書房, pp.140-147, 2007.

#### 荒木剛助教（2008 年度以降の業績）

なし

### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

#### 仁平義明教授

仁平義明（分担訳）ジュスリン&スロボダ編『音楽と感情の心理学』（大串健吾監訳）、第 7 章「Negative emotions in music making: The problem of performance anxiety」を担当，誠信書房, 2008.

#### 大淵憲一教授

大淵憲一 「攻撃行動」. 中島義明・繁榊算男・箱田裕司(編), 『新・心理学の基礎知識』 有斐閣, pp. 374-375, 2005.

海保博之・大淵憲一 「心理学：用語の解説」 『現代用語の基礎知識 2006』 自由国民社, pp. 994-998, 2006.

大淵憲一 「蔓延する自己愛の超越に向けて：利他的関心の受け皿必要」 北海道新聞「時代相 2005<4>」（1 月 7 日付），2005.

大淵憲一 「通学路の監視強化を」 朝日新聞全国版「子どもを守る 広がる不安 有効な対策は」（12 月 18 日付），2005.

- 大淵憲一 「濃密すぎる家族の絆と内向きの関心」北海道新聞「自分とは？自己愛とは？④」（1月10日付），2007.
- 大淵憲一 「レイブ神話尺度」氏原寛・岡堂哲雄・亀口憲司・西村洲衛男・馬場禮子・松島恭子（編）『心理査定実践ハンドブック』，創元社，815-817，2007
- 大淵憲一・熊谷智宏（訳）．『コンフリクト』（Martin Jones and Andrew Fabian (Eds.），Darwin College Lecture Series, Vol. 18: Conflict. Cambridge University Press, 2006），培風館，2007.
- 大淵憲一 「特別に肥大した“自己愛”：怒りに向ける対象が社会全体に」公明新聞「解説ワイド：青年による無差別殺人の背景（識者に聞く）」（4月17日付），2008.
- 大淵憲一 「環境犯罪学のすすめ：「地域共同体」崩壊後の防犯を考える」『地域づくり』，第5号，2-5，2008.
- 大淵憲一 「肥大する自己愛に危惧」北海道新聞「相次ぐ無差別殺人」（5月14日付），2008.

#### 行場次朗教授

- 行場次朗 「知覚世界」（他9項目） 森敏昭・中條和光（編）『認知心理学キーワード』 有斐閣，2005.
- 行場次朗 「ヒューマンビジョン」他3項目執筆 人工知能学会（編）『人工知能辞典』 共立出版，2005.
- 行場次朗 「感覚・知覚と感性」大山正・今井省吾・和氣典二・菊地正（編）『新編・知覚心理学ハンドブック』誠信書房，2007
- 行場次朗 「知覚」海保博之・楠見孝（監修）『心理学辞典』朝倉書店，2008
- 行場次朗 「知覚世界」他10項目 森 敏昭・中条和光（編集）『認知心理学キーワード』 有斐閣，2008
- 行場次朗 「図形の認識と錯視」 内川恵二（監修）『視覚心理学入門』オーム社 2008

#### 阿部恒之准教授

##### <書評>

- 阿部恒之 「傳田光洋著『皮膚は考える』（岩波科学ライブラリー，2005）」への書評 『日本顔学会ニューズレター』，31，2006.

##### <新聞取材>

- 阿部恒之 「トレンド館」 読売新聞夕刊 (8月16日付), 2006.
- 阿部恒之 「東北大100年—学び究めて」 河北新報 (6月22日付), 2007.
- 阿部恒之 「河北抄」 河北新報 (10月13日付), 2007.
- 阿部恒之 「お年寄り 化粧で笑顔」 読売新聞埼玉版 (6月7日付), 2008.
- 阿部恒之 「医療ルネサンス—化粧の力」 読売新聞 (3月20日付), 2009.
- 阿部恒之 「Trend and Technology」 The Japan Economic Review (6月15日付), 2009.

#### <新聞連載>

- 阿部恒之 「プリズム」 河北新報 (11月中旬より毎週水曜日20回連載)

#### 辻本昌弘准教授

- 辻本昌弘 「K. J. Gergen 著, 杉万俊夫・矢守克也・渥美公秀 (監訳) 「もう一つの社会心理学—社会行動学の転換に向けて」 (ナカニシヤ出版, 1998) への書評」 『質的心理学研究』, 5, 278-280, 2006.

#### 1-4 口頭・ポスター発表

##### 仁平義明教授

##### <学会シンポジウム・ワークショップ・講演>

- 仁平義明 日本認知心理学会第3回大会シンポジウム「時間・空間・感動：その緩慢な喪失を考える」、指定討論、金沢大学、2005年5月28日
- 仁平義明 日本認知心理学会第3回大会シンポジウム「記憶を測る」、企画者・指定討論者、金沢大学、2005年5月29日
- 仁平義明 日本心理学会第69回大会ワークショップ「ゆるしと和解の進化・発達・文化」、講演『ゆるしの日韓比較／加害者が求めるゆるしと被害者のゆるし』、慶応大学、2005年9月12日
- 仁平義明 日本虐待防止学会第12回学術集會みやぎ大会 分科会「レジリエンシー(回復力)を促進する—世代間連鎖を断つために—」、講演「虐待とレジリエンシーをめぐる研究と実践の現状」(仙台国際センター, 12月9日), 2006.
- 仁平義明 平成18年度科学技術振興調整費「重要政策課題への機動的対応の推進」 “日本人が身に付けるべき科学技術の基礎的素養に関する調査研究 21世紀の科学技術リテラシー像” 人間科学・社会科学専門部会シンポジウム、講演「大学生の思考の柔軟性は低下したか—ルーチンスの水差し問題の解：15年間の変化」(東京大学駒場キャンパス, 3月19日), 2007.

- 仁平義明 日本情報ディレトリ学会 シンポジウム「ヒューマン・エラーの背景と情報ディレトリの役割」、講演 「“日常のエラー”と“高安全必要度場面のエラー”」（LEC東京リーガルマインド水道橋本校，9月1日），2007.
- 仁平義明 日本心理学会第71回大会 ワークショップ「俳句の魅力（2）－創作と読みへの心理学的アプローチ」、指定討論者（帝京大学，9月19日），2007.
- 仁平義明 日本心理学会第71回大会 ワークショップ「カウンセリング対話を科学する（1）－非言語行動の分析－」、指定討論者（帝京大学，9月19日），2007.
- 仁平義明 日本認知心理学会安全心理研究部会研究会講演 「防災教育のために認知心理学ができること－4種類の防災知識の形成」（立教大学 12月1日），2007.
- 仁平義明 日本情報ディレトリ学会九州支部シンポジウム「偽」について：人はなぜ嘘をつくのか、だまされるのか？ 講演「偽」について：人はなぜだまされるのか？（アクロス福岡;日本認定心理士会九州・沖縄支部共催,2月15日），2008.
- 仁平義明 第46回全国保健管理研究集会東北地方研究集会 特別講演 「学生の人間力育成のパラダイム・シフト－ハーディネス（心の頑強さ）からレジリエンシー（心の回復力）へ－」（仙台国際センター,7月24日），2008.
- 仁平義明 日本学術会議「脳と意識」分科会主催シンポジウム「社会脳2008」 講演 「だまされる心」（京都大学;日本ワーキングメモリ学会共催,8月2日），2008.
- 仁平義明 日本心理学会第72回大会ワークショップ「カウンセリングを科学する（2）」 指定討論者（北海道大学 9月19日），2008.
- 仁平義明 日本小児科学会第206回宮城地方会特別講演 「子どものレジリエンシー（心の回復力）をめぐる研究の動向」（ハーネル仙台11月8日），2008.
- 仁平義明 日本音楽知覚認知学会2008年秋季研究発表会公開シンポジウム「音楽環境と子どもの発達」指定討論者（大阪学院大学 12月7日），2008.
- 仁平義明 第5回宮城県立がんセンターフォーラム 特別講演 「がん患者と家族の心の回復力（レジリエンシー）研究の動向」（宮城県立がんセンター2月14日），2009.
- 仁平義明 「日本笑い学会」第16回総会・研究発表会記念講演 「“心の回復力”（レジリエンシー）とユーモア」（東北大学 7月12日，2009.
- 仁平義明 日本心理学会第73回大会学会企画シンポジウム「心理学と倫理（2）」

倫理規程の活用について考える」話題提供者「倫理規程違反があったとき」  
(立命館大学 8月28日), 2009.

仁平義明 日本学術会議心理学教育プログラム委員会 報告者「高等学校教育に  
おける心理学：現状と課題(1)」(日本学術会議 9月7日), 2009.

<国際学会での研究発表>

A. Honda & Y. Nihei 「Anxiety and behavior during wayfinding」 6<sup>th</sup> Tsukuba  
International Conference on Memory: Memory and Emotion: Tsukuba, Japan, 13-15  
March 2005

Ikeda, K., & Nihei, Y. 「Repeated retelling of autobiographical memory」 4<sup>th</sup>  
International Conference on Memory, (Sydney, Australia: July 18), 2006

Murakawa, Y., & Nihei, Y. 「Achieving a ‘Good’ Death in Cancer Patients -- Perceptions  
among Healthcare Professionals in Japan」 The 9<sup>th</sup> World Congress of  
Psycho-Oncology (London, England; Sep. 16-20) 2007.

Nihei, Y., & Konno, A. 「Development of a temperament scale for dogs and cats: (1)  
Sub-scale reliability and temperament types」 11<sup>th</sup> International Conference on  
Human-Animal Interactions (Tokyo, Japan ; October 6-8), 2007.

Konno, A., & Nihei, Y. 「Development of a temperament scale for dogs and cats: (2)  
A factor analysis and a cross-species comparison」 11<sup>th</sup> International Conference  
on Human-Animal Interactions (Tokyo, Japan ; October 6-8), 2007.

Nihei, Y. 「Memory」 (Program address) The 10<sup>th</sup> International Conference on Music  
Perception and Cognition (Sapporo, August 25-28.) 2008

Nihei, Y. & Sato, T. 「The overly suspicious person is easily deceived: The Moses  
illusion and paranoia tendencies.」 SARMACVIII (The 8<sup>th</sup> Meeting of the Society for  
Applied Research in Memory & Cognition) (Kyoto, July 26-28. ) 2009

Ikeda, K. & Nihei, Y. 「The effect of biased retelling and biased rewriting on  
autobiographical memory. 」 SARMACVIII (The 8<sup>th</sup> Meeting of the Society for  
Applied Research in Memory & Cognition) (Kyoto, July 26-28.) 2009

Sato, T., Kikuchi, F., & Nihei, Y. 「Linguistic cues for detecting deception:  
Morphological and content-based analysis. 」 SARMACVIII (The 8<sup>th</sup> Meeting of the  
Society for Applied Research in Memory & Cognition) (Kyoto, July 26-28. ) 2009



<国内学会での一般研究発表>

省略

### 大淵憲一教授

Ohbuchi, K. & Saito, T. 「Cognitive causes of conflict avoidance among Japanese: An approach from pluralistic ignorance」 Paper presented at the symposium, 『Harmony and conflict in Asian Societies』, the 6th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology (April 2, Victoria University, Wellington, New Zealand), 2005

Ohbuchi, K. Chair of the keynote speech by K. Leung, “Asian social psychology: Achievements, threats, and opportunities,” the 6th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology (April 4, Victoria University, Wellington, New Zealand), 2005

Takada, N. & Ohbuchi, K. 「Forgiveness and the role of audience in conflict resolution」 Paper presented at the International Symposium Management of Social Problems and Justice in Group Contexts, the Center for the Study of Social Stratification and Inequality (Tohoku University, Sendai Japan; March 4), 2006.

Ohbuchi, K., Atsumi, E., & Takaku, S. 「Do people reject apology of group harms: A cross-cultural consideration? 」 Paper presented at the Symposium, “Conflict, Harmony and Apology in Cross-Cultural Encounter,” the 18th International Conference of the International Association for Cross-Cultural Psychology (Isle of Spetes, Greece; July 13), 2006.

大淵憲一 「日本における性犯罪対策の新しい試み」 2006年犯罪問題国際討論会 (中正大学, 台湾, 11月9日), 2006.

大淵憲一 「社会的排斥と暴力：実験社会心理学的検討」 2007年暴力犯罪心理と矯正国際シンポジウム (玄奘大学社会科学院, 台湾, 10月13日), 2007.

Ohbuchi, K. 「Japanese’ conflict on justice: Fairness principles and social ideals」 Workshop “Justice in Cultural Context.” (Duke University, USA, 8月9日), 2007.

Komatsu, S. & Ohbuchi, K. 「Relationship between Interpersonal Conflict Styles and Personality among Japanese undergraduate students」 Symposium at the International Conference on Learning Competency (Seoul, Korea, 1月18日), 2008.

Ohbuchi, K. Symposium on 「Forgiveness as a response to interpersonal conflict: Limits and possibilities」 (コメンテーター). International Association of Conflict

Management 2009 Conference (Hyatt Regency Kyoto, Japan, 6 月 16 日), 2009.

<講演・シンポジウム・ワークショップ：国内学会等>

大淵憲一 「現代の若者の問題行動に何ができるか：非行・犯罪・迷惑行為への社会的心理学的アプローチ」（指定討論）．日本社会心理学会第 46 回大会ワークショップ（9 月 25 日、関西学院大学）, 2005

大淵憲一 ワークショップ「政策の公正評価と合意形成」（指定討論）．日本社会心理学会第 47 回大会（東北大学, 9 月 18 日）, 2006.

大淵憲一 「犯罪理論と近年の実証研究の動向」．日本犯罪心理学会平成 18 年度九州地区研究会（福岡市市民福祉プラザ, 12 月 2 日）, 2006.

Ohbuchi, K. 「Management of social problems and justice in group contexts」（企画）．Tohoku University COE International Symposium. (東北大学川内キャンパス, 3 月 4 日), 2006.

大淵憲一 「政策の公正評価と合意形成」（コメンテーター）．日本社会心理学会第 47 回大会（東北大学川内キャンパス, 9 月 18 日）, 2006.

大淵憲一 「性犯罪の心理とその再犯予防、社会的排斥と不適応：実験的検討」．「暴力の原因：攻撃は本能か」いわき明星大学特別講義（いわき明星大学, 11 月 20-21 日）, 2006.

Ohbuchi, K. 「Justice, responsibility and uncertainty in social conflicts」（企画）．Tohoku University COE International symposium (東北大学川内キャンパス, 11 月 25 日), 2006.

大淵憲一 「犯罪理論と近年の実証研究の動向」．日本犯罪心理学会平成 18 年度九州地区研究会（福岡市市民福祉プラザ, 12 月 2 日）, 2006.

Ohbuchi, K. 「Forgiveness and justice in social relations」（企画）．Tohoku University COE International Symposium (東北大学川内キャンパス, 3 月 24 日), 2007.

Ohbuchi, K. 「Inequality issues in Hong Kong」（企画、コメンテーター）．Tohoku University COE Special Workshop (東北大学川内キャンパス, 12 月 2 日), 2007.

Ohbuchi, K. 「Intergroup relations and social fairness」（企画、コメンテーター）Tohoku University COE Special Workshop (東北大学川内キャンパス, 3 月 22 日), 2008.

大淵憲一 「発達領域における攻撃研究の新展開(2)：健康・適応との関連をみる」（コメンテーター）．日本心理学会第 72 回大会（北海道大学, 9 月 21 日）, 2008.

大淵憲一 「犯罪心理学における人格要因：自己統制の低さと逸脱」．パーソナリ

- ティ心理学会第 17 回大会シンポジウム「人はなぜ犯罪を起こすにいたるのか：パーソナリティとの関連を探って」（お茶の水大学, 11 月 16 日）, 2008.
- 大淵憲一「公正の社会的絆：正義・公正の心理学」．東北大学大学院文学研究科グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」開始記念式典・公開講演会（東北大学百周年記念会館会議室, 2 月 7 日）, 2009.
- 大淵憲一「Social justice, social stratification, and intergroup conflict」（企画）．東北大学文学研究科グローバル COE 「社会階層と不平等教育研究拠点」国際シンポジウム（仙台国際センター, 2 月 24 日）, 2009.
- 大淵憲一「社会階層と青少年の逸脱」（企画、司会）．東北犯罪科学研究会・東北大学文学研究科グローバル COE 「社会階層と不平等教育研究拠点」共催ワークショップ（東北大学萩ホール会議室 6 月 20 日）, 2009.
- 大淵憲一「非行臨床の新潮流：マルチシステムミックセラピーの実際」（企画、司会）．東北犯罪科学研究会（東北大学文学研究科心理学研究室 8 月 3 日）, 2009.
- 大淵憲一「心理学専攻生の進路調査から」．日本心理学会第 73 回大会日本心理学会企画ラウンドテーブル「日本心理学会は将来どのような学会を目指すのか：将来構想に関するアンケート調査の結果から」（立命館大学敬学館, 8 月 26 日）, 2009.
- 大淵憲一「防犯心理学の研究動向」（コメンテーター）．日本犯罪心理学会第 47 回大会ミニシンポジウム（沖縄国際大学、宜野湾市、10 月 11 日）.

<国際学会での一般研究発表>

- Tamura, T. & Ohbuchi, K. 「An experimental study of the effects of dehumanization labels on aggressive behavior in a fighting-type video game situation」 Poster presented at the 6th Annual Meeting of the Society of Personality and Social Psychology (January 21, New Orleans), 2005
- Ohbuchi, K. & Atsumi, E. 「Public evaluation and acceptance of public enterprise policies in Japan: Evaluative clusters, political parties, and residential areas」 Paper presented at the 18th Annual Conference of International Association of Conflict Management (June 14, Seville, Spain), 2005
- Kumagai, T. & Ohbuchi, K. 「The effects of group identification and fairness of harm on third party aggression」 Poster presented at the 14th General Meeting of the European Association of Experimental Social Psychology (July 22, Würzburg,

Germany), 2005

Kumagai, T. & Ohbuchi, K. 「The effects of procedural fairness on group identification and third party aggression」 Poster presented at the Annual Conference of the British Psychological Society (Cardiff, Wales, UK; March 30), 2006.

Tamura, T., & Ohbuchi, K. 「Cognitive Mechanisms of Dehumanizing Labels」 Poster presented at the Annual Conference of the British Psychological Society, (Cardiff, U.K.; March, 31), 2006.

Kumagai, T. & Ohbuchi, K. 「The effects of procedural fairness, group identification, and group member's opinion on third party aggression」 Poster presented at the European Association of Experimental Social Psychology Medium Size Meeting on Current Research on Group Perception and Intergroup Behavior : The Role of Motivational Processes (9th Jena Workshop on Intergroup Processes) (Schloss Oppurg, Germany; June 30), 2006.

Takada, N. & Ohbuchi, K. 「Forgiveness in Conflict Resolution: Familiarity, Attribution, and Motives for Forgiveness」 Paper presented at the 3rd Biennial Conference of the International Association for Relationship Research. (Crete, Greece ; July 9.), 2006.

Tamura, T., & Ohbuchi, K. 「The moderating effect of rationality of aggression between dehumanizing labels and aggression」 Poster presented at the Society for Personality and Social Psychology 8th Annual Meeting, (Memphis, Tennessee, USA; January 27), 2007.

Nakagawa, T., & Ohbuchi, K. 「Effect of collective and individual low self-control and group identification on collective problem behavior」 The British Psychological Society (York, United Kingdom, 3月21日), 2007.

Ohbuchi, K. & Atsumi, E. 「Avoidance as a long-range strategy in organizational conflicts: Its functionality and “Good Fellow” image」 The 2008 Conference of International Association of Conflict Management (Renaissance Chicago Hotel, Chicago, USA, 7月5日), 2008.

Nakagawa, T., Nakamoto, N., Kuniyoshi, M., Mori, T., Yamanoha, T., & Ohbuchi, K. 「Effect of perceived group discrimination and permeability of group boundaries on group identification」 The International Society for Research on Aggression (Budapest, Hungary, 6月11日), 2008.

Tamura, T., & Ohbuchi, K. 「The effect of dehumanizing labels on aggression and justification for the behavior」 The International Society for Research on Aggression

- (Budapest, Hungary, 6 月 11 日), 2008.
- Mori, T., Takahashi, M., Kanto, K. & Ohbuchi, K. 「Risk Assessment of Delinquents in Japanese Juvenile Classification Home」 . Annual meetings of the American Society of Criminology (St. Louis, USA, 11 月 13 日), 2008
- Kawashima, N. 「How do People Justify Social Inequalities? : An Examination of System Justification Theory with Japanese People」 . The 3rd International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia (Soul, Korea, 3 月 13 日), 2009.
- Takada, N. & Ohbuchi, K. 「Forgiveness between China and Japan: The effect of categorical level on Chinese forgiveness toward Japanese」 . The 3rd International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia (Soul, Korea, 3 月 13 日), 2009.
- Komatsu, S. & Ohbuchi, K. 「A personality approach to Japanese preference of avoidance in conflict: Neuroticism and its interaction with the situation」 . Poster presented at International Association of Conflict Management 2009 Conference (Hyatt Regency Kyoto, Japan, 7 月 15 日), 2009.
- Hikichi, H., Ohbuchi, K. & Aoki, T. 「Promotion of Cooperation among Community Residents: Effects of Familiarity with Local Historical Heritages and Commitment to the Community」 . The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (Las Vegas, USA, 1 月 28-30 日), 2010.

<国内学会での一般研究発表>

省略

### 行場次朗教授

<講演・シンポジウム>

- 行場次朗 「R.L. Gregory の「心のデザイン」モデルによる視覚芸術作品の分類の試み」 慶應義塾大学 21 世紀人文科学 COE プログラムシンポジウム『実験美学の展開』 (招待講演), 2005.
- 松川順子・行場次朗 「画像認知の新展開：知覚的完成化と視覚美」 日本認知心理学会第 3 回大会シンポジウム (企画), 2005.
- 行場次朗 「カニツァ錯視への多様なアプローチ」 日本心理学会第 69 回大会ワークショップ (指定討論者), 2005.

- 行場次朗 「IT化社会のヒューマンファクター」 東北心理学会第59回大会ワークショップ（指定討論者）, 2005.
- 行場次朗 「心のデザインモデルに基づくクレール作品の考察」 慶應義塾大学21世紀COE心の統合的研究センターシンポジウム『心の探求者としてのパウエル・クレール』（招待講演）, 2006.
- Gyoba, J., Suzuki, M., and Sakuta, Y. 「Qualitative difference of beauty experiences: A classification model of paintings and brain activity while listening to major or minor musical chords」. 'Round Table Meeting on Aesthetics with Professor P.A. Zeki' (Tokyo, Japan; August 1), 2006年8月 招待講演
- 行場次朗 第6回日本感性福祉学会シンポジウム 『人・行為・環境—感性と実践—』 2006年11月 招待講演
- 行場次朗 「アウェアネスとクオリアによる絵画作品分類の試み」 第7回日本イメージ心理学会シンポジウム「芸術とイメージ」 2006年11月 招待講演
- 乾敏郎・行場次朗 「多種感覚の統合と運動」 第71回日本心理学会シンポジウム 2006年11月 企画・指定討論
- 行場次朗 「Pattern Psychophysics の諸問題」 第71回日本心理学会ワークショップ 『心理物理学の温故知新：Fechner Day 日本開催に寄せて』 2006年11月 話題提供
- 行場次朗 第70回日本心理学会ワークショップ『ワーキングメモリと心的イメージ』 2006年11月 指定討論
- 行場次朗 『基礎研究ならではの出会えた隣接領域—画面上での動きの生成と知覚—』 日本基礎心理学会2006年度第2回フォーラム 2006年12月 企画
- 行場次朗 『系統発生的視点から見た知覚、認知』 日本基礎心理学会2007年度第1回フォーラム 2007年6月 企画
- 行場次朗 「感性次元の感覚関連性と脳活動」 第9回日本感性工学会企画セッション『感性をとらえる心理学の諸相』 2007年8月 話題提供
- 行場次朗 第71回日本心理学会ワークショップ『認知領域の知覚・記憶・思考研究間のつながりを考える』 2007年9月 話題提供
- 行場次朗 第71回日本心理学会小講演 寺本渉 『外部空間把握における自己身体運動情報の役割について』 2007年9月 司会
- 行場次朗 『「こころ」ってなんだろう？—心理学が解き明かす心のしくみ—』 2007年度日本基礎心理学会公開シンポジウム 2007年10月 企画
- Gyoba, J. & Oyama. Recent attempts and versatile applications of multi-dimensional

psychophysics. Theme Session, International Society for Psychophysics (Fechner Day 2007) 2007 October Tokyo 企画・講演

Gyoba, J. Investigating sensory-relevance of affective dimensions and the corresponding brain activities. The 6<sup>th</sup> International Symposium on Advanced Technology. Tokyo 2007 November, Invited talk.

行場次朗 「意識論の最前線：心理・神経科学的知見とモデル」 第53回日本心理学会シンポジウム 企画・司会

行場次朗 『芸術とコミュニケーション』 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループシンポジウム特別講演 2008年3月 企画

行場次朗 『触覚とロボット』 日本基礎心理学会 2007年度第2回フォーラム 2008年3月 企画

行場次朗 『感覚間相互作用研究の現在とこれから』 日本基礎心理学会 2008年度第1回フォーラム 2008年5月 企画

行場次朗 日本心理学会第72回大会シンポジウム『意識の諸相』 2008年9月 企画・司会. 話題提供.

日高聡太・行場次朗 「東北大学における古典的実験機器の歴史と現状—京都大学との比較から—」 日本心理学会第72回大会ワークショップ 『国内における実験心理学機器のアーカイブ化の現状と問題点』 2008年9月 話題提供.

#### <国際学会での研究発表>

Suzuki, Y., Watanabe, K., Iwaya, Y., Gyoba, J., Takane, S. 「Adjustment of interaural time difference in head related transfer functions based on listeners' anthropometry and its effect on sound」 Proc. 149th Meeting of the Acoustical Society of America, 2485-2485, 2005.

Gyoba, J., & Suzuki, M., Kawabata, H., Yamaguchi, H. & Komatsu, H. 「Analyses of sensory-relevance of adjective pairs frequently used in the semantic differential method」 The 6th Annual Meeting of the International Multisensory Research Forum, June, (Trento, Italy), 2005.

Suzuki, M., & Gyoba, J. 「Cross-modal mere exposure effects between visual and tactile modalities」 The 6th Annual Meeting of the International Multisensory Research Forum, June, (Trento, Italy), 2005.

Suzuki, M., & Gyoba, J., 「Cross-modal mere exposure effects between visual

- and tactile modalities」 European Conference on Visual Perception, August, (A Coruna, Spain), 2005.
- Sakuta, Y. & Gyoba, J. 「Affective impressions and recognition performances for upright and inverted faces」 European Conference of Visual Perception, August(A Coruna, Spain), 2005.
- Kitaoka, A., Gyoba, J. and Sakurai, K. 「The visual phantom illusion: A perceptual product of surface completion depending on the mechanism of perceptual transparency」 European Conference of Visual Perception, August(A Coruna, Spain), 2005.(Invited talk)
- Sakuta, Y., & Gyoba, J. 「Comparing the recognition performance of component colors and forms with that of the paired or combined stimuli of those components: Focusing on the congruency of impressions」 Tsukuba International Conference on Memory (TIC2005), March , (Tsukuba), 2005.
- Hidaka, S., Kawachi, Y. & Gyoba, J. 「Analyses of Depth Information Contained in Moving 3-D Objects in Apparent Motion Path」 The 4th Asian Conference of Vision, (Matue, Japan; July 29), 2006.
- Hidaka, S., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Analyses of Depth information Contained in Moving 3-D Objects in Apparent Motion Path」 The 4th Asian Conference of Vision, (Matsue, Japan ; July 29),2006
- Honda, A., Shibata, H., Gyoba, J., Saitou, K., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Transfer Effects of Playing a Virtual Three-Dimensional Auditory Game: Influences on the Performance in a Communication Task and a Collision Avoidance Task」 12th International Conference on Auditory Display (UK, London; June 23), 2006.
- Kawachi, Y. & Gyoba, J. An event-irrelevant visual moving object alters audiovisual event perception. The 4th Asian Conference of Vision, (Matue, Japan; July 29), 2006.
- Suzuki, M., Nobuyuki, N., Kawachi, Y., Tashiro, M., Arao, H., Hoshishiba, T, Gyoba, J., & Yanai, K. 「A PET study of brain activities during listening to major and minor musical chords」 First International Workshop on Kansei, (Fukuoka, Japan; February 3), 2006.
- Sakurai, T., Akita, T., Okada, Y., Ishi, H., Sakuta, Y., Gyoba, J., and Akamatsu, S. 「Automatic face image generation system for higher-order impression



- transformation」 Proceeding of International Workshop on Advanced Image Technology (Bangkok, Thailand; January 8), 2007, pp.572-577.
- Fukumitsu, Y., Suzuki, Y., Shibata, H., Koizumi, M., Gyoba, J., & Hagiwara, H.  
「Children's awareness of morpho-syntactic information: an auditory ERP study」  
13th Annual Conference on Architectures and Mechanisms for Language Processing (Turku, Finland; August 26), 2007.
- Hidaka, S., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Depth information contained in the representation of moving 3-D objects in apparent motion perception」 ECVP 2007, (Arezzo, Italy ; August 28), 2007
- Hidaka, S., Satoh, S., and Gyoba, J. 「Psychophysical analyses of the size effects of spatial attention on figure-ground assignment」 Fechner Day 2007, (Tokyo, Japan ; October 22), 2007
- Kawachi, Y., Kawabe, T., Gyoba, J. 「Temporal window of colour-motion binding in the stream/bounce event perception」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Shibata, H. & Gyoba, J. 「Effects of loading a weight on the perceived limb length」 14th International Conference on Perception and Action. (Japan, Kanagawa; July 2-3), 2007.
- Shibata, H. & Gyoba, J. 「Event-related potentials elicited by processing the appropriateness of visually presented cooperative actions」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 30), 2007.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Combined effects of perceptual-grouping cues on object representations revealed by motion-induced blindness」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Ishi, H. & Gyoba, J. (2007) Effects of backward dynamic change of happy and angry facial expressions on the perception of neutral faces, *Perception*, vol36, Suppl., pp.105-106. (2007年8月, Arezzo Italy)
- Suzuki, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Spatial memory bias effects in viewing preferred stimuli」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Suzuki, Y., & Gyoba, G. 「Selective modification of tactile roughness perception in terms of auditory stimuli」 8th International Multisensory Research Forum, (Sydney, Australia; July 5), 2007.

- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Effects of tack-irrelevant sounds on the tactile perception of roughness」 The 23rd Meeting of the International Society of Psychophysics (Tokyo, Japan; October 20), 2007.
- Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Koizumi, M., Gyoba, J., & Hagiwara, H. 「An event-related potential study on semantic congruity during listening to Japanese sentences in children and adults」 13th Annual Conference on Architectures and Mechanisms for Language Processing, (Turku, Finland; August 27), 2007.
- Hidaka, S., Nagai, M., & Gyoba, J. 「Non-reversed motion perception induced by the spatiotemporal reversal of apparent motion sequences」 8th Annual Meeting of Vision Sciences Society (Naples, Florida; May 11), 2008
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Auditory modulation of an ambiguous motion sequence affects the resolution of subsequent motion displays」 Second International Workshop on Kansei, (Fukuoka, Japan; March 6), 2008.
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Crossmodal effects of a single auditory tone on multiple visual events」 31th European Conference on Visual Perception, (Utrecht, The Netherlands; August 25), 2008.
- Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S., & Gyoba, J. 2008 Role of facial impressions and attractiveness on the mere exposure effect. Perception Vol. 37 Supplement (European Conference of Visual Perception 2008 Abstracts), Utrecht, p.35 (2008年8月)
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Temporal window of crossmodal interaction between multiple visual events and a single auditory tone」 Asia Pacific Conference on Vision, (Brisbane, Australia; July 19), 2008.
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Two streams make a bounce: Induced motion reversal by crossing the trajectories of two motion sequences」 Vision Sciences Society 8th Annual Meeting, (Naples, Florida; May 10), 2008.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Effective spatial ranges for perceptual grouping cues in motion-induced blindness」 Asia-Pacific Conference on Vision, (Brisbane, Australia; July 20), 2008.
- Shibata, M., Kawachi, Y., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y., 「Suppressed visual awareness can be recovered by sounds presented in the relevant locations」 31th European Conference on Visual Perception, (Utrecht, Netherlands; August 27), 2008.

- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Sound can enhance visual representational momentum」 IMRF 2008 (Hamburg, Germany; July 16), 2008
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Dynamic auditory cues modulate visual motion processing」 ECVP 2008 (Utrecht, the Netherlands; August, 26), 2008
- Ishi, H., Sakuta, Y., Akamatsu, S., & Gyoba, J. (2009) A Face Image Generation System for Transforming Three Dimensions of Higher-order Impression. IWAIT2009 (2009年1月, 韓国ソウル市)
- Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S., & Gyoba, J. 2009, Psychological evaluation and the applicability of the Impression Transfer Vector method for synthesizing higher-order facial impressions, International Workshop on Advanced Image Technology (IWAIT 2009), Seoul (2009年1月)
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Effects of Sounds on Tactile Roughness Depend on the Congruency between Modalities」 Third Joint Eurohaptics Conference and Symposium on Haptic Interface for Virtual Environment and Teleoperator Systems (World Haptics 2009), 2009.
- Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S. & Gyoba, J. 2009, Mere exposure effect and unconscious processing of facial impression, European Society of Philosophy and Psychology (ESPP 2009), Budapest (2009年8月)
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., and Koizumi, M. 「Effects of development and non-native language activities on the semantic processing of native language in preschool children」 18th International Society for Brain Electromagnetic Topography, 2009.
- Sakamoto, S., Furune, F., Teramoto, W., Sakurai, K., Gyoba, J., Suzuki, Y. 「Effect of vestibular information on sound source distance travelled estimation」 International Multisensory Forum, 2009.
- Hidaka, S., Nagai, M., Bennett, P. J., Sekuler, A. B., and Gyoba, J. 「Impaired luminance detection in apparent motion trajectory」 9th Annual Meeting of Vision Sciences Society, 2009.
- Hidaka, S., Teramoto, W., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Effects of tone-sequence frequency changes on visible persistence of apparently moving visual stimuli」 International Multisensory Forum, 2009.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Completion of a visual motion

representation by auditory information」 International Multisensory Forum, 2009.  
Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Intra- and inter-modal  
completion of a visual motion representation」 European Conference on Visual  
Perception, 2009

<国内学会での一般研究発表>

省略

### 阿部恒之准教授

<招待講演・学会主催シンポジウム>

阿部恒之 「加齢と老化の心理学」, 第4回女性のための抗加齢医学研究会(大  
阪・千里ライフサイエンスセンター, 5月22日), 2005.

阿部恒之(シンポジウムの企画・司会・話題提供) 「外見重視社会における“目  
に見える違い”—コミュニケーション・ステレオタイプ・社会的スキル」,  
日本社会心理学会第47回大会(東北大学, 9月17日), 2006.

阿部恒之・高野ルリ子(シンポジウムの招待講演) 「色彩と容貌印象の心理学  
的関連」, 第32回日本化粧品学会(東京・ヤクルトホール, 6月7日),  
2007.

阿部恒之 「化粧のもう一つの顔—日常生活に組み込まれた感情調整装置」, 第  
62回日本交通医学会総会(仙台・ホテル仙台プラザ, 6月7日), 2008.

阿部恒之 「大学の内外と内から見た昨今の大学事情」, 東北心理学会 63 回大  
会(弘前大学 6月20日), 2009.

阿部恒之 「美しいこと・老いること—美容の心理学」, 日本美容福祉学会第9  
回学術集会特別公開講座(代々木・山野ホール, 10月24日), 2009

<自主企画ワークショップ>

(話題提供) 「化粧を用いた可視性の障害支援と学校教育」 『顔に変形がある  
人々への発達臨床—わが国の特別支援教育のさらなる可能性に向けて』  
日本発達心理学会第17回大会(九州大学, 3月20日), 2006.

(話題提供) 「アロマセラピー・アロマロジー—薬理効果 vs.感情過程」 『味  
覚・嗅覚研究の最前線』 日本心理学会第70回大会(福岡国際会議場,  
11月4日), 2006.

(指定討論者) 『心理学における神経内分泌学』 日本心理学会第70回大会(福

岡国際会議場, 11月3日), 2006.

(指定討論者) 「心的イメージと感情に関する実験心理学的アプローチ」 日本心理学会第72回大会(北海道大学, 9月20日), 2008.

(指定討論者) 「化粧心理学のパラダイム(2)」 日本心理学会第72回大会(北海道大学, 9月21日), 2008.

(連名発表) 嗅覚の単純接触効果—睡眠中の嗅覚刺激呈示が嗜好に及ぼす影響, 日本心理学会第73回大会(立命館大学, 8月27日), 2009.

#### <海外発表>

藤村朋宏・稲垣和正・土屋徹・平尾哲二・阿部恒之 「化粧水・乳液併用使用の有用性評価」 中国中西医结合皮膚性病学術会議(上海・光大会展中心国際大酒店, 9月9日), 2006.

Kikuchi, F.・Sato, T.・Abe, T.・Nihei, Y. 「The effects of the deception as a result of varying contents concerning the possibility of occurrence on ratings of truthfulness and forgiveness」 『XXIX International Congress of Psychology』(ベルリン, 7月22日), 2008

Kikuchi, F.・Sato, T.・Abe, T. 「Is humor a better excuse than a lie?」, The eighth biennial meeting of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, (京都, 7月28日), 2009.

Kawashima, M.・Nagasaki, F.・Nomura, M.・Hikima, R.・Abe, T. 「The modern meaning of 'TOKIMEKI', the Japanese traditional word on the emotional state」, International Society for Research on Emotion 2009 Conference, (ルーベン, 8月7日), 2009.

KIKUCHI, F.・SATO, T.・Abe, T. 「The double-edged sword of humor: Humor appreciation as a key of tolerance for mistakes」, International Society for Research on Emotion 2009 Conference, (ルーベン, 8月8日), 2009.

#### <国内一般発表>

阿部恒之 「化粧行為を調整する“暗黙のドレスコード”」 日本心理学会第70回大会(福岡国際会議場, 11月5日), 2006.

河島三幸・阿部恒之 「体型補整下着の着用決定に及ぼす心理学的特性の検討」 日本感情心理学会第14回大会(広島修道大学, 5月14日), 2006.

北村康宏・菊地史倫・阿部恒之 「アミラーゼ活性と覚醒水準のサーカディアン

- リズム」 北海道・東北心理学会第 10 回合同大会（東北福祉大学国見キャンパス，9 月 30 日），2006).
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「ウソのジレンマ―“ばれないこと”と“赦されること”」 日本認知心理学会第 4 回大会（中京大学，8 月 2 日），2006.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「ウソのジレンマ」 東北心理学会第 60 回大会（東北福祉大学，9 月 30 日），2006.
- 阿部恒之 「感情とマナー―他者の行為への感情評価が自分の行為に及ぼす影響」 日本感情心理学会第 15 回大会（大阪学院大学，5 月 20 日），2007
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「生起確率操作によるウソの検討―“真実性”と“許容性”」 日本感情心理学会第 15 回大会（大阪学院大学，5 月 20 日），2007.
- 庄司耀・阿部恒之 「感情の適応的機能に関する研究」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学，9 月 6 日），2007.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「生起確率操作によるウソの検討―“真実性”と“許容性”」 日本感情心理学会第 15 回大会（大阪学院大学，5 月 20 日），2007.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「生起確率操作によるウソの検討―ウソをつかれるときの信じることと赦すこと」 日本認知心理学会第 5 回大会（京都大学，5 月 26 日），2007.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「日常生活における利己的・利他的動機に基づくウソ」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学，9 月 6 日），2007.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「利他的なウソが自己と他者の感情評価に及ぼす影響」『日本感情心理学会第 16 回大会（吾妻女子大学，5 月 18 日），2008.
- 庄司耀・菊地史倫・阿部恒之 「社会生活マナー形成における感情の役割―エスカレーター乗車に関する調査」 日本感情心理学会第 16 回大会（吾妻女子大学，5 月 18 日），2008.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「強調語が利他的ウソの社会的機能に及ぼす影響」 日本認知心理学会第 6 回大会（千葉大学，6 月 1 日），2008.
- 菊地史倫・阿部恒之・庄司耀・樋口貴弘 「基本精油がもたらすストレス緩和効果の生理心理学的検討」 日本生理心理学会第 26 回大会（琉球大学，7 月 6 日），2008.
- 菊地史倫・阿部恒之・庄司耀 「モラルと感情に関する探索的研究―新聞記事“モラルを問う”への投書内容の検討」 日本心理学会第 72 回大会（北海道大

- 学, 9月21日), 2008.
- 庄司耀・阿部恒之・菊地史倫・樋口貴弘 「ストレス課題に対する香りの認知的効果の検討—印象・嗜好の関連について」 日本心理学会第72回大会(北海道大学, 9月19日), 2008.
- 庄司 耀・阿部恒之「睡眠中の香り接触による生理心理学的変化」 東北心理学会第62回大会(東北大学, 7月19日), 2008.
- 佐藤智穂・阿部恒之「メーキャップが顔の知覚に及ぼす影響」 東北心理学会第62回大会(東北大学, 7月19日), 2008.
- 佐藤智穂・阿部恒之「アイシャドーが目の大きさ知覚に及ぼす影響」 日本顔学会第13回大会(東京大学, 10月11日), 2008.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「ユーモア知覚が過失に対する寛容さに及ぼす影響」 日本感情心理学会第17回大会(徳島大学, 5月31日), 2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「他者との関係維持方略としてのウソ」, 東北心理学会第63回大会(弘前大学, 6月20日), 2009.
- 菊地史倫・庄司耀・阿部恒之 「嗅覚の単純接触効果—睡眠中の嗅覚刺激呈示が嗜好に及ぼす影響」 日本認知心理学会第7回大会(立教大学, 7月19日), 2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「ユーモアによる過失の言い訳—笑い反応の表示効果」 日本心理学会第73回大会(立命館大学, 8月26日), 2009.
- 佐藤智穂・阿部恒之 「手・爪の美しさについて—手と爪の形状の相互作用」 東北心理学会第63回大会(弘前大学, 6月20日), 2009.
- 佐藤智穂・阿部恒之 「手の美しさと爪の形状の関連」 日本心理学会第73回大会(立命館大学, 8月28日), 2009.
- 長崎英美・河島三幸・野村美佳・阿部恒之 「『ときめき』という心理現象の実態把握—対象と生理反応の自覚を中心に」 日本心理学会第73回大会(立命館大学, 8月27日), 2009.
- 加藤ちあき・阿部恒之 「学生生活における気晴らしに関する心理学的研究」 東北心理学会第63回大会(弘前大学, 6月21日), 2009.
- 設楽茉莉絵・阿部恒之 「性別判断に及ぼす顔の色彩情報の影響」 東北心理学会第63回大会(弘前大学, 6月20日), 2009.

## 辻本昌弘准教授

### <招待講演・学会主催シンポジウム>

辻本昌弘（企画・司会） 「Well-being を希求する人類のいとなみ」 日本社会心理学会第 47 回大会シンポジウム（東北大学, 9 月 17 日）, 2006.

辻本昌弘 「地域社会の歴史と相互協力」 『聞くこととしての時間—生きた時間の記述』 日本質的心理学会第 4 回大会 大会シンポジウム（奈良女子大学, 9 月 30 日）, 2007.

辻本昌弘 「地域社会の事例による社会的交換の検討」 グローバル COE「心の社会性に関する教育研究拠点」第 3 回一般公開ワークショップ（東京工業大学, 3 月 9 日）, 2008.

辻本昌弘 「ナラティブと生活実践」 『ナラティブ・アプローチの向こう側：質的研究の豊饒化に向けて』 日本質的心理学会第 5 回大会 研究交流委員会企画シンポジウム（筑波大学, 11 月 30 日）, 2008.

### <自主企画ワークショップ>

なし

### <海外発表>

なし

### <国内発表>

小池心平・中丸麻由子・辻本昌弘 「経済的講集団における面識関係の活用と社会的ジレンマ」 第 47 回数理社会学会大会（京都産業大学, 3 月 7 日）, 2009.

## 荒木剛助教（2008 年度以降の業績）

### <国内発表>

荒木 剛・佐藤 拓・菊地史倫・池田和浩 「侵入思考に対する自我違和的評価と関連する諸要因—パーソナリティ、統制感の影響—」 東北心理学会第 62 回大会（東北大学, 7 月 20 日） 2008.

荒木 剛・佐藤 拓・菊地史倫・池田和浩 「侵入思考に対する自我異和的評価と関連する諸要因 - パーソナリティ、対処スタイルの影響 -」 日本パーソナリティ心理学会第 17 回大会（お茶の水女子大学, 11 月 15 日、16 日）, 2008



荒木 剛・佐藤拓・菊地史倫・池田和浩. 「侵入思考に対する自我違和的評価と対処方略の関係 ―縦断的検討―」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.

荒木 剛. 「ペシミズム (悲観主義) の positive な側面」 日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会企画シンポジウム『パーソナリティを多面的に捉える』 (東北大学、7 月 25 日), 2009.

荒木 剛・佐藤拓・菊地史倫・池田和浩. 「侵入思考に対する自我違和的評価とコーピングの関係」 日本行動療法学会第 35 回大会, 2009.

## 2 教員の受賞歴 (2005 年度～2009 年度)

### 仁平義明教授

菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「第 15 回日本感情心理学会優秀発表賞」, 2007 年

佐藤拓・仁平義明 「第 6 回日本認知心理学会優秀発表賞」 2008 年

池田和浩・仁平義明 「日本心理学会優秀論文賞」 2009 年

### 大淵憲一教授

平成 17 年度経営行動科学学会奨励研究賞 (2005 年度)

### 行場次朗教授

鈴木美穂・行場次朗: 「日本認知心理学会優秀発表賞 (新規性部門)」, 2005 年 9 月 1 日

渡邊貫治・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一・高根昭一: 「(財) 船井情報科学振興財団船井ベストペーパー賞」, 2005 年 9 月 8 日

日高聡太・行場次朗 「第 5 回日本認知心理学会優秀発表賞 (発表力評価部門)」, 2007

河地庸介・行場次朗 「電子情報通信学会平成 19 年度ヒューマンコミュニケーション賞」, 2007.

### 阿部恒之准教授

菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「第 15 回日本感情心理学会優秀発表賞」, 2007

#### 辻本昌弘准教授

辻本昌弘・國吉美也子・與久田巖「第10回日本社会心理学会奨励論文賞」、2008年

#### 荒木剛助教（2008年度以降）

なし

### IV 教員による競争的資金獲得（2005年度～2009年度）

#### （1）科学研究費補助金

##### 仁平義明教授

仁平義明, 科学研究費補助金（萌芽研究・研究代表者） 「ことばで説明しにくいものの説明：運動の言語的説明に関する研究」（2006年度-2008年度）

仁平義明, 科学研究費補助金（基盤研究(B)・分担研究者） 「実験心理学における古典的実験機器のアーカイブ化とその活用」（2007年度）

仁平義明, 科学研究費補助金（基盤研究(B)・研究代表者） 「発達障害児のリジリエンシー（心の回復力）の形成要因に関する研究」（2008-2010年度）

##### 大淵憲一教授

科学研究費補助金（基盤研究(B)(2)、研究代表者） 「公共事業政策の評価と合意形成の社会心理学的研究：手続き的公正理論の応用」 2003年度～2006年度

科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)、研究分担者） 「精神科作業療法のための適応機能評価尺度の開発」 2003年度～2005年度

科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)、研究分担者） 「異文化間コンフリクトと教育価値観に関する研究」 2003年度～2005年度

文学研究科21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」（事業推進担当者） 2003年度～2007年度

科学研究費補助金（萌芽研究、研究代表者） 「日本思想からみた正義・公正観念：社会心理学的検討」 2007年度～2009年度

科学研究費補助金（基盤研究(B)、研究分担者） 「中高年者の高次脳機能と筋運動機能および生活習慣との関連に関する神経心理学的研究」 2007年度～

科学研究費補助金（基盤研究(B)、研究分担者） 「脳画像の適正な社会的使用のための基礎研究」 2008年度～

科学研究費補助金（基盤研究(C)、研究分担者）「教育価値観と葛藤解決の包括的研究：国際比較と世代間比較」2008年度～

グローバル COE「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」（事業推進担当者）2008年度～

## 行場次朗教授

科学研究費補助金基盤研究(B)「顔の多義的・総合的印象を創出する高次元ダイナミックモデルの構築とイメージ処理応用」2003～2005年度 分担

科学研究費補助金萌芽研究「感性イメージのマルチモダリティ関連度を定量化する新手法の開発」2004年度～2005年度 代表

科学研究費補助金基盤研究(B)(2)「顔の多義的・統合的印象を創出する高次元ダイナミックモデルの構築とイメージ処理応用」2003年度～2005年度 分担

文部科学省学術フロンティア推進事業「五感を介する刺激測定に基づく健康向上のための人間環境システムの構築」（2004～2008年度）分担

科学研究費補助金「特定領域研究（公募研究）」「PETによる分子・機能イメージングを組み合わせたヒトの認知・注意・感情の機能研究」（2005～2007年度） 分担

科学研究費補助金「基盤研究（B）（一般）」「「心のデザイン」モデルによる視覚芸術の特性と脳内基盤の解明」（2006～2008年度） 代表

科学研究費補助金「萌芽研究」「短調美と長調美の特質と脳内基盤の差異」（2006～2008年度） 代表

科学研究費補助金「基盤研究（B）（一般）」「顔と物体の高次視覚印象の予測モデルと共通的感性にもとづく造形デザインへの応用」（2006～2008年度） 分担

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「児童青年期精神障害および高齢者関連疾患における先進的個別化予防ケアシステムの構築に関する研究」（2008～2012年度） 分担

科学研究費補助金「基盤研究（C）（一般）」「「意味微分法で抽出される感性次元の脳内基盤の解明」（2009～2011年度） 代表

科学研究費補助金「基盤研究（B）（一般）」「顔の視覚像が感性印象に寄与する因子の実験的・心理学的分析」（2009～2011年度） 分担

科学研究費補助金「特別推進研究」「マルチモーダル感覚情報の時空間統合」 分担

科学研究費補助金「基盤研究（B）（一般）」「実験心理学における古典的実験機器のアーカイブ化とその活用」 分担

#### 阿部恒之准教授

「ハイパー・ダイアログの包括的理解」（研究分担者），基盤研究（C）2150002，  
（研究代表者：戸島貴代志），2009年度～2011年度

#### 辻本昌弘准教授

科学研究費補助金若手研究(B) 「頼母子講による資源交換と相互協力に関する社会心理学的研究」（2003～2005年度） 代表

科学研究費補助金若手研究(B) 「地域社会における資源交換と相互協力」（2006年度～2008年度） 代表

東北大学 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」（2005年度～2007年度） 事業推進担当者

東北大学グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」事業推進担当者（2008年度～）

科学研究費補助金若手研究（B） 「アルゼンチン日系人の文化変容」（2009年度～） 代表

#### 荒木剛助教（2008年度以降）

科学研究費補助金若手研究（スタートアップ） 「侵入思考に対する自我異和的評価と思考抑制の関係」（2008～2009年度） 代表

## （2）その他

#### 仁平義明教授

三井住友海上福祉財団研究助成 研究課題「交通事故加害者の心理的苦悩からの回復過程：「ゆるし」への支援」（研究代表者：2005年度）

総長裁量経費「地域社会を災害から守るための防災科学研究拠点の形成と地域連携事業の構築」（分担研究者：2007・2008・2009年度）

#### 大淵憲一教授

なし

#### 行場次朗教授

なし

#### 阿部恒之准教授

- 平成 18 年度社団法人日本アロマ環境協会研究助成（2006 年 10 月～2007 年 9 月）  
（株）資生堂 共同研究「現代女性における理想的な手及び爪の形態に関する心理学的研究」（2008 年 10 月～2009 年 9 月）  
（株）カネボウ 共同研究「ときめきの心理学的研究」（2008 年 10 月～2009 年 3 月）  
（株）カネボウ 共同研究「ときめきの心理学的研究(2)」（2009 年 4 月～2009 年 9 月）  
（株）任天堂 共同研究「エンタテインメントとスマートエイジングの研究」（研究代表者の加齢研より研究分担，2009 年 10 月～2010 年 9 月）

#### 辻本昌弘准教授

- 東北開発記念財団 海外派遣援助金（2007 年度）

#### 荒木剛助教（2008 年度）

なし

### V 教員による社会貢献（2005 年度～2009 年度）

<委員等>

#### 仁平義明教授

- 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員（2004～2005）  
日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2004～2005）  
日本学術会議連携会員（2006 年 3 月～2011 年 9 月）  
日本学術会議心理学教育分科会委員（2006 年～）  
日本学術会議脳と意識分科会委員（2006 年～）  
日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2008・2009）  
日本学術振興会審査・評価第一部会専門委員（2008・2009）  
日本学術振興会特別研究員等審査会委員（2009）  
八戸工業高等専門学校「文部科学省学生支援 G P」外部アドバイザー（2008）  
宮城県立こども病院倫理委員会外部委員（2004～現在）  
宮城県立こども病院治験審査委員会外部委員（2004～現在）  
東北放送番組審議会委員（2009～）  
NPO 法人ワンダーポケット（宮城県立こども病院ボランティア支援団体）理

事 (2003～2009)

#### 大淵憲一教授

日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (2003～2006 年度)  
日本学術会議連携委員 (2005 年度～)  
日本社会安全研究財団評議員 (2006 年度～)  
放送大学客員教員 (宮城学習センター所属) (2004 年度～)  
文部科学省科学技術・学術審議会専門委員 (2007 年度～)  
文部科学省科学研究費補助金における評価に関する委員会評価者 (人文・社会系) (2007 年度～)  
学位評価・授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員 (2007 年度～2008 年度)  
独立行政法人社会技術研究開発センター評価委員会専門委員 (2009 年度～)  
仙台地方裁判所委員会委員 (2009 年度～)

#### 行場次朗教授

文部科学省科学技術動向研究センター専門調査員 (2001 年度～現在)  
日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (2005 年度～2009 年度)  
大学基準協会評価委員 (2006 年度～2008 年度)

#### 阿部恒之准教授

なし

#### 辻本昌弘准教授

なし

#### 荒木剛助教 (2008 年度以降)

なし

<公開講座・公開シンポジウム・公開講演等>

#### 仁平義明教授

仁平義明　　せんだい男女共同参画財団／ひと・まち交流財団共催講座 (八本松市民センター)、講演「お父さんの子育て～心の回復力を育む～」2005 年 2

月 20 日

仁平義明 平成 17 年度仙台市太白区児童福祉協議会連絡協議会研修会（仙台市太白区役所）、講演「こどもたちはお母さん・お父さんの何に感謝をしているか」、2006 年 3 月 3 日

仁平義明 北海道大学・東北大学・東京大学・東京工業大学・九州大学「アカデミック・ハラスメント」防止対策のための 5 大学合同研究協議会主催（後援：東京大学教養学部教養教育開発機構）－公開シンポジウム－「アカデミック・ハラスメントの現状と対策」（東京大学教養学部）、講演「アカデミック・ハラスメント防止ガイドライン作成のための提言：提言の趣旨」、2006 年 3 月 26 日

仁平義明 NPO 法人ワンダーポケット主催 チャイルド・ライフ支援ボランティア講座（仙台厚生病院熊谷・海老名ホール）子どもの心の回復力（レジリエンシー）を育てる」2006 年 9 月 2 日

仁平義明 SOS (Socio-Orthodontics-Society) セミナー（仙台歯科医師会館）講演「エラー学入門」 2006 年 9 月 7 日

仁平義明 東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター主催「チャレンジ防災講座（2006 年度）」（エルパーク仙台）講演「子どもに災害をどう伝えるか—防災教育のカリキュラムのヒント—」2006 年 7 月 27 日

仁平義明 東京都江東区男女参画推進センター主催 講演会 講演 「親と子の“心の回復力”を育てる」（東京・江東区男女参画推進センター） 2006 年 11 月 25 日.

仁平義明 宮城県土木部防災リーダー養成講座（宮城県庁） 講演「心理学から考える防災教育—4つのタイプの防災知識—」 2007 年 1 月 26 日.

仁平義明 平成 18 年度宮城県消防職員幹部研修会（仙台消防局） 講演「消防職員（firefighters）に関する心理学的研究の現状」 2007 年 1 月 31 日.

仁平義明 仙台豊齢学園主催 ふれあい福祉コース講座「社会貢献活動⑥—高齢者の社会貢献」（於仙台市シルバーセンター） 講演「“ユーモアも社会貢献か”」 2007 年 7 月 2 日.

仁平義明 東北大学工学研究科付属災害制御研究センター主催「チャレンジ防災講座」（エルパーク仙台） 「東北 6 県全市町村の防災教育ニーズを分析する」2007 年 7 月 18 日.

仁平義明 NPO 法人スペシャルオリックス日本・宮城 「ボランティアコーディネーター養成講座」（仙台戦災復興記念館） 講演 「自閉症児の特別

な才能観の見直しー障害者の能力をほんとうに活かすためにー」 2007年9月29日.

仁平義明 宮城県特別支援教育センター開放講義 「子どもに障害をどう説明すればいいのか」 (宮城県特別支援教育センター) 2007年12月5日. 仁平義明 山形県庄内保健所・庄内児童相談所主催 平成19年度児童虐待防止研修会講演 「児童虐待の世代間連鎖を予防するためにー子どもの心の回復力(レジリエンシー)を育てる条件」 (鶴岡市勤労者会館 11月9日), 2007.

仁平義明 第35回日本臨床矯正歯科医会大会 講演 「レジリエンシーを育てる矯正歯科治療」(栃木県総合文化センター 11月14日), 2007.

仁平義明 宮城県立こども病院「倫理に関する研修会」講演 「医療の場におけるあやまち・謝罪・ゆるしを考える」(宮城県立こども病院愛子ホール 12月25日), 2007.

仁平義明 宮城県金融広報委員会平成19年度金融広報アドバイザー研修会 講演 「人はなぜ悪徳商法にだまされるかー心理学的アプローチから」(宮城県庁 1月10日), 2008.

仁平義明 八戸工業高等専門学校新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)「地域資源と学寮を活用した人間力の育成」講演「メンターが育てる心の回復力」(八戸工業高等専門学校 2月6日), 2008.

仁平義明 社団法人神奈川学習障害教育研究協会(神奈川LD学会)2007年度冬のセミナー 「子どものレジリエンシー(心の回復力)を育てる」(ウィング横浜 2月10日), 2008.

仁平義明 宮城県・財団法人自治総合センター主催 地域防災力支援シンポジウム 「宮城県沖地震に備えた地域における防災教育」(仙台国際センター 3月27日), 2008.

仁平義明 東北大学主催 東北大学新入生歓迎セミナー「東北大学の最先端と未来」 「文化としてのカラスの自動車利用行動」(仙台国際センター 4月5日), 2008.

仁平義明 広島市矯正歯科医会創立25周年記念講演 「人間力の考え方の転換ーハーディネス(心の頑健さ)からレジリエンシー(心の回復力)へー」(広島市歯科医師会館 6月1日), 2008.

仁平義明 日本自閉症スペクトラム学会「自閉症スペクトラム支援士」北海道支部資格認定講座 講義「自閉症者の”特別な才能”を見直す」(石狩市保健福祉総合センターりんくる 8月10日), 2008.



- 仁平義明 財団法人東北自治研修所 第108回東北六県管理者研修（地震防災）  
講演「東北自治体の防災ニーズと防災の心理学」（東北自治研修所 10月  
31日）, 2008.
- 仁平義明 福島大学人間発達文化学類 学術講演会 「レジリエンシー（心の回  
復力）研究の最前線」（福島大学 10月28日）, 2008.
- 仁平義明 福島県臨床心理士会主催 第10回こころの健康会議 基調講演「子  
どもの心の回復力（レジリエンシー）を育てる」（福島医科大学 11月16  
日）, 2008.
- 仁平義明 宮城県立こども病院安全対策講習会講演「エラー学入門」（宮城県  
立こども病院 12月15日）, 2008.
- 仁平義明 公開シンポジウム in Fukushima 2009 「発達障害のある子どもの心  
の回復力（レジリエンシー）を考える 基調講演「心の回復力（レジリエ  
ンシー）研究と実践の動向」（コラッセふくしま 2月7日）, 2009.
- 仁平義明 「南光台学院」記念講話 「人間はだまされるようにプログラムされ  
ている」（南光台市民センター 2月20日）, 2009.
- 仁平義明 福島大学学生支援グループ・学生生活委員会講演会 「大学生の心の  
回復力を考える—強い心からしなやかな心へ」（福島大学 2月27日）,  
2009.
- 仁平義明 仙台ロータリークラブ講演「人間力育成の世界的転換—ハーディネス  
（心の強さ）からレジリエンシー（心の回復力）へ」（ホテルメトロポリ  
タン仙台 4月14日）, 2009.
- 仁平義明 東北大学災害防止対策全学講習会 講演「安全の心理学」（東北  
大学 金属材料研究所講堂 6月12日）, 2009.
- 仁平義明 平成21年度（第29回）「仙台の教育を語る会」シンポジウム 基調  
講演 「心のつよさ（ハーディネス）から心の回復力（レジリエンシー）へ  
—子どもの心に今求められているものは何か—」（仙台市ホテル白萩 7月9  
日）, 2009.
- 仁平義明 第49回仙台市私立幼稚園PTA連合研修大会 講演「子どもの心の回  
復力を育てる」（仙台市イズミティ 21 9月3日）2009.
- 仁平義明 須賀川養護学校郡山分校教育講演会 「人間関係で傷ついた子ども  
の心の回復力を育てる」（須賀川養護学校郡山分校 9月25日）, 2009.

- 大淵憲一 「指導者のための組織心理学」国土交通省第航空管制官訓練教官養成特別研修（国土交通省航空保安大学岩沼分校、2005年7月26日、2006年1月16日、2007年7月10日）
- 大淵憲一 「人間関係の意味を考える：社会的排斥と不適応」 放送大学公開講座（仙台日専連ビブレ、7月2日）、2005
- 大淵憲一 「社会的排斥と不適応行動」福島大学総合教育研究センター学術講演会（福島大学、1月16日6月21日）、2006.
- 大淵憲一 「非行の3要因：ストレス、仲間集団、絆の弱さ」第28回いわき市青少年非行防止推進大会記念講演（いわき市市民会館、7月24日）、2006.
- 大淵憲一 「犯罪原因論について：発達の観点を中心に」平成18年度家庭裁判所調査官実務研究会（裁判所職員総合研修所仙台分室、10月4日）、2006
- 大淵憲一 「性犯罪の心理と再犯予防対策」平成18年度宮城県防犯教室指導者講習会（宮城県庁講堂、11月29日）、2006
- 大淵憲一 「暴力犯罪者の心理」平成19年度保護司特別研修（福島県穴原温泉摺上亭大島、6月21日）、2007
- 大淵憲一 「青少年の暴力」放送大学宮城学習センター・オープンキャンパス・ミニ講義（放送大学宮城学習センター、7月14日）、2007
- 大淵憲一 「社会的排斥と不適応行動」高大連携事業地域開催公開講座「東北大学公開講座」（宮城県仙台第一高等学校、8月2日）、2007
- 大淵憲一 「男性・女性の心理学：夫婦関係の理解のために」仙台調停協会講演会（仙台地方裁判所、10月2日）、2007
- 大淵憲一 NHK 総合テレビ番組「ためしてガッテン：怒りの心理学」企画協力（2007年11月7日放送）
- 大淵憲一 「児童虐待と親を巡る問題（講演者本間博彰）（企画・司会）犯罪心理学会東北地区研究会講演会（東北大学さくらホール、2008年3月29日）.
- 大淵憲一 「ADRの心理学」境界紛争解決支援センターふくしま設立準備委員会主催ADR相談員・調停員養成講座（郡山市労働福祉会館、2008年5月31日）.
- 大淵憲一 「社会的排斥と不適応行動：実験社会心理学的検討」．第5回群馬大学社会心理学セミナー（群馬大学ミューズホール、10月23日）、2008.
- 大淵憲一 「社会心理学入門：人の心を推測する」．秋田県能代高等学校出前授業（11月12日）、2008
- 大淵憲一 「社会心理学からみた現代の子ども達の心：家族内の暴力事件の分析から」．石巻保健教育研究会講演会（石巻市こもれびの降る丘遊楽館、12月2

日), 2008.

大淵憲一「家族と暴力」. ひょうご講座(兵庫県民会館, 6月5日), 2009.

大淵憲一「実証研究に基づく犯罪原因論: 統制理論と緊張理論の展開」. 法務省  
矯正研修所講義(法務省矯正研修所, 9月25日), 2009.

大淵憲一「裁判と心理学」. 放送大学宮城学習センター入学者の集い・講話(東  
北大学金属材料研究所9月27日), 2009.

大淵憲一「ストレスと非行: ストレイン理論の展開」. 仙台家庭裁判所研修(仙  
台家庭裁判所, 10月1日).

### 行場次朗教授

行場次朗 電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会 電気通信研究所 2001  
年から毎年12月 企画

行場次朗 特別講演会 Prof. N. Wade 『Space and motion in science and art』 東北  
大学文学研究科 2006年11月10日 企画・司会

行場次朗 特別講演会 Prof. V. Sarris 『Relational psychophysics』 東北大学文学研  
究科 2007年10月26日 企画・司会

行場次朗 日本感性福祉学会第8回大会 特別講演 原島博 教授 『コミュニケー  
ション技術は文化の創造を目指す』 2008年11月16日 企画・司会

行場次朗 日本基礎心理学会第27回大会 特別講演 Prof. M. E. McCourt  
『Brightening Prospects for Understanding the Neural Coding of Perceived  
Luminance: Lessons from 25 Years of Research on Grating Induction』 2008年12  
月6日 企画・司会

行場次朗 特別講演会 Associate Prof. J. M. Brown 『Visual Streams and Shifting  
Attention』 東北大学文学研究科 2008年12月15日 企画・司会

### 阿部恒之准教授

講義「化粧品心理効果」, 日本化粧品技術者会主催・化粧品技術基礎講習会(有  
楽町・朝日ホール等), 2000-2009

講義「化粧品と心理」, 西日本化粧品工業会等主催・化粧品技術基礎講習会(大  
阪・大阪商工会議所国際会議ホール等), 2003-2009

講義「化粧の心理学」, 資生堂学園・資生堂美容技術専門学校授業(東京・同校),  
2003-2005

講演「慈しむこと・飾ること—化粧の心理学」, 聖路加同窓会主催講演会(東京・

- 聖路加大学, 3月5日), 2005
- 講演「化粧品潮流」, マツモト交商主催・第9回化粧品原料基礎セミナー(大阪・梅田センタービル, 5月25日; 東京・こまばエミナース, 6月2日), 2005
- 講演「メーキャップの心理学」, 神奈川科学技術アカデミー教育講座(神奈川・かながわサイエンスパーク, 3月22日), 2006
- 講義「化粧の心理学」, 文化服装学院スタイリスト科2年ファッションモデルコース(新宿・同校), 2006-2007
- 講演「生きることの形」, 有備館講座(宮城県大崎市・スコーレハウス, 6月16日), 2007
- 講演「美しさの起源—化粧とふるまいの心理学」, フォーラム21・梅下村塾(軽井沢・富士ゼロックス「軽井沢倶楽部」, 7月14~15日), 2007
- 講演「化粧心理学—美しさを科学する」, 仙台放送社員向け講演会(仙台・仙台放送社屋, 7月24日), 2007
- 講演・展示「心理学の百年・心理学研究室の五十年」, 東北大学百周年記念祭・文学研究科展示(東北大学片平キャンパス, 8月25~26日), 2007
- 講演「喜怒哀楽に揺れる心と化粧」, みやぎ県民大学(東北大学南キャンパス, 9月22日), 2007
- 講義「心理学入門—心の不思議を探る」, 宮城県立石巻高校特別授業(10月25日), 2007
- 講演「化粧に向けられた心理学のまなざし」, 東北大学心理学研究室茶話会/日本認定心理士会北海道・東北支部研修会(メディアテーク仙台, 2月22日), 2008
- 講義「心理学入門—心の謎をいかに探るか」, 宮城県立第二女子高校特別授業(11月13日), 2008
- 講演「美しく生きる—化粧と心」, 資生堂学園創立50周年記念特別セミナー(東京・資生堂学園, 3月14日), 2009
- 講演「心の謎を見つけ, 課題を立てる—方法論再考」, みやぎ県民大学・教免許状更新講座(東北大学南キャンパス, 9月14日), 2009
- 講義「心理学入門」, 山形県立山形東高校特別授業(10月6日), 2009

#### 辻本昌弘准教授

福島県立安積高等学校模擬授業(2008年9月25日)

福島県立安積黎明高等学校「大学・学問体験講座」(2008年11月5日)  
斎理蔵講座「南米の日系人を訪ねて」(2009年6月6日)

**荒木剛助教(2008年度以降)**

北海道教育大学ミニ講演会「人間発達と心理学」(2008年7月12日)  
秋田県立本荘高等学校模擬講義「心の仕組みを探る ―心理学入門―」(2009年  
7月8日)

**VI 教員による学会役員等の引き受け状況(2005年度～2009年度)**

**仁平義明教授**

日本心理学会議員(2001～現在)  
日本音楽知覚認知学会理事・編集委員(1999～2009)  
日本音楽知覚認知学会監事(2009～)  
『心理学評論』編集委員(2002～2007)  
日本認知心理学会理事・編集委員・日本認知心理学会独創賞選考委員(2003  
～2005年度)  
日本心理学会常務理事(2009～)  
日本心理学会優秀論文賞選考委員(2009～)  
日本心理学会倫理委員会委員長(2009～)  
日本心理学会公益社団法人化特別委員会委員長(2009～)  
日本心理学諸学会連合教育委員会委員(2009～)  
日本認知心理学会安全研究部会長(2003～現在)  
日本認知心理学会理事(2009～)  
日本音楽知覚認知学会会長(2007～2009)  
日本認定心理士会北海道・東北支部長(2007～2009)  
日本自閉症スペクトラム学会評議員(2008～現在)  
Tohoku Psychologica Folia Chief editor(2005～現在)  
The 10<sup>th</sup> International Conference on Music Perception and Cognition 準備委員  
(2008)  
SARMACVIII (The 8<sup>th</sup> Meeting of the Society for Applied Research in Memory &  
Cognition) 準備委員(2009)

## 大淵憲一教授

- ”Psychology, Crime, and Law”誌編集委員 (2001 年度～)
- ”Tohoku Psychologica Folia”誌副編集長 (2001 年度～)
- 日本グループ・ダイナミックス学会常任理事 (2001～2005 年度)
- 日本グループ・ダイナミックス学会副編集長 (2003 年度～2005 年度)
- 日本グループ・ダイナミックス学会理事 (2009 年度～)
- 日本犯罪心理学会編集委員 (2001 年度～)
- 日本犯罪心理学会会長 (2003 年度～2005 年)
- 日本犯罪心理学会常任理事 (2006 年度～)
- 日本心理学諸学会連合理事 (2003 年度～2005 年)
- 日本心理学会副編集長 (2003～2005 年度)
- 日本心理学会編集委員 (2001～2005 年度)
- 日本心理学会理事 (2006 年度～2008 年度)
- 日本心理学会代議員 (2009 年度～2011 年度)
- 日本心理学会倫理委員会委員(2006 年度～2008 年度)
- 日本心理学会将来構想検討委員会委員 (2006 年度～)
- 日本社会心理学会常任理事 (2006 年度～2008 年度)
- 日本社会心理学会理事 (2005 年度～2008 年度)
- アジア社会心理学会副編集長 (2004 年度～2008 年度)
- アジア社会心理学会副会長 (President Elect) (2006 年度～2007 年)
- 日本応用心理学会理事 (2006 年度～)
- 第 16 回世界犯罪学会大会組織委員会委員 (2008 年度～)

## 行場次朗教授

- 東北心理学会幹事 (1998 年度～)
- 日本認知心理学会理事・企画委員会委員長 (2003 年度～2008 年度)
- 日本基礎心理学会常任理事 (2005 年度～)
- International Conference on Computer Vision Theory and Applications プログラム委員 (2005 年度～)
- 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ委員長(2007 年度)
- 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ顧問 (2008 年度)
- 日本心理学会編集委員会副編集委員長 (2008 年度～)
- 日本心理学会理事 (2009 年度～)

日本認知心理学会常務理事 (2009 年度～)

#### 阿部恒之准教授

日本生理心理学会 評議委員 (2004 年～)

日本感情心理学会 副編集委員長 (2007 年～)

#### 辻本昌弘准教授

質的心理学研究常任編集委員 (2005 年度～2007 年度)

日本グループ・ダイナミックス学会理事 (2007 年度～2008 年度)

日本社会心理学会 学会大会検討委員 (2007 年度～)

#### 荒木剛助教 (2008 年度以降)

なし

### Ⅶ 教員の教育活動 (2009 年度)

#### (1) 学内授業担当

##### 1 大学院授業担当

仁平義明教授

心理学総合演習 I

心理学研究演習 I

心理学総合演習 II

心理学研究実習 II

課題研究

大淵憲一教授

心理学研究演習 II

心理学総合演習 I (分担)

心理学総合演習 II (分担)

課題研究

行場次朗教授

心理学研究実習

心理学研究演習 III

課題研究

阿部恒之准教授

心理学研究演習 IV

実験心理学特論

心理学総合演習Ⅰ（分担）

心理学総合演習Ⅱ（分担）

心理学研究実習Ⅰ・Ⅱ（Ⅰは主担、Ⅱは分担）

課題研究

辻本昌弘准教授

心理学研究演習Ⅴ

心理学総合演習Ⅰ

心理学総合演習Ⅱ

心理学研究実習Ⅰ

心理学研究実習Ⅱ

社会心理学特論

課題研究

## 2 学部授業担当

仁平義明教授

応用心理学各論

心理学基礎実験

心理学基礎実験

応用心理学演習

大淵憲一教授

社会心理学概論

社会心理学演習

社会心理学基礎講読

社会心理学各論

心理学研究法

心理学基礎実験（分担）

行場次朗教授

心理学基礎実験

心理学研究法

実験心理学概論

実験心理学基礎講読

実験心理学各論



阿部恒之准教授

実験心理学概論

心理学基礎実験（前期は主担、後期は分担）

実験心理学演習

心理学研究法（分担）

辻本昌弘准教授

社会心理学概論

心理学基礎実験

文化心理学各論

文化心理学演習

心理学研究法

荒木剛助教

心理学基礎実験

### **3 共通科目・全学科目授業担当**

仁平義明教授

心理学

学生生活概論

大淵憲一教授

心理学

行場次朗教授

人文社会総論

阿部恒之准教授

人文社会総論（1コマ担当）

心理学（法学部・経済学部）

辻本昌弘准教授

心理学

### **（2）他大学への出講（2005年度～2009年度）**

仁平義明教授

宮城学院女子大学（2001～現在）

尚綱学院大学（2004～現在）

京都大学（2008年度）

九州大学 (2008 年度)

新潟大学 (2009 年度)

大淵憲一教授

放送大学 (2001 年度～)

宮城学院女子大学 (2001 年度～)

聖和短期大学 (2004 年度～)

ノースアジア大学法学部 (2004 年度～)

名古屋大学文学部 (2005 年度)

大阪大学人間科学部 (2005 年度)

いわき明星大学 (2006 年度)

東北学院大学教養学部 (2009 年度)

行場次朗教授

東北福祉大学福祉心理学科 (2001 年度～)

仙台市立看護専門学校 (2001 年度～2008 年度)

放送大学宮城学習センター (2001 年度～)

宮城大学事業構想学部・看護学部 (2004 年度～2005 年度)

福島大学人間発達文化学類非常勤講師 (2006 年度～)

北海道大学大学院教育学研究科非常勤講師 (2007 年度)

日本大学人文学部非常勤講師 (2007 年度)

大阪大学大学院人間科学研究科非常勤講師 (2007 年度)

阿部恒之准教授

福島学院大学福祉学科 (2003 年度～)

福島学院大学大学院臨床心理学研究科 (2007 年度～)

尚絅学院大学人間心理学科 (2005 年 10 月・後期特別講演会)

武蔵野大学薬学科 (2006 年度～, 2007 年度より客員教授)

山形大学 (2007 年度)

琉球大学 (2008 年度)

新潟大学 (2008 年度)

昭和女子大学 (2009 年度)

辻本昌弘准教授

いわき明星大学 (2004 年度～)

東北文化学園大学 (2005 年度～2008 年度)

聖和学園短期大学 (2005 年度～2007 年度)

北海道大学（2006年度）

荒木剛助教（2008年度以降）

東北学院大学教養学部（2008年度～）

福島大学人間発達文化学類（2008年度）

仙台医療福祉専門学校（2009年度～）

山形大学人文学部（2009年度）